

無線LAN親機

WXR-2533DHP2

エアステーション設定ガイド

<https://www.buffalo.jp/>

目次

第1章 はじめに	8
操作方法について	8
電波に関する注意	8
無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意 ...	9
動作環境	10
各種ソフトウェアのご紹介	11
エアステーション設定ツール (Windows/Mac用)	11
第2章 本製品の設定画面	12
かんたん設定と詳細設定について	12
エアステーション設定ツールのインストール	13
設定画面を表示する	13
Windowsをお使いの場合	13
Macをお使いの場合	16
スマートフォン・タブレットをお使いの場合	18
かんたん設定画面	19
トップ画面	19
無線LAN	20
AOSS/WPS	21
USBストレージ	21
ゲストポート	22
アドバンスドQoS	22
デバイスコントロール	23
中継機能 (中継動作時のみ)	25
詳細設定画面	26

注意ボタンについて	26
Internet	26
PPPoE	28
DDNS	30
VPNサーバー	31
アドレス変換	32
IPv6	33
LAN	35
DHCPリース	36
経路情報	36
2.4GHz	37
5GHz	40
WPS	42
AOSS	43
MACアクセス制限	44
マルチキャスト制御	45
ゲストポート	46
無線引っ越し機能	47
中継機能(WB)	48
ファイアウォール	49
IPフィルター	50
IPv6フィルター	51
VPNパススルー	51
ポート変換	52
DMZ	53
UPnP	53
アクセスコントロール	53
ディスク管理	54
共有サービス	55
アドバンスドQoS	56

システム設定	57
ログ	58
設定管理/再起動	59
ファームウェア更新	60
システム.....	61
ログ	62
通信パケット	62
診断.....	63

第3章 本製品の各種設定64

管理パスワードを変更する	64
USBドライブをNASとして使用する方法.....	65
USBドライブの接続と共有フォルダーへのアクセス方法.....	65
USBドライブの節電設定	66
USBドライブの取り外しかた.....	66
USBドライブのアクセス制限設定	67
USBドライブにアクセスできないときは	69
USBドライブのフォーマット	70
USBドライブ使用時の制限事項	71
来訪者向け無線設定を行う(ゲストポート設定)	73
来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合	73
高度な設定を行う場合	74
無線チャンネルを変更する	75
AOSS接続を解除する	76
ほかの端末から本製品を検索できなくする(ANY接続拒否設定)	76
アクセス可能な端末を制限する(MACアクセス制限)	77
端末同士の通信を禁止する(プライバシーセパレーター)	79

本製品を中継機として使用する.....	80
ご利用イメージ	80
中継機設定後のSSIDと暗号化キーについて	81
親機の暗号化キーを入力して設定する(手動設定)	82
端末を追加する場合	84
MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する	85
MACアクセス制限下での注意事項	85
設定のながれ	85
設定手順.....	85
通信サービスの種類に応じて帯域幅を制御する(アドバンスド QoS)	88
インターネットに接続できる時間を制限する(アクセスコントロール)	90
ポートを開放する	92
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合	92
利用するポート番号が不明な場合	94
本製品のIPアドレスを変更する	94
Windowsをお使いの場合	95
Macをお使いの場合.....	98
フレッツ回線向けの設定をする(PPPoEマルチセッション)...	100
Bフレッツなどで固定IPサービスを利用する(IP Unnumbered) ..	102
ルーター機能を停止する	105
本製品のファームウェアバージョンを確認する	105
本製品のファームウェアを更新する	106
自動的に更新する場合	106
手動で更新する場合	107

第4章 各種ソフトウェアの使いかた.....108

エアステーション設定ツールの使いかた.....	108
-------------------------	-----

第5章 VPNサーバー機能109

VPNサーバー機能とは.....	109
------------------	-----

外出先から接続するための準備をする.....	110
------------------------	-----

外出先で使用する端末の設定をする	111
------------------------	-----

Windows 10/8.1をお使いの場合	111
-----------------------------	-----

Windows 7/Vistaをお使いの場合	115
------------------------------	-----

Macをお使いの場合.....	119
-----------------	-----

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合	121
-------------------------------------	-----

Android端末をお使いの場合	124
------------------------	-----

自宅や会社の端末を外出先から遠隔操作できるように設定する.	127
--	-----

Windows 10/8.1をお使いの場合	127
-----------------------------	-----

Windows 7/Vistaをお使いの場合	128
------------------------------	-----

Macをお使いの場合.....	130
-----------------	-----

外出先から自宅や会社のネットワークに接続する	131
------------------------------	-----

Windows 10をお使いの場合.....	131
------------------------	-----

Windows 8.1をお使いの場合.....	132
-------------------------	-----

Windows 7をお使いの場合.....	133
-----------------------	-----

Windows Vistaをお使いの場合	135
----------------------------	-----

Macをお使いの場合.....	136
-----------------	-----

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合	137
-------------------------------------	-----

Android端末をお使いの場合	138
------------------------	-----

外出先から自宅や会社の端末を遠隔操作する	139
----------------------------	-----

Windows 10から遠隔操作する場合.....	139
---------------------------	-----

Windows 8.1から遠隔操作する場合.....	140
----------------------------	-----

Windows 7/Vistaから遠隔操作する場合	141
Macから遠隔操作する場合	142
外出先から自宅や会社のファイルサーバーにアクセスする ..	143
Windowsの場合	143
Macの場合	144

第6章 困ったときは.....145

「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのIPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない	145
インターネットにつながらない.....	146
無線接続が切れる/不安定	147
無線でつながらない	148
AOSSで無線接続できない	149
設定画面が表示できない.....	149
無線での通信が遅い	150
設定を出荷時の状態に戻したい.....	150

第7章 付録151

製品仕様.....	151
端子仕様.....	154
初期設定一覧	155
壁面への取り付けについて	159
参考情報.....	160
Windows 10の場合の設定	160
Windows 8.1の場合の設定	160

Windows 7/Vistaの場合の設定	161
Macの場合の設定	162
著作権・免責事項	163
商標・登録商標	163

第1章 はじめに

操作方法について

本書では、パソコンでご利用になる場合を想定した操作方法を説明しています。タブレットをお使いの場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えるなどして、本書をご活用ください。

電波に関する注意

- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、工事設計認証を受けていますので、以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造すること
 - 本製品の裏面に貼ってある証明レーベルをはがすこと
- IEEE802.11aのW52、W53は、電波法により屋外での使用が禁じられています。
- IEEE802.11b/g対応製品は、次の場所で使用しないでください。
電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところ、2.4GHz付近の電波を使用しているものの近く（環境により電波が届かない場合があります。）
- IEEE802.11b/g対応製品の無線チャンネルは、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
 - 産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
 - (1) 構内無線局（免許を要する無線局）
 - (2) 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
- IEEE802.11b/g対応製品を使用する場合、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
 - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
 - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、当社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数	2.4GHz
変調方式	OFDM方式/DS-SS方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

- ・ 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LAN製品は、セキュリティに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)

「無線LANのセキュリティに関する注意事項」より

動作環境

対応機器・対応OS

<無線親機本体との無線接続>

無線LAN機能に対応したパソコン、Mac、スマートフォン、タブレット端末、ゲーム機など

<無線親機の設定変更>

Microsoft Edgeを搭載したWindows 10[※]パソコン、
Internet Explorer 11以降を搭載したWindows 8.1[※]/7[※]パソコン、
Internet Explorer 9以降を搭載したWindows Vista[※]パソコン、
Safari 6.0.2以降を搭載したmacOS (10.8/10.9/10.10/10.11/10.12)、
iOS 5以降のiPod touch/iPhone/iPad、
Android 2.2以降のスマートフォン、タブレット端末

※64ビットと32ビットに対応しています。

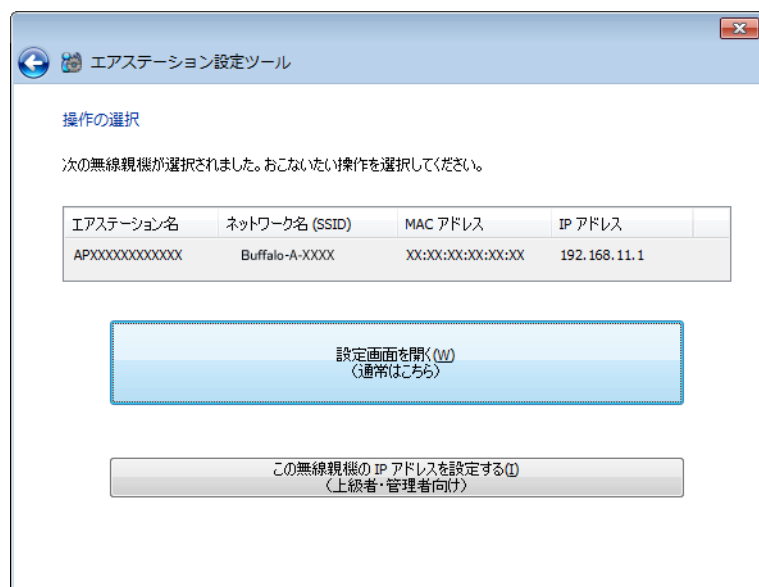
<エアステーション設定ツール(当社ホームページよりダウンロード)>

Windows 10 (64ビット/32ビット)、Windows 8.1 (64ビット/32ビット)、Windows 8 (64ビット/32ビット)、
Windows 7 (64ビット/32ビット)、Windows Vista (64ビット/32ビット)、Windows XP (32ビット)
macOS (10.4/10.5/10.6/10.7/10.8/10.9/10.10/10.11/10.12/10.13/10.14)

各種ソフトウェアのご紹介

エアステーション設定ツール(Windows/Mac用)

エアステーション設定ツールは、本製品の設定画面をかんたんに表示するためのソフトウェアです。本製品とパソコンを接続してエアステーション設定ツールを実行すると、本製品の設定画面を表示したり、本製品のIPアドレスを変更したりできます。



メモ: 本書の手順で各種設定を行うには、エアステーション設定ツールが必要です。

第2章 本製品の設定画面

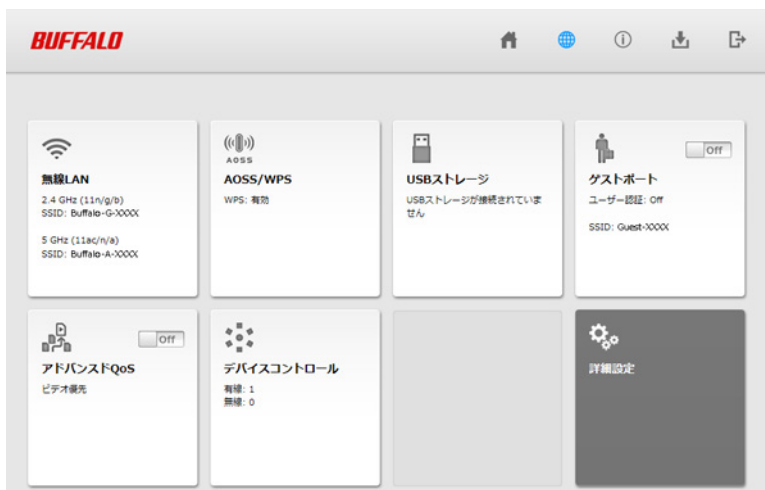
本章では、本製品の設定画面について説明します。

かんたん設定と詳細設定について

本製品の設定画面は、各種設定や機器診断を行う画面です。本製品の設定を変更するときや状態を確認したいときに使用します。

設定画面は「かんたん設定」と「詳細設定」に分かれており、用途によって使い分けることができます。少ない操作で設定を済ませたい場合は「かんたん設定」を、より高度な設定を行いたい場合は「詳細設定」をご利用ください。

かんたん設定の画面（一例）



詳細設定画面（一例）



メモ: 設定画面の操作が5分間ない場合、設定画面から自動的にログアウトします。

エアステーション設定ツールのインストール

以降の手順を行う前に、当社ホームページより「エアステーション設定ツール」をダウンロードしてください。Windowsをお使いの場合は、事前にインストールを行っておいてください。

メモ: 最新版のエアステーション設定ツールは、以下のホームページより入手できます。

https://www.buffalo.jp/support/download/list/?item_code=WXR-2533DHP2

設定画面を表示する

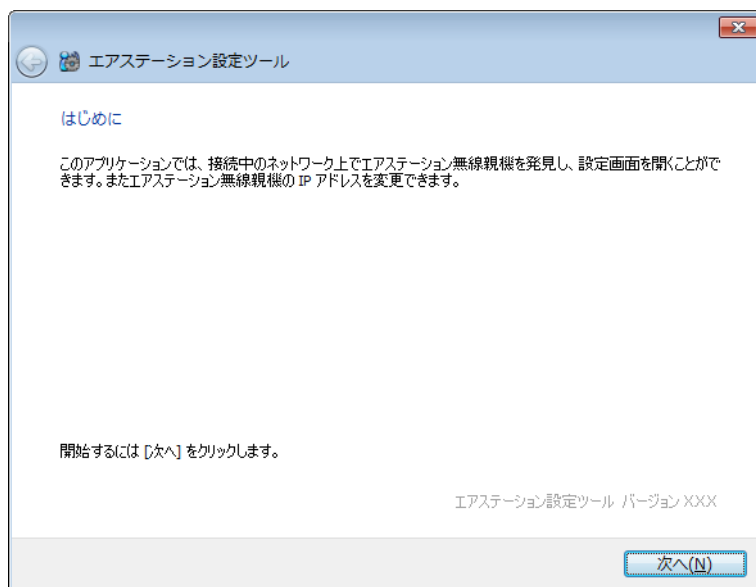
Windowsをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って、設定画面を表示します。

1 エアステーション設定ツールを起動します。

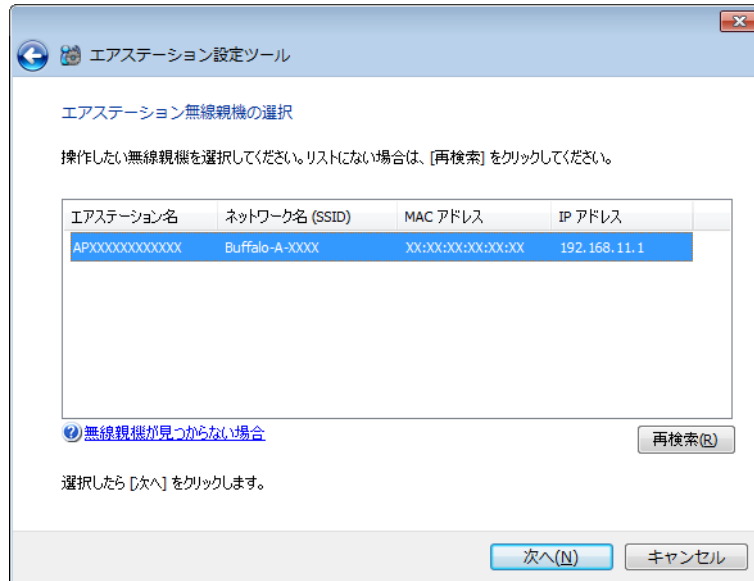
インストール時にデスクトップに生成されたエアステーション設定ツールのアイコンをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



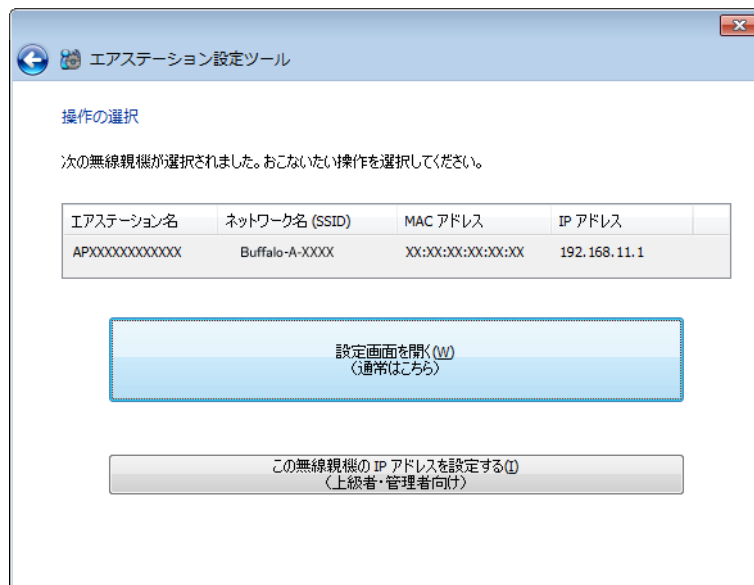
メモ: パソコンに複数のネットワークアダプターが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプターを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して[次へ]をクリックします。

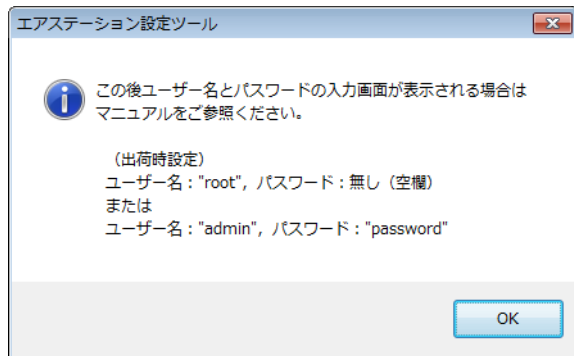


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体背面のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。



5 [OK]をクリックします。



メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。その場合は、「無線親機のIPアドレスを設定する」をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。しばらくすると、本製品に新しいIPアドレスが設定され、手順6の画面が表示されます。「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたときは、「はい」または「続行」をクリックしてください。

6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード(出荷時設定では「password」)を入力し、[ログイン]をクリックします。

7 本製品の設定画面が表示されます。

メモ: 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。

Macをお使いの場合

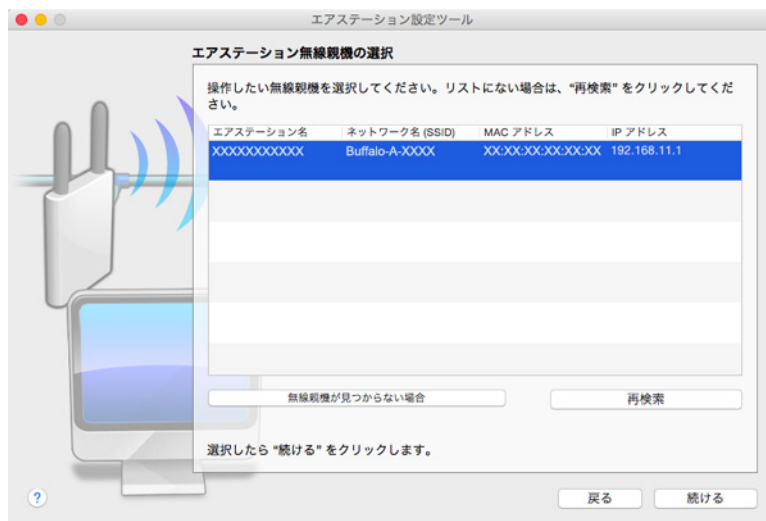
「エアステーション設定ツール」を使って設定画面を表示します。

1 エアステーション設定ツールを実行します。

2 [続ける]をクリックします。



3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して[続ける]をクリックします。

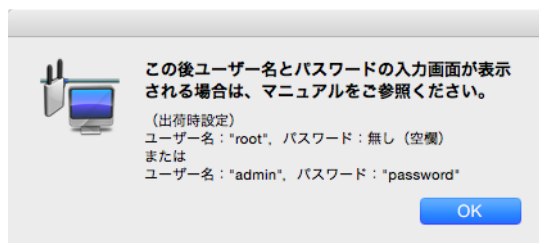


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体背面のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。



5 [OK]をクリックします。



メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。その場合は、「無線親機のIPアドレスを設定する」をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。Macのパスワードを要求された場合はパスワードを入力して[OK]をクリックします。しばらくすると本製品に新しいIPアドレスが設定され、「設定完了」画面が表示されます。[親機選択画面に戻る]をクリックし、もう一度手順3から行ってください。

6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード(出荷時設定では「password」)を入力し、[ログイン]をクリックします。

7 本製品の設定画面が表示されます。

メモ: 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[終了]をクリックして、画面を閉じてください。

スマートフォン・タブレットをお使いの場合

スマートフォン・タブレットの場合は、専用アプリ「StationRadar」を使用して本製品の設定画面にアクセスします。

メモ: このアプリは、スマートフォンやタブレットを本製品と接続した状態で使用してください。

- 1 AppStoreまたはGoogle Playで「StationRadar」を検索し、StationRadarをインストールします。
- 2 StationRadarを起動すると、自動的に検索が始まります。本製品が見つかったら、本製品の製品名をタップし、[設定画面を開く]をタップします。
- 3 ブラウザーが起動するので、ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード(出荷時設定では「password」)を入力し、[ログイン]をタップします。

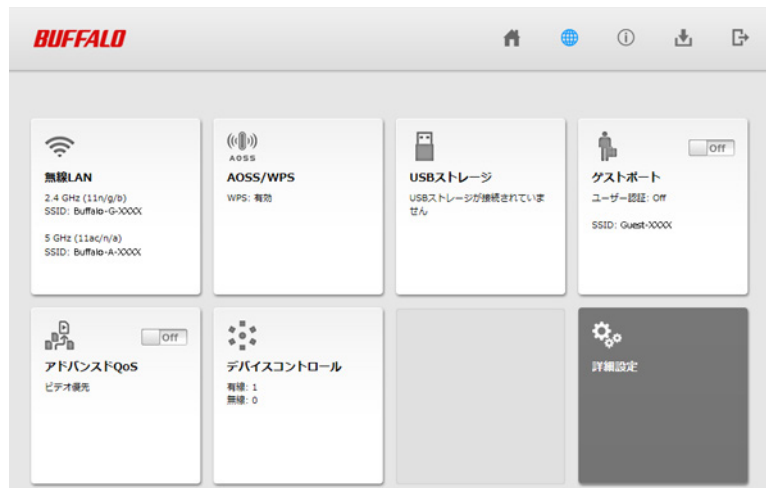
A screenshot of the StationRadar login screen. It features a light gray background with a white rectangular area containing the login fields. At the top, the text 'ユーザー名' (Username) is followed by a text input field containing 'admin'. Below this, the text 'パスワード' (Password) is followed by a password input field with eight dots. Under the password field, there is a checkbox labeled 'モバイル用設定画面' (Mobile settings screen) which is checked. At the bottom of the white area is a dark gray button with the text 'ログイン' (Login).

- 4 本製品の設定画面が表示されます。

かんたん設定画面

トップ画面

本製品の設定画面にログインした際、最初に表示される画面です。画面の内容は、本製品の動作モードによって異なります。ここでは、ルーターモード時の画面を例に説明します。

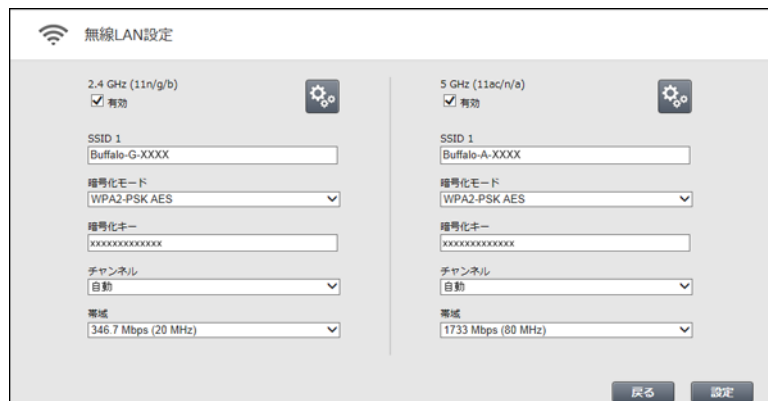


項目	内容
無線LAN	現在の無線LANの状態が表示されます。 パネルをクリックすると、無線LANの設定画面が表示されます。
AOSS/WPS	現在のAOSS/WPS設定の状態が表示されます。 パネルをクリックして[OK]をクリックすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
USBストレージ	本製品に接続されたUSB/ハードディスク/フラッシュの状態が表示されます。 パネルをクリックすると、USB/ハードディスク/フラッシュ設定の画面が表示されます。
ゲストポート	来訪者用の一時的な接続先(ゲストポート)の状態が表示されます。 パネル上部で、ゲストポート機能の有効/無効を切り替えられます。 パネルをクリックすると、ゲストポートの設定画面が表示されます。
アドバンスドQoS	特定の通信を優先させるアドバンスドQoSの状態が表示されます。 パネル上部でアドバンスドQoSの有効/無効を切り替えられます。 パネルをクリックすると、アドバンスドQoSの設定画面が表示されます。
デバイスコントロール	ネットワークに接続されている端末の台数が表示されます。 パネルをクリックすると、各端末の状態を確認できます。
詳細設定	パネルをクリックすると、詳細設定画面が表示されます。
	クリックすると、トップ画面が表示されます。
	インターネットへの接続状況を表示します。インターネットに接続できていないとき(
	中継動作時のみ表示されます。親機との接続状況を表示します。親機と接続していないとき(

項目	内容
	ファームウェアの更新がある場合などに点滅してお知らせします。クリックすると、本製品の動作モードが表示されます。
	インターネットに接続しているときにクリックすると、取扱説明書やソフトウェアなどのダウンロードページが表示されます。
	設定画面からログアウトします。

無線LAN

ルーターモード時またはアクセスポイントモード時のみ表示されます。無線LANの基本設定を行う画面です。



The image shows the '無線LAN設定' (Wireless LAN Settings) screen. It is divided into two columns for 2.4 GHz (11n/g/b) and 5 GHz (11ac/n/a). Each column has a '有効' (Enabled) checkbox, an 'SSID 1' input field (pre-filled with 'Buffalo-G-XXXX' and 'Buffalo-A-XXXX' respectively), a '暗号化モード' (Encryption Mode) dropdown menu (set to 'WPA2-PSK AES'), a '暗号化キー' (Encryption Key) input field (pre-filled with 'xxxxxxxxxxxxxx'), a 'チャンネル' (Channel) dropdown menu (set to '自動'), and a '帯域' (Bandwidth) dropdown menu (set to '346.7 Mbps (20 MHz)' and '1733 Mbps (80 MHz)'). At the bottom right, there are '戻る' (Back) and '設定' (Apply) buttons.

項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
2.4GHz(11n/g/b) 5GHz(11ac/n/a)	無線の有効/無効を設定します。
SSID 1	SSIDを入力します。(半角英数字または記号で32文字まで)
暗号化モード	端末との接続の際の暗号化モードを以下から選択します。 WPA2-PSK AES WPA2 (IEEE802.11i) に準拠した認証を行い、暗号化方式にAESを使用します。 WPA-PSK AES WPA (Wi-Fi Protected Access) に準拠した認証を行い、暗号化方式にAESを使用します。 WPA/WPA2-mixed PSK TKIP+AES WPA-PSKおよびWPA2-PSKのどちらの認証も同時に行い、暗号化方式にTKIPまたはAESを使用します。 暗号化なし 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴されますので暗号化なしでの使用は避けてください。
暗号化キー	端末との認証で使用する暗号化キーを入力します。 文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f(大文字/小文字の区別なし)の64桁で入力します。

項目	内容
チャンネル	無線で使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。「自動」を選択すると、電波混雑防止機能により自動的に最適なチャンネルが設定されます。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
帯域	無線で使用する帯域幅を設定します。帯域幅を大きくすると、通信速度の向上が見込めますが、周囲の電波状況が悪い場合は、効果が得られないことがあります。

AOSS/WPS

パネルをクリックすると以下の画面が表示されます。[OK]をクリックすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。



USBストレージ

本製品に接続しているUSBドライブの設定を行う画面です。

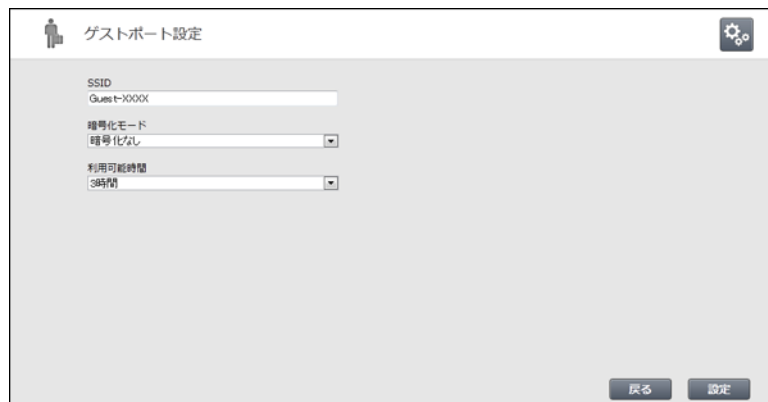


項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
USBストレージ	本製品に接続しているUSBドライブの名称が表示されます。
ファイル共有	共有フォルダー機能を使用するかどうかを設定します。

ゲストポート

ルーターモード時またはアクセスポイントモード時のみ表示されます。来訪者用の一時的な接続先(ゲストポート)の設定を行います。

メモ: ゲストポートに接続した端末は、IPv6通信できません。



項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
SSID	来訪者用のSSIDを入力します。(半角英数字または記号で32文字まで)
暗号化モード	来訪者用の暗号化モードを設定します。
利用可能時間	来訪者がゲストポートを利用できる時間を設定します。

アドバンスドQoS

アドバンスドQoSは、ネットワークの帯域をより効果的に利用するための設定です。ルーターモード時のみ設定できます。



項目	内容
使用する	アドバンスドQoSを使用するかどうかを設定します。
おもな用途	通信の主な用途を選択します。 ネットワークの帯域は、ここで選択した項目に最適化されます。

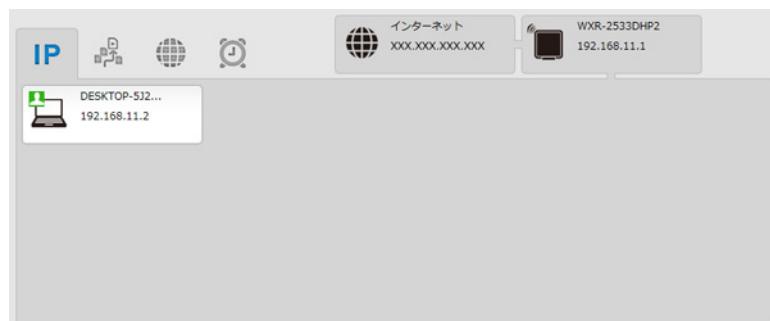
項目	内容
トラフィックモニター	各カテゴリー別の通信状況を確認できます。  : 選択した用途における、各カテゴリーの優先度を表します。  : 選択した用途における、上り速度を表します。  : 選択した用途における、下り速度を表します。

デバイスコントロール

ルーターモード時のみ表示されます。ネットワークに接続されている端末の状態を確認する画面です。

項目	内容
	現在設定画面にアクセスしている端末のアイコン上に表示されます。
	本製品に無線接続している端末のアイコン上に表示されます。
	「この端末は未検出でも表示する」にチェックが入っている端末のアイコン上に表示されます。この端末は本製品に接続されていなくても表示されます。

IPアドレス確認画面



本製品に接続している各端末のIPアドレスが表示されます。
端末のアイコンをクリックすると、端末の個別設定が表示されます。

リンクレート確認画面



本製品に接続している端末のアップ速度とダウン速度のリンクレートが表示されます。
端末のアイコンをクリックすると、端末の個別設定が表示されます。

端末設定画面へのアクセス画面



本製品に接続している端末が設定画面のインターフェースが利用できる場合、アイコンをクリックするとその端末の設定画面を開きます。設定画面のインターフェースが利用できない場合は、グレー表示されているか、クリックしても表示されません。

Wake-on-LAN実行画面



本製品に接続している端末のアイコンをクリックすると、その端末にWake-on-LANパケットを送信します。その端末がすでに動作している場合、またはWake-on-LANに対応していない場合は、パケットを送信しても何も起こりません。

端末の個別設定画面



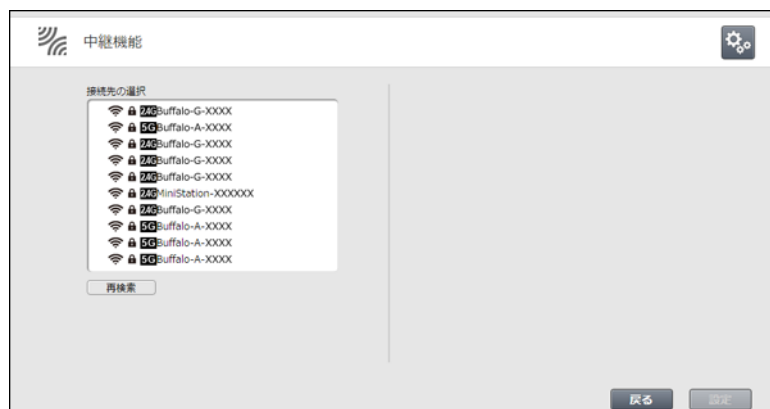
項目	内容
デバイス設定	端末の名称やアイコンを変更できます。名称は、半角英数字・記号で64文字まで入力できます。
IPアドレス	端末のIPアドレスが表示されます。
MACアドレス	端末のMACアドレスが表示されます。

項目	内容
アドバンスドQoS	端末ごとに通信の優先度を設定できます。「全体設定に従う」を選択すると、「アドバンスドQoS」画面で設定した内容をこの端末にも適用します。
デバイス検出	「この端末は未検出でも表示する」にチェックを入れると、本製品はこの端末の情報を記憶し、この端末が本製品に接続されていない状態でもこの端末をデバイスコントロール画面に表示します。

中継機能(中継動作時のみ)



をクリックすると表示されます。本製品を中継機として動作させるときに接続するSSIDを設定します。自動的に親機のSSIDが検索されるので、接続するSSIDを選択して暗号化キーを入力し、[設定]をクリックしてください。



項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
再検索	親機のSSIDをもう一度検索します。
暗号化キー	接続するSSIDに設定されている暗号化キーを入力します。

詳細設定画面

注意ボタンについて



上図のボタンが画面上に表示されている場合は、そのボタンをクリックしてください。その画面における注意事項が表示されるので、よくお読みになった上で設定を行ってください。

Internet

インターネット側ポートの設定を行う画面です。

Internet > Internet (ルーターモード時のみ)

IPアドレス取得方法	☒ インターネット@スタートを行う
	☐ DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得
	☐ PPPoEクライアント機能を使用する
	☐ IP Unnumberedを使用する
	☐ transixを使用する
	ゲートアドレス
	☐ v6プラスを使用する
	☐ IPv6オプションを使用する
	☐ OCNバーチャルコネク特を使用する
	☐ 手動設定
	IPアドレス
	サブネットマスク 255.255.255.0

※PPPoE接続先の設定は Internet - [PPPoE](#)で行ってください

[拡張設定]	
デフォルトゲートウェイ	
DNS(ネーム)サーバーアドレス	プライマリー: セカンダリー:
Internet側MACアドレス	☒ デフォルトのMACアドレスを使用 (XX:XX:XX:XX:XX:XX) ☐ 手動設定
Internet側MTU値	1500 バイト

項目	内容
IPアドレス取得方法	インターネット側 (IPv4) のIPアドレスの取得方法を指定します。 本製品の左側面のスイッチが「AUTO」の場合は、「インターネット@スタートを行う」で動作します。 本製品の左側面のスイッチが「MANUAL」-「ROUTER」の組み合わせの場合は、お使いの環境にあった設定を選択してください。 IPv4 over IPv6通信サービスをお使いの方は、当社ホームページ (https://www.buffalo.jp/support/other/network-ipv6.html) を参照してください。 インターネット@スタートを行う インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行いたい場合に選択します。 通常はこの設定を選択してください。 DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得 インターネット側 (IPv4) のIPアドレスをDHCPサーバーから自動取得する場合に選択します。 PPPoEクライアント機能を使用する PPPoE機能を使用して、プロバイダーからIPアドレスを自動取得する場合に選択します。 IP Unnumberedを使用する IP Unnumberedをお使いの場合に選択します。 IP Unnumberedの設定例は、第3章の「Bフレッツなどで固定IPサービスを利用する (IP Unnumbered)」を参照してください。 transixを使用する 「transix」をお使いの場合に選択します。 v6プラスを使用する 「v6プラス」をお使いの場合に選択します。 IPv6オプションを使用する 「IPv6オプション」をお使いの場合に選択します。 OCNバーチャルコネクトを使用する 「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合に選択します。 手動設定 インターネット側 (IPv4) のIPアドレスを手動で設定したい場合に選択します。 メモ: 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合で、本設定を選択しても接続できない場合は、後述のInternet > IPv6画面で「NDプロキシを使用する」に設定してください。 それでも接続できない場合は、後述のInternet > IPv6画面で「IPv6ブリッジを使用する」に設定してください。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNS(ネーム)サーバーアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを指定します。
Internet側MACアドレス	インターネット側インターフェースのMACアドレスを設定します。 メモ: 不適切なMACアドレスを設定すると、本製品だけでなく、ネットワーク上の他の端末も使用できなくなります。この設定は、お客様の責任において行ってください。
Internet側MTU値	INTERNET端子で通信を行うときに使用するMTU値を578~1500バイトの範囲で設定します。

※「transix」は、インターネットマルチフィード株式会社の登録商標です。

※「v6プラス」は、日本ネットワークイネイブラー株式会社の登録商標です。

※「OCNバーチャルコネクト」は、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。

PPPoE

PPPoEに関する設定を行う画面です。

Internet > PPPoE(ルーターモード時のみ)

デフォルトの接続先	1: Internet@Start
IP Unnumbered使用時の接続先	1: Internet@Start

PPPoE接続先リスト

接続先No.	名称	状態
1	Internet@Start	有効

接続先の編集

接続先経路の表示

No.	接続先	宛先アドレス	送信元アドレス
接続経路は登録されていません			

接続先経路の編集

項目	内容
デフォルトの接続先	PPPoE接続先リストで複数の接続先を登録している場合、ここで選択した接続先が優先されます。デフォルト以外の接続先を用いるときは、PPPoEの接続先経路設定を別途行う必要があります。
IP Unnumbered使用時の接続先	IP Unnumbered使用時の接続先を、PPPoE接続先リストに登録されている接続先の中から選択します。
PPPoE接続先リスト	PPPoEの接続先の編集ができます。最大5セッションまで登録可能です。
接続先の編集	クリックすると、接続先の設定を編集する画面が表示されます。

項目	内容
PPPoE接続先リスト	[接続先の編集]をクリックすると表示されます。 接続先名称 接続先を識別するための名称を32文字までの半角英数字記号で入力します。 接続先ユーザー名 PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のユーザー名を64文字までの半角英数字記号で設定します。 接続先パスワード PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のパスワードを64文字までの半角英数字記号で設定します。 サービス名 プロバイダーからサービス名の指定がある場合のみ64文字までの半角英数字記号で設定します。 プロバイダーから指定されなければ、空欄のままにします。 接続方法 本製品がプロバイダーに接続するタイミングを指定します。 自動切断 接続方法が「オンデマンド接続」または「手動接続」のときに、通信が停止してから、回線の使用を停止するまでの時間を0～1440分の範囲で設定します。 認証方法 プロバイダーとの認証方法を設定します。 MTU値 PPPoE上で、通信を行うときに使用するMTU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 MRU値 PPPoE上で通信を行うときに使用するMRU値を578～1492バイトの範囲で設定します。 キープアライブ 有効にすると、本製品はPPPoEサーバーとの接続を維持するために、LCPエコーリクエストを1分に1度発行します。このとき、6分以上サーバーの応答がない場合は、回線が切断されたものと判断し、接続をいったん切断します。頻繁にPPPoE接続が切断される場合は、キープアライブに応答を返さないサーバーである可能性があるため、無効に設定してください。
接続先経路の表示	接続先経路を設定すると、設定した情報が表示されます。
接続先経路の編集	クリックすると、接続先経路を編集する画面が表示されます。
接続先経路の新規追加	[接続先経路の編集]をクリックすると表示されます。 接続先 「宛先アドレス」や「送信元アドレス」が一致する通信の場合にPPPoE接続を行う接続先です。PPPoE接続先リストに登録されている接続先から選択します。 宛先アドレス 通信の宛先アドレスです。このアドレス宛てへ通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。 送信元アドレス 通信の送信元アドレスです。この送信元アドレスから通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。

DDNS

ダイナミックDNSに関する設定を行う画面です。

メモ:「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのサービスをお使いの場合、ダイナミックDNSは使用できません。

Internet > DDNS(ルーターモード時のみ)

ダイナミックDNS機能	使用しない ▼
ダイナミックDNS設定情報	
Internet側IPアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
ドメイン名	未設定
状態	未設定
現在の状態を表示する	

項目	内容
ダイナミックDNS機能	ダイナミックDNSサービスプロバイダーを「BUFFALOダイナミックDNS」、「DynDNS」、「No-IP」から選択します。
登録/設定変更 (BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ)	[登録/設定変更を行う]をクリックすると、バッファローサイトに接続します。画面上の手続きに従って、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録を行ってください。
登録ユーザーID (BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ)	BUFFALOダイナミックDNSサービスに登録されているユーザーIDが表示されます。
登録情報の削除 (BUFFALOダイナミックDNS選択時のみ)	[登録情報を削除する]をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。
ユーザー名 (DynDNS選択時のみ)	DynDNSに登録したユーザー名を入力します。
パスワード (DynDNS/No-IP選択時のみ)	DynDNSまたはNo-IPに登録したパスワードを入力します。
ホスト名 (DynDNS/No-IP選択時のみ)	DynDNSまたはNo-IPに登録したホスト名を入力します。
Emailアドレス (No-IP選択時のみ)	No-IPに登録したEmailアドレスを入力します。
IPアドレス更新周期 (DynDNS/No-IP選択時のみ)	IPアドレスを通知する周期を指定します。
強制更新を行う (No-IP選択時のみ)	有効にすると、IPアドレスが変更されていなくても通知を行います。
Internet側IPアドレス	INTERNETポートのIPアドレスが表示されます。
ドメイン名	ダイナミックDNSサービスプロバイダーから割り当てられたドメイン名が表示されます。
状態	ダイナミックDNSサービスの状態が表示されます。

VPNサーバー

VPNサーバーに関する設定を行う画面です。

メモ: 以下の場合、VPNサーバーは使用できません。

- ・プロバイダーから割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合。
- ・「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのサービスをお使いの場合。

Internet > VPNサーバー (ルーターモード時のみ)



VPNサーバー機能 使用しない ▼

[\[拡張設定\]](#)

サーバーIPアドレス	☒ 自動設定 (172.31.52.1) ☐ 手動設定
クライアントIPアドレス	☒ 自動設定 (172.31.52.2 から 8 台) ☐ 手動設定 から 8 台
DNSサーバーのIPアドレス	☒ エアステーションのLAN側IPアドレス ☐ 手動設定 ☐ 通知しない
WINSサーバーのIPアドレス	
MTU/MRU値	1362

VPN接続ユーザーの表示

接続ユーザー名	接続状態	IPアドレス	操作
VPN接続ユーザーは登録されていません			

[VPN接続ユーザーの編集](#)
[現在の状態を表示](#)

項目	内容
VPNサーバー機能	VPNサーバー機能を「L2TP/IPsec」または「PPTP」から選択します。
事前共有キー	L2TP/IPsecで使用する事前共有キーを入力します。
認証方式	PPTPクライアントが接続してきた際に使用する認証方式を設定します。
サーバーIPアドレス	L2TP/IPsecまたはPPTPクライアントが接続した際、クライアントに通知するサーバー側のIPアドレスを設定します。
クライアントIPアドレス	VPNクライアントが接続した際、クライアントに割り当てるIPアドレスの範囲を設定します。
DNSサーバーのIPアドレス	VPNクライアントに通知するDNSサーバーアドレスを設定します。
WINSサーバーのIPアドレス	VPNクライアントに通知するWINSサーバーアドレスを設定します。
MTU/MRU値	VPN上で通信を行う際に使用するMTU/MRU値を578～1500バイトの範囲で設定します。
[VPN接続ユーザーの編集]	クリックすると、VPN接続ユーザー情報を編集する画面が表示されます。

項目	内容
VPN接続ユーザーの新規追加	[VPN接続ユーザーの編集]をクリックすると表示されます。 接続ユーザー名 VPNクライアントから本製品に接続する際に使用するユーザー名を半角英数字、および「"」、「'」、「/」、スペースを除く半角記号を16文字までで入力します。 パスワード VPNクライアントから本製品に接続する際に使用するパスワードを半角英数字、および「"」、「'」、「/」、スペースを除く半角記号を16文字までで入力します。 IPアドレス割り当て方法 VPNクライアントから本製品に接続した際に、VPNクライアントに割り当てるIPアドレスの割り当て方法を指定します。
VPN接続ユーザーの表示/操作	登録したVPN接続ユーザー情報の確認と編集ができます。

アドレス変換

アドレス変換機能に関する設定を行う画面です。

Internet > アドレス変換(ルーターモード時のみ)

アドレス変換

☒ 使用する

項目	内容
アドレス変換	アドレス変換機能を使用するかどうかを設定します。

IPv6

IPv6の接続方法を設定する画面です。

Internet > IPv6(ルーターモード時のみ)

IPv6接続方法	☐ IPv6を使用しない
	☒ インターネット@スタートを行う
	☐ IPv6ブリッジを許可する
	☐ NTTフレッツ光ネクストを使用する
	☐ IPv6ネイティブを使用する
	☐ NDプロキシを使用する
	☐ IPv6端末モードを使用する
	☐ IPv6ブリッジを使用する

項目	内容
IPv6接続方法	IPv6での接続方法を指定します。ご利用の回線がどの接続方法を採用しているかは、お使いのプロバイダーへご確認ください。 IPv6を使用しない インターネット回線がIPv6に対応していないときに選択します。 インターネット@スタートを行う インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行います。 IPv6 PPPoEには対応していません。 「IPv6ブリッジを許可する」にチェックを入れると、インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジを使用する」が選択される場合があります。 NTTフレッツ光ネクストを使用する プレフィックス長が64bitより短いNTTフレッツ 光ネクスト回線をお使いの場合に選択します。 (本設定は、通常は使用しません) IPv6ネイティブを使用する 後述の「IPv6プレフィックス取得方法」を設定する必要がある場合に選択します。 NDプロキシを使用する 下記の「IPv6ブリッジを使用する」よりもセキュリティを高めた動作モードで、インターネット側とLAN側間のIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを適用します。 「ひかりTV」などのフレッツIPv6サービスを利用する場合に選択します。 IPv6端末モードを使用する IPv4 over IPv6通信サービスを使用しつつ、LAN内はIPv6を使用しない場合に選択します。 IPv6ブリッジを使用する インターネット側とLAN側間のIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを使用できない場合に選択します。 メモ: IPv6ブリッジを使用すると、インターネット側から本製品に接続している端末にアクセスできる場合があります。本製品に接続している端末のセキュリティ設定を確認した上でご使用ください。
IPv6ブリッジを許可する	この項目にチェックが入っていると、「インターネット@スタートを行う」を選択している際、インターネットとLANの間でIPv6パケットが通過できる「IPv6ブリッジ」が選択されることがあります。

項目	内容
IPv6プレフィックス取得方法	「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスのプレフィックスを取得する方法を以下から選択します。 自動取得(DHCPv6-PD) DHCPv6サーバーから自動的にIPv6プレフィックスを取得します。 手動設定 IPv6プレフィックスを手動で入力します。グローバルプレフィックスを入力し、プレフィックス長を選択します。 メモ: IPv6プレフィックス取得方法を「手動設定」にした場合は、必ずIPv6デフォルトゲートウェイを設定してください。
LAN側IPv6アドレス自動配布方法	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークにIPv6アドレスを配布する方法を指定します。 ステートレスアドレス自動設定で配布 Router Advertiseプロトコルを用いて、各ホストにアドレスを自動で配布します。 DHCPv6サーバーで配布 DHCPv6サーバー機能を利用して、各ホストにアドレスを自動で配布します。 この方法を選択する場合は、DHCPv6サーバーがアドレスを配布する時間、配布するアドレスの範囲を「リース期間」「リース範囲」にそれぞれ設定します。
IPv6デフォルトゲートウェイ	「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 デフォルトゲートウェイとなるIPv6アドレスを入力します。 メモ: IPv6プレフィックス取得方法を「自動取得」にしている場合は設定する必要はありません。「手動設定」にしている場合は、正しく入力しないとIPv6ネットワークと正しく接続できなくなります。
LAN側サブネットID	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークのサブネットIDを16進数で入力します。
LAN側インターフェースID	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 本製品のグローバルアドレスのインターフェースIDを設定します。
DNSサーバーの通知	「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスがリースされた端末に対して通知するDNSサーバーのIPv6アドレスを設定します。

LAN

LAN側ポートの設定を行う画面です。

LAN > LAN

LAN側IPアドレス	IPアドレス	192.168.11.1	
	サブネットマスク	255.255.255.0 ▼	
DHCPサーバー機能	☒ 使用する		
割り当てIPアドレス	192.168.11.2	から	64 台
	除外IPアドレス:		
LAN側IPアドレス (IP Unnumbered用)	IPアドレス		
	サブネットマスク	255.255.255.0 ▼	
DHCPサーバー設定 [拡張設定]			
拡張設定 ☐ 表示する			

項目	内容
LAN側IPアドレス	LAN側IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
DHCPサーバー機能	DHCPサーバー (IPアドレス自動割り当て) 機能を使用するかどうかを設定します。
割り当てIPアドレス	DHCPサーバー機能で割り当てるIPアドレスの範囲とその範囲から除外するIPアドレスを設定します。
LAN側IPアドレス (IP Unnumbered用)	IP Unnumberedを利用するときに使用するLAN側IPアドレスを設定します。 メモ: 通常のLAN側のIPアドレスを持つパソコンと、IP Unnumbered用のLAN側IPアドレスを持つパソコン間では通信を行うことができません。
拡張設定	「表示する」を選択すると、DHCPサーバーの拡張設定項目が表示されます。
リース期間	DHCPサーバー機能で割り当てたIPアドレスの有効期間を設定します。
デフォルトゲートウェイの通知	DHCPサーバー機能で通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するDNSサーバーのIPアドレスを設定します。
WINSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するWINSサーバーのIPアドレスを設定します。
ドメイン名の通知	DHCPサーバー機能で通知するドメイン名を設定します。

DHCPリース

DHCPリースに関する設定を行う画面です。

LAN > DHCPリース (ルーターモード時のみ)

リース情報				
IPアドレス	MACアドレス	リース期限	状態	操作
リース情報はありません				
(*) 設定画面を表示している機器のIPアドレス(192.168.11.5)				
リース情報の追加				
現在の状態を表示				

項目	内容
リース情報	現在のリース情報が表示されます。 自動リースされたIPアドレスは、[手動割当に変更]をクリックすると、手動リースに変更できます。
[リース情報の追加]	クリックすると、リース情報の追加画面が表示されます。
リース情報の新規追加	[リース情報の追加]をクリックすると表示されます。 IPアドレス 手動リースするIPアドレスを入力します。本製品のLAN側ネットワークアドレスに含まれないIPアドレスを設定することはできません。 MACアドレス 端末を識別するMACアドレスを入力します。

経路情報

本製品が行う通信のIP経路の設定を行う画面です。

LAN > 経路情報

経路情報					
宛先アドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	状態	操作
経路情報はありません					
新規追加					

項目	内容
経路情報	手動で追加したルーティングテーブルを確認できます。
[新規追加]	クリックすると、経路情報の追加画面が表示されます。
経路の新規追加	[新規追加]をクリックすると表示されます。 宛先アドレス ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを設定します。 ゲートウェイ ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを設定します。 メトリック ルーティングテーブルに追加するメトリック(宛先アドレスまでに越えるルーター数)を設定します。

2.4GHz

2.4GHz(11n/g/b)の無線の基本的な設定を行う画面です。

無線設定 > 2.4GHz

[基本設定]	
無線機能	☒ 使用する
無線チャンネル	自動 (現在のチャンネル: 1)
倍速モード	帯域: 346.7 Mbps (20 MHz) (Current: 20 MHz) 拡張チャンネル: 1
ANY接続	☒ 許可する
SSID1	
SSID1	☒ 使用する
隔離機能	☐ 使用する
SSID	☒ エアステーションのMACアドレスを設定(Buffalo-G-XXXX) ☐ 値を入力:
無線の認証	WPA2-PSK
無線の暗号化	AES
WPA-PSK (事前共有キー)	XXXXXXXXXXXXXXXX
Key更新間隔	60 分

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。手動でチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を「自動選択(20/40MHz)」または「800Mbps(40MHz)」に設定します。 メモ: 「自動選択(20/40MHz)」に設定すると、周囲の電波状況に応じて20MHzと40MHzを自動的に切り替えます。 - 拡張チャンネルは、設定した無線チャンネルに応じて自動的に設定されます。
ANY接続	チェックを外すと、端末からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 SSID 2	本製品のメインSSID(SSID 1)とサブSSID(SSID 2)を使用するかどうかを設定します。
SSID 3 SSID 4	無線引越越し機能を使用して無線設定を引き継いでいる場合にのみ表示されます。使用するかどうか以外の設定項目は変更できません。
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している端末はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを入力します。(半角英数字または記号で32文字まで)

項目	内容
無線の認証	SSID 1の認証方式を以下から選択します。 WPA/WPA2 mixedmode-PSK 端末との接続の際にWPA-PSKおよびWPA2-PSKの両方の認証を同時に行う設定です。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 WPA2-PSK 端末との接続の際にWPA2 (IEEE802.11i)に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 認証を行わない 端末との接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	無線通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。 TKIP/AES mixedmode TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2 mixedmode-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 AES 暗号化の方式にAES (強固な次世代暗号化方式)を使用します。事前共有キーを使用して無線LAN端末と通信します。 無線の認証で「WPA2-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 暗号化なし 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでの使用は避けてください。 SSID 1の無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。
WPA-PSK(事前共有キー)	端末との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f(大文字/小文字の区別なし)の64桁で入力します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f(大文字/小文字の区別なし)の10桁または26桁で入力します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
DTIM Period	端末に通知するビーコン応答間隔(1～255)の設定をします。端末のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	端末間の通信を許可するかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、同一の接続先に接続している端末同士の通信ができなくなります。 有線側からは端末と通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。
WMM設定	本製品が行う通信で、特定の通信にのみ優先順位を付けたい場合に表示するにチェックを入れます。

項目	内容
WMM-EDCA パラメーター	一般的な使い方では、この値を変更する必要はありません。出荷時設定のままお使いください。 優先度 優先度は、通信パケットごとに適用され、(Highest)8: (High)4: (Normal)2: (Low)1の割合で優先的に処理されます。 CWmin, CWmax コンテンション・ウィンドウの最小値・最大値です。コンテンション・ウィンドウはIEEE802.11で行うフレーム衝突回避機構で使用され、一般にウィンドウ内の値が小さくなるほど、そのキューが送信権を得る確率が高くなります。 AIFSN フレーム送信間隔です。単位はスロット (CWmin, CWmaxで定義されるウィンドウ値と同様) です。フレーム送信間隔が小さいほど、バックオフアルゴリズムの開始時間が早まるため、結果としてキューの優先度が高くなります。 TXOP Limit キューが送信権を得た場合に占有できる時間を示します。1単位は32msです。この時間が多いほど一度得た送信権でより多くのフレームを転送できますが、反面キューのリアルタイム性を損なうことになります。TXOP Limitを0に設定した場合は、1回の送信権で1つのフレームのみ送信できます。 Admission Control キューに対して送信フレームの割り当て制限を行います。キューがある程度蓄積されると、新たに送信フレームが割り当てられるときに下位のキューを割り当てるようになります。

5GHz

5GHz(11ac/n/a)の無線の基本的な設定を行う画面です。

無線設定 > 5GHz

[基本設定]	
無線機能	☒ 使用する
無線チャンネル	自動 ▼ (現在のチャンネル: 124) ※DFSありの場合、気象レーダー等を感じると自動的にチャンネルが変更されます
倍速モード	帯域: 1733Mbps (80 MHz) ▼ (Current: 80 MHz)
ANY接続	☒ 許可する
SSID1	
SSID1	☒ 使用する
隔離機能	☐ 使用する
SSID	☒ エアステーションのMACアドレスを設定(Buffalo-A-XXXX) ☐ 値を入力:
無線の認証	WPA2-PSK ▼
無線の暗号化	AES ▼
WPA-PSK (事前共有キー)	xxxxxxxxxx
Key更新間隔	60 分

項目	内容
無線機能	無線機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル	無線で使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。DFSに対応したチャンネルを選択した場合は、本製品が気象レーダーなどを感じると、自動的にチャンネルが変更されます。 「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。
倍速モード	無線通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を1733Mbps(80MHz)に設定してください。
ANY接続	チェックを外すと、端末からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 SSID 2	本製品のメインSSID (SSID 1) とサブSSID (SSID 2) を使用するかどうかを設定します。
SSID 3 SSID 4	無線引越し機能を使用して無線設定を引き継いでいる場合に表示されます。使用するかどうか以外の設定項目は変更できません。
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している端末はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを入力します。(半角英数字または記号で32文字まで)

項目	内容
無線の認証	SSID 1の認証方式を以下から選択します。 WPA/WPA2 mixedmode-PSK 端末との接続の際にWPA-PSKおよびWPA2-PSKの両方の認証を同時に行う設定です。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 WPA2-PSK 端末との接続の際にWPA2 (IEEE802.11i)に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。 認証を行わない 端末との接続の際に認証を行いません。
無線の暗号化	無線通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。 TKIP/AES mixedmode TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2 mixedmode-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 AES 暗号化の方式にAES (強固な次世代暗号化方式)を使用します。事前共有キーを使用して無線LAN端末と通信します。 無線の認証で「WPA2-PSK」を選択した場合のみ使用可能です。 暗号化なし 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでの使用は避けてください。 SSID 1の無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。
WPA-PSK(事前共有キー)	端末との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f(大文字/小文字の区別なし)の64桁で入力します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0～1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	無線を暗号化する暗号化キーを入力します。 WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f(大文字/小文字の区別なし)の10桁または26桁で入力します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
DTIM Period	端末に通知するビーコン応答間隔(1～255)の設定をします。端末のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	端末間の通信を許可するかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、同一の接続先に接続している端末同士の通信ができなくなります。 有線側からは、端末と通信できます。
送信出力	本製品が無線送信を行うときの電波送信出力を設定します。
WMM設定	本製品が行う通信で、特定の通信にのみ優先順位を付けたい場合に表示するチェックを入れます。

項目	内容
WMM-EDCA パラメーター	一般的な使い方では、この値を変更する必要はありません。出荷時設定のままお使いください。 優先度 優先度は、通信パケットごとに適用され、(Highest)8: (High)4: (Normal)2: (Low)1の割合で優先的に処理されます。 CWmin, CWmax コンテンション・ウィンドウの最小値・最大値です。コンテンション・ウィンドウはIEEE802.11で行うフレーム衝突回避機構で使用され、一般にウィンドウ内の値が小さくなるほど、そのキューが送信権を得る確率が高くなります。 AIFSN フレーム送信間隔です。単位はスロット (CWmin, CWmaxで定義されるウィンドウ値と同様) です。フレーム送信間隔が小さいほど、バックオフアルゴリズムの開始時間が早まるため、結果としてキューの優先度が高くなります。 TXOP Limit キューが送信権を得た場合に占有できる時間を示します。1単位は32msです。この時間が多いほど一度得た送信権でより多くのフレームを転送できますが、反面キューのリアルタイム性を損なうことになります。TXOP Limitを0に設定した場合は、1回の送信権で1つのフレームのみ送信できます。 Admission Control キューに対して送信フレームの割り当て制限を行います。キューがある程度蓄積されると、新たに送信フレームが割り当てられるときに下位のキューを割り当ててようになります。

WPS

WPSの詳細な設定や状況を確認する画面です。

無線設定 > WPS (ルーターモード/アクセスポイントモード時のみ)

WPS機能	☒ 使用する
外部Registrar	☒ 要求を受け付ける
エアステーション PINコード	30144170 PIN生成
EnrolleeのPINコード	OK
WPS用無線セキュリティ設定	
WPSステータス	configured 解除
2.4 GHz	SSID: Buffalo-G-XXXX セキュリティ: WP A2-PSK AES 暗号鍵: XXXXXXXXXXXXXXX
5 GHz	SSID: Buffalo-A-XXXX セキュリティ: WP A2-PSK AES 暗号鍵: XXXXXXXXXXXXXXX

項目	内容
WPS機能	WPS機能を使用するかどうかを設定します。
外部Registrar	WPS機能を使用する際に、外部Registrarからのconfigure要求を受け付けるかどうかを設定します。 AOSS接続を行うと、外部Registrarの要求を受け付けなくなります。
エアステーション PINコード	本製品のPINコードが表示されます。[PIN生成]をクリックすると、新しいPINコードが生成されます。
EnrolleeのPINコード	端末のPINコードを入力して[OK]をクリックすると、本製品の内部Registrarが、そのPINコードを持つ端末からの接続要求を受け付ける状態になります。

項目	内容
WPS用無線セキュリティー設定	本製品のWPS状態と現在設定されているSSID、セキュリティー、暗号化キーが表示されます。

AOSS

AOSSの詳細な設定や状況を確認する画面です。

無線設定 > AOSS (ルーターモード/アクセスポイントモード時のみ)

AOSS動作設定	
AOSS 状態	AOSS 無効
WEPをゲーム専用にする	2.4 GHz ☐ 使用する 5 GHz ☐ 使用する
本体側AOSSボタン	☒ 使用する

項目	内容
AOSS状態	現在のAOSSの状態を表示します。AOSS有効時に、  をクリックすると、AOSS接続が解除されます。 (その際、SSIDや暗号化キーもAOSSを使用する前の値に戻ります)
WEPをゲーム専用にする	設定を有効にすると、WEPのみに対応した端末だけが本製品にWEPで接続できるようになります。WPA(またはWPA2)とWEPの両方に対応した端末はWEPで接続できなくなります。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外した場合は、本製品のAOSSボタンを押してもAOSS接続は実行されず、WPS接続のみが実行されます。
AOSS接続先情報	本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末の情報が表示されます。 接続先情報 本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末の名称が表示されます。 MACアドレス 本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末のMACアドレスが表示されます。 対応暗号化方式 本製品とAOSS接続した端末、および本製品と無線通信中の端末の対応可能な暗号化の種類が表示されます。 無線 現在、接続している無線方式が表示されます。 AOSS AOSSで接続している端末かどうかが表示されます。 [AOSS接続先情報の編集] AOSSで接続している接続先を削除できます。

MACアクセス制限

端末からのアクセスを制限する設定を行う画面です。

無線設定 > MACアクセス制限

無線パソコンの接続(2.4 GHz)	☐ 制限する
無線パソコンの接続(5 GHz)	☐ 制限する
登録リスト	
MACアドレス	接続状態
MACアドレスが登録されていません	
登録リストの編集	

項目	内容
無線パソコンの接続	端末からの接続を制限するかどうかを設定します。
登録リスト	MACアクセス制限で、接続を許可する端末のMACアドレスが表示されます。MACアドレスの登録は、[登録リストの編集]をクリックして行います。 MACアドレス MACアクセス制限で接続を許可するMACアドレスの一覧が表示されます。 接続状態 リストに登録した端末が、現在接続しているかどうかを表示します。接続中であれば「○」、未接続であれば「×」が表示されます。
登録リストの編集	登録したMACアドレスに対して、編集を行うことができます。 MACアドレス リストに登録した端末のMACアドレスが表示されます。 操作 [修正]をクリックすると、登録したMACアドレスを修正できます。 [削除]をクリックすると、登録したMACアドレスが削除されます。
登録するMACアドレス	接続を許可する端末のMACアドレスを入力します。 [新規追加]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。
検出された無線パソコン一覧	本製品に無線接続している端末のMACアドレスをリストに登録できます。 MACアドレス 本製品に無線接続している端末のMACアドレスが表示されます。 操作 [登録]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。[現在の状態を表示]をクリックすると、現在の状態が表示されます。

マルチキャスト制御

無線LANポートに無駄なマルチキャストパケットが転送されないように制限する設定を行う画面です。

無線設定 > マルチキャスト制御

Snooping 機能	☒ 使用する
マルチキャスト Aging Time	300 秒

項目	内容
Snooping機能	IGMPなどのマルチキャスト管理パケットを監視し、不必要な有線・無線各ポートへのマルチキャストの転送を抑制できる、マルチキャストSnooping（スヌーピング）機能を使用するかどうかを設定します。
マルチキャストAging Time	マルチキャストSnooping機能によって学習した情報を保持する時間を1～3600（秒）の範囲で設定します。IGMP/MLDクエリー間隔よりも十分に大きな値を入力する必要があります。

ゲストポート

来訪者用の無線接続ポート(ゲストポート)の設定を行う画面です。

メモ: ゲストポートに接続した端末は、IPv6通信できません。

無線設定 > ゲストポート(ルーターモード/アクセスポイントモード時のみ)

ゲストポート設定	
ゲストポート機能	☐ 使用する
ゲストユーザー認証機能	☐ 使用する
ゲストポート用LAN側IPアドレス	☒ 自動設定 ☐ 手動設定
利用可能時間	3時間
無線設定	
SSID	☒ エアステーションのMACアドレスを設定(Guest-XXXX) ☐ 値を入力:
無線の認証	認証を行わない
無線の暗号化	暗号化なし
ゲストユーザーの表示/操作	
ユーザー名	接続MACアドレス
接続状態	操作
ゲストユーザーは登録されていません	
ゲストユーザーの編集	
現在の状態を表示	

項目	内容
ゲストポート機能	来訪者用にインターネット回線を提供する「ゲストポート機能」の有効/無効を設定します。
ゲストユーザー認証機能	ゲストとして登録したユーザーだけが通信できるように認証を行うかどうかを設定します。
ゲストポート用LAN側IPアドレス	ゲストユーザーに提供するLAN側IPアドレスを設定します。手動設定の場合、[推奨値を設定する]をクリックすると、ゲストポート用LAN側IPアドレスの推奨値が入力されます。
ゲストポート用DHCPサーバー機能	ゲストポート用LAN側IPアドレスを手動設定にすると表示されます。ゲストユーザー用にDHCPサーバー(IPアドレス自動割り当て)機能を使用するかどうかを設定します。
利用可能時間	ゲストポートを有効にしてから無効にするまでの時間を選択します。
SSID	ゲストユーザー用のSSIDを入力します。(半角英数字または記号で32文字以内)
無線の認証	ゲストユーザーが接続の際に使用する認証方式を指定します。
無線の暗号化	ゲストユーザーが接続の際に使用する暗号化方式を指定します。
WPA-PSK(事前共有キー)	ゲストユーザーが接続の際に使用する事前共有キーを指定します。
Key更新間隔	通信用暗号化キーの更新間隔を設定します。
ゲストユーザーの表示/操作	ゲストユーザーの状態を表示します。[OFF]をクリックするとそのゲストユーザーを無効に、[ON]をクリックすると有効にします。
ゲストユーザーの編集	ゲストユーザーの編集を行うことができます。 ユーザー名 ゲストユーザーの認証に使用するユーザー名を半角記号64文字以内で登録します。 パスワード ゲストユーザーの認証に使用するパスワードを半角記号64文字以内で登録します。

無線引っ越し機能

無線引っ越し機能を使用した際の無線設定の引き継ぎ状況を表示する画面です。

無線設定 > 無線引っ越し機能

無線引っ越し状態
無線引っ越し済み

無線引っ越し機能用セキュリティ設定

11n/g/b	SSID	Buffalo-G-XXXX
	セキュリティ	WPA/WPA2-mixed mode - PSKTKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
11ac/n/a	SSID	Buffalo-G-XXXX-4
	セキュリティ	WPA/WPA2-mixed mode - PSKTKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
11n/g/b	SSID	Buffalo-G-XXXX-2
	セキュリティ	認証を行わない WEP128
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
11ac/n/a	SSID	Buffalo-G-XXXX-3
	セキュリティ	認証を行わない WEP64
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
11n/g/b	SSID	Buffalo-A-XXXX
	セキュリティ	WPA/WPA2-mixed mode - PSKTKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
11ac/n/a	SSID	Buffalo-A-XXXX-4
	セキュリティ	WPA/WPA2-mixed mode - PSKTKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
11n/g/b	SSID	Buffalo-A-XXXX-2
	セキュリティ	認証を行わない WEP128
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
11ac/n/a	SSID	Buffalo-A-XXXX-3
	セキュリティ	認証を行わない WEP64
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX

引っ越した設定を全削除

項目	内容
無線引っ越し状態	無線の引っ越しを実施したかどうかを表示します。
無線引っ越し機能用セキュリティ設定	無線引っ越し機能を使用して引き継いだ無線設定情報を表示します。
引っ越した無線設定を全削除	クリックすると、無線引っ越し機能で引き継いだ無線設定をすべて削除します。

メモ:

- 無線の引っ越し方法は、別紙「無線親機を本製品に買い換えた方へ」を参照してください。
- 一度無線の引っ越しを実施した状態でもう一度無線の引っ越しを行いたい場合は、[引き継いだ無線設定を全削除]をクリックして設定を削除してから実施してください。

中継機能(WB)

中継機能の設定を行う画面です。

メモ: 本製品を中継機として使用する場合、接続先の無線親機はWXR-2533DHPまたはWXR-2533DHP2である必要があります。

無線設定 > 中継機能(WB) (中継動作時のみ)

中継機能	
中継機能の状態	未接続
SSID	-
セキュリティ	-
5GHz/2.4GHz 選択	自動(5GHz 優先) ▼
無線LAN親機設定	☒ 接続時に中継機能の設定で動作する

本機の無線LAN親機機能を停止する場合は [2.4GHz](#) 及び [5GHz](#) から無線機能を停止してください。

[手動設定](#)

[手動設定をする](#)

項目	内容
中継機能の状態	中継機能の状態を表示します。
SSID	本製品の接続先のSSIDが表示されます。
セキュリティ	接続先との接続で使用しているセキュリティの種類が表示されます。
2.4GHz/5GHz 選択	接続先と接続する際の優先順位を設定します。
無線LAN親機設定	「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックを入れると、無線親機と接続した周波数帯(5GHzまたは2.4GHz)のSSIDと暗号化キーを引き継ぎます。 メモ: 無線親機との接続に使用していない周波数帯のSSID・暗号化キーは引き継がれません。
[手動設定をする]	ボタンをクリックすると、本製品周辺の無線親機が検索されます。 接続したい無線親機を選択し、暗号化キーを入力すると、接続処理が完了します。

ファイアウォール

本製品のファイアウォール機能を設定する画面です。

セキュリティ > ファイアウォール(ルーターモード時のみ)

ファイアウォール設定 - IPv4		
有効	簡易ルール	バケット数
☐	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する	0
☒	IDENTの要求を拒否する	0
☒	Internet側からのPINGに応答しない	0
ファイアウォール設定 - IPv6		
有効	簡易ルール	バケット数
☒	Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する	0
☒	IDENTの要求を拒否する	0
☐	Internet側からのPINGに応答しない	0
☒	Internet側からの接続要求を転送しない	0

項目	内容
ファイアウォール設定 - IPv4	IPv4接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。各フィルターの内容は以下のとおりです。 NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する 有効にすると、インターネット側からLAN側およびLAN側からインターネット側へのMicrosoftネットワーク共有機能は使用できなくなります。 IDENTの要求を拒否する 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、Webブラウザなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定(DMZまたはTCPポート:113)になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 Internet側からのPINGに応答しない 有効にすると、インターネット側からのPINGに응答しなくなります。 メモ:「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのサービスをお使いの場合 - 本項目は設定変更できません。 - 本項目の回線側を含めた動作は、本項目の表示に関わらず回線仕様に従います。

項目	内容
ファイアウォール設定 - IPv6	IPv6接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。 各フィルターの内容は以下のとおりです。 Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する 有効にすると、外部のWindows/パソコンとのIPv6を利用したWindowsファイル共有機能によるファイル共有を遮断します。 IDENTの要求を拒否する 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、Webブラウザなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定（DMZまたはTCPポート:113）になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。 Internet側からのPINGに応答しない 有効にすると、インターネット側からのPINGに応答しなくなります。 Internet側からの接続要求を転送しない 有効にすると、インターネット側からの接続要求を遮断します。 メモ: 以下の場合は、ファイアウォールは動作しません。 ・ 前述のInternet > IPv6画面で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合 ・ インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

IPフィルター

LAN側とインターネット側の間で通過するパケットに関するIPフィルターの編集を行う画面です。IPv4接続の場合はこの画面で設定を行ってください。

セキュリティ > IPフィルター(ルーターモード時のみ)

IPv4フィルターの新規追加

動作	無視		
方向	Internet->LAN		
IPアドレス	送信元		-> 宛先
プロトコル	☐ すべて		
	☐ ICMP		
	☐ 任意		
	☒ TCP/UDP		
	プロトコル番号		
	任意のTCPポート		
	任意のTCP/UDPポート		

追加

IPv4フィルター登録情報

動作	方向	送信元アドレス 宛先アドレス	プロトコル	パケット数	操作
IPv4フィルターは登録されていません					

項目	内容
動作	対象となるパケットの処理方法を指定します。
方向	対象となるパケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となるパケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPフィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

IPv6フィルター

LAN側とインターネット側の間で通過するパケットに関するIPフィルターの編集を行う画面です。IPv6接続の場合はこの画面で設定を行ってください。

メモ: 以下の場合、IPv6フィルターは動作しません。

- ・ 前述のInternet > IPv6画面で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合
- ・ インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

セキュリティ > IPv6フィルター(ルーターモード時のみ)

IPv6フィルターの新規追加

動作	無視		
方向	Internet->LAN		
IPアドレス	送信元		
	宛先		
プロトコル	☐ 全て		
	☐ ICMPv6		
	☐ 任意	プロトコル番号:	
	☒ TCP/UDP	任意のTCPポート	任意のTCP/UDPポート:

追加

IPv6フィルター 登録情報

動作	方向	送信元アドレス 宛先アドレス	プロトコル	パケット数	操作
IPv6フィルターは登録されていません					

項目	内容
動作	対象となるパケットの処理方法を指定します。
方向	対象となるパケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となるパケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPv6フィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

VPNパススルー

PPPoEパススルー、PPTPパススルーに関する設定を行う画面です。

セキュリティ > パススルー(ルーターモード時のみ)

PPPoEパススルー機能	☐ 使用する
PPTPパススルー	☒ 使用する

項目	内容
PPPoEパススルー機能	PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを設定します。 PPPoEブリッジ機能を使用すると、PPPoEパケットがインターネット - LAN間ですべて通過できるようになり、LAN側に接続したパソコンでPPPoEプロトコルを使用してプロバイダーからIPアドレスを自動取得することができるようになります。
PPTPパススルー	アドレス変換において、PPTPパススルー機能を使用するかどうかを設定します。

ポート変換

ポート変換に関する設定を行う画面です。

メモ:

- ・「transix」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- ・「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。

セキュリティ > ポート変換(ルーターモード時のみ)

ポート変換の新規追加	
グループ	新規追加 新規追加
Internet側IPアドレス	エアステーションのInternet側IPアドレス 手動設定:
プロトコル	☐ すべて ☐ ICMP ☐ 任意 プロトコル番号 ☒ TCP/UDP 任意のTCP/UDPポート 任意のTCP/UDPポート: 指定の仕方
LAN側IPアドレス	192.168.11.5
LAN側ポート	TCP/UDPポート:
新規追加	
ポート変換登録情報	
グループ	Internet側IPアドレス
LAN側IPアドレス	プロトコル
LAN側ポート	操作
ポート変換設定は登録されていません	

項目	内容
利用可能ポート	「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、利用可能なポート番号が表示されます。
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択して新規グループ名を入力すると、新たなグループを作成します。英数字で16文字までのグループ名を付けることができます。
Internet側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するインターネット側(変換前)のIPアドレスを設定します。
プロトコル	ポート変換テーブルに追加するインターネット側(変換前)のプロトコルを設定します。
LAN側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するLAN側(変換後)のIPアドレスを設定します。
LAN側ポート	ポート変換テーブルに追加するLAN側(変換後)のポート番号(1～65535)を設定します。
ポート変換登録情報	現在設定されているポート変換テーブルの有効/無効の指定を行います。

DMZ

LAN側からの通信と無関係な通信パケットの転送先を設定する画面です。

メモ:

- ・「transix」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- ・「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

セキュリティ > DMZ(ルーターモード時のみ)

DMZのアドレス

※設定画面を表示している機器のIPアドレス[192.168.11.5]

項目	内容
DMZのアドレス	ポート変換テーブルに設定されていないパケットの転送先IPアドレスを設定します。 (RIPプロトコル(UDPポート番号520)のパケットは、転送されません)

UPnP

UPnP (Universal Plug and Play) に関する設定を行う画面です。

セキュリティ > UPnP(ルーター動作時のみ)

UPnP機能 ☒ 使用する

項目	内容
UPnP機能	UPnP機能を使用するかどうかを設定します。

アクセスコントロール

お使いの端末がインターネットに接続できる時間を設定する画面です。

セキュリティ > アクセスコントロール(ルーターモード時のみ)

アクセスコントロール ☐ 使用する

MACアドレス	状態	操作
アクセスコントロールは登録されていません		

アクセスコントロールの追加

項目	内容
アクセスコントロール	インターネットへの接続を制限する場合に「使用する」にチェックを入れます。
[アクセスコントロールの追加]	インターネットへの接続を許可する(または制限する)時間帯や曜日、対象となる端末などのルールを設定する場合にクリックします。

ディスク管理

本製品に接続したUSBドライブに関する情報表示や管理を行う画面です。

アプリケーション > ディスク管理

USBディスクの自動割当
☒ 使用する

[\[拡張設定\]](#)

拡張機能
☐ 表示する

 デバイスが未接続です

USBデバイスの再認識

ユーザー情報

No.	ユーザー名	ユーザーの説明	操作
--	guest	ゲストアクセス用の組み込みユーザー	----
ユーザーは登録されていません			

[ユーザーの追加](#)

項目	内容
USBディスクの自動割当	USBドライブの番号を自動的に割り当てるかどうかを設定します。
拡張機能	クリックすると、拡張機能の項目が表示されます。
FATフォーマットファイル名文字コード	FATフォーマットでのファイル名の文字コードを指定します。
HDD節電機能	USBドライブの節電機能を使用するかどうかを設定します。
HDD停止時間	USBドライブが指定した時間未使用だった場合、USBドライブの電源をオフにします。指定できる時間は1～300分です。
デバイス情報	認識したUSBドライブの「製造者」「製品名」「ユニット名」を表示します。
取り外し	USBドライブを取り外せるようにします。「取り外し可能」と表示されたら、本製品からUSBケーブルを抜いてください。
ディスク割当	USBディスクの自動割当を使用していないとき、ディスク番号もしくは「割当しない」を選択します。
パーティション情報	パーティション情報を表示します。
USBデバイスの再認識	USB機器を再認識します。
共有フォルダー設定	パーティションを選択し、共有欄の[設定変更]をクリックすると表示されます。 USBドライブへのアクセス制限を行います。
共有フォルダー名※	共有時に公開するフォルダー名を半角18文字までで設定します。文字には、半角英数字の他に各国の文字と「-」「_」が入力可能です。先頭文字に数字と記号は入力できません。
共有フォルダーの説明※	共有時に公開するフォルダーの説明を半角75文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。
ディスクパーティション領域※	ディスクパーティションの「選択」「ディスクパーティション領域」「フォーマット」「使用/容量(使用率)」を表示します。
公開先※	登録した共有フォルダーで使用する機能 (Win/MacOS (Samba)) を選択します。
フォーマット	USBドライブのフォーマットを行う画面に移動します。
ユーザー情報	登録しているユーザー情報が表示されます。
[ユーザーの追加]	クリックすると、ユーザー登録の画面が表示されます。

項目	内容
ユーザー名	共有フォルダーのアクセスに必要なユーザー名を半角英数字および「-」「_」「.」で1～20文字までで設定します。記号は先頭文字には入力不可です。
パスワード	共有フォルダーのアクセスに必要なパスワードを半角英数字および「-」「_」「.」で1～20文字までで設定します。先頭文字に「-」は入力不可です。
ユーザーの説明	ユーザー名の説明を半角75文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、半角スペース、「-」「_」が入力可能です。

※「USBディスクの自動割り当て」を使用していない場合のみ表示されます。

共有サービス

共有サービスの有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

アプリケーション > 共有サービス

共有フォルダー機能	☒ 使用する
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX
エアステーション説明	
ワークグループ名	WORKGROUP
Windowsクライアント言語	日本語 Shift-JIS(CP932) ▼
[共有サービスステータス]	
共有サービスの状態	使用不可(認識可能なディスクがありません。)

項目	内容
共有フォルダー機能	共有フォルダー機能を使用するかどうかを設定します。
エアステーション名	エアステーション名を設定します。 メモ: [管理]－[システム設定]－[エアステーション名]と同じです。共有サービスとして使用できるホスト名になります。
エアステーション説明	エアステーションの説明を半角48文字/全角16文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、半角スペース、「-」「_」「.」が入力可能です。
ワークグループ名	ワークグループ名を半角15文字までで設定します。半角英数字の他に各国の文字、「-」「_」「.」が入力可能です。
Windowsクライアント言語	Windowsクライアントで使用する言語を選択します。
共有サービスステータス	共有サービスで使用するUSBドライブの状態を表示します。 メモ: 使用不可の場合、USBドライブの状態を確認してください。

アドバンスドQoS

ネットワークの帯域をより効果的に利用するためのアドバンスドQoS機能の有効/無効の設定や状態を確認する画面です。

アプリケーション > アドバンスドQoS(ルーターモード時のみ)

アドバンスドQoS設定

アドバンスドQoS機能

☐ 使用する

おもな用途

ビデオの視聴

手動設定

ビデオ

優先度 1 (高)

会議

優先度 2 (高)

ゲーム

優先度 3 (中)

オーディオ

優先度 4 (中)

ブラウジング

優先度 5 (低)

ダウンロード

優先度 6 (低)

ユーザー設定

Nb.

登録名

優先度

操作

ユーザー設定は登録されていません

ユーザー設定の追加

すべて削除

項目	内容
アドバンスドQoS機能	アドバンスドQoS機能を使用するかどうかを設定します。
おもな用途	通信の主な用途を選択します。
手動設定	「おもな用途」で「手動設定」にした場合に使用する動作ポリシーです。各カテゴリの優先度を設定します。
ユーザー設定	登録されたユーザー定義ルールが表示されます。
[ユーザー設定の追加]	クリックすると、ユーザーを登録できます。最大登録数は17です。
登録名	ユーザー設定の名称を入力します。
優先度	ユーザー設定の優先度を選択します。
プロトコル	対象となるプロトコルを選択します。
リモート設定	インターネット側サーバーの設定を指定します。
ローカル設定	LAN側のどの端末に対する設定かを指定します。

システム設定

本製品のシステムに関する設定する画面です。

管理 > システム設定

システム情報	
エーステーション名	APXXXXXXXXXXXX
管理ユーザー名	admin (変更することはありません)
管理パスワード	●●●●●●●● ☐ パスワードを表示する
アクセス	
有効	制限項目
☐	無線LANからの設定を禁止する
☐	有線LANからの設定を禁止する
バケット数	
	0
	0
Internet側リモートアクセス設定	
有効	制限項目
☐	Internet側リモートアクセス設定を許可する
デバイスコントロール	
有効	制限項目
☐	デバイスにポータブルポートスキャンを実行する
時刻	
NTP機能	☒ 使用する
サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
確認時間	24 時間毎
日付	2016 年 12 月 26 日
時刻	17 時 35 分 57 秒
タイムゾーン	(GMT+09:00)東京、大阪、ソウル
現在の時刻を表示 現在アクセス中のパソコンから時刻を取得	

項目	内容
エーステーション名	本製品の名称を半角英数字と「-」で、64文字までで設定します。
管理ユーザー名	本製品の設定画面へログインするときのユーザー名です。「admin」以外に変更できません。
管理パスワード	本製品の設定画面へログインするときのパスワードを半角英数字と「_」で、8文字までで設定します。
無線LANからの設定を禁止する	本製品に無線接続した端末から本製品の設定が行えないようにします。 メモ: 無線接続で設定画面にアクセスしている場合は、この機能を有効にすると設定画面にアクセスできなくなります。
有線LANからの設定を禁止する	本製品のLANポートに接続された端末から本製品の設定が行えないようにします。 メモ: 有線接続で設定画面にアクセスしている場合は、この機能を有効にすると設定画面にアクセスできなくなります。

項目	内容
Internet側リモートアクセス設定を許可する	インターネットに接続されたネットワーク機器から本製品の設定画面へのアクセスを制限するかどうかを設定します。 アクセスを許可する場合は、許可IPアドレスと許可ポートを設定します。 メモ:「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのサービスをお使いの場合、Internet側リモートアクセスは使用できません。
デバイスに対しポートスキャンを実行する	チェックを入れると、本製品はWeb設定画面を持つ端末の検出を行います。セキュリティソフトなどが本製品からのポートスキャンを警告する場合は、チェックを外してください。
NTP機能	NTPサーバーを使って本製品の内部時計を設定するかどうかを指定します。
サーバー名	NTPサーバーの名称をホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる周期(1～24時間ごと)を設定します。
日付	本製品の内部時計の日付を手動で設定します。
時刻	本製品の内部時計の時刻を手動で設定します。
タイムゾーン	本製品の内部時計のタイムゾーン(グリニッジ標準時からの時差)を指定します。

ログ

syslogによる本製品のログ情報を転送するための設定を行う画面です。

管理 > ログ

syslog設定

ログ情報転送機能

☐ 使用する

syslogサーバー

転送するログ情報

☒ アドレス変換
☒ IPフィルター
☒ ファイアウォール
☒ PPPクライアント
☒ ダイナミックDNS
☒ DHCPクライアント
☒ DHCPサーバー
☒ AOS
☒ 無線
☒ 認証
☒ 設定変更
☒ システム起動
☒ NTPクライアント
☒ 有線リンク
☒ USB
☒ システム

すべて選択

すべて解除

[拡張設定]

詳細なログ取得

☐ アドレス変換
☐ IPフィルター
☐ ファイアウォール
☐ アクセスフィルター

項目	内容
ログ情報転送機能	ログ情報転送機能を使用するかどうかを設定します。
syslogサーバー	syslogサーバーのアドレスをホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
転送するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
詳細なログ取得	「アドレス変換」、「IPフィルター」、「ファイアウォール」、「アクセスフィルター」に関するログ情報を取得するかどうかを設定します。

設定管理/再起動

本製品の設定の保存、復元や初期化、再起動を行う画面です。

管理 > 設定管理/再起動

設定管理	
操作	☒ 設定ファイルを保存する ☐ 設定ファイルを復元する ☐ 設定を初期化する
パスワード	☐ パスワードを使用する ☐ パスワードを表示する
設定操作実行	
再起動	
再起動	エアステーションを再起動します。 再起動

項目	内容
操作	操作内容を選択します。 設定ファイルを保存する 本製品の設定内容を設定ファイルに保存します。 [設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルをパスワードで暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルを復元する 本製品の設定を、設定ファイルから復元します。 「設定ファイル」欄の[ファイルを選択]をクリックして設定ファイルを指定し、[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 設定を初期化する 本製品の設定を初期化して、再起動します。 [設定操作実行]をクリックしてください。
再起動	クリックすると、本製品が再起動します。

ファームウェア更新

本製品のファームウェアを更新するための画面です。

管理 > ファームウェア更新

ファームウェアバージョン	WXR-2533DHP2 Ver. X.XX	
更新方法	☒ ローカルファイル指定 ☐ オンラインバージョンアップ	
ファームウェアファイル名	参照...	
更新実行 ※ファームウェアは、下のリンクからダウンロードできます。 ファームウェアダウンロードサイト		
[拡張設定]		
ファームウェア自動更新機能	重要な更新のみ行う	
現在時刻	2016年9月6日(火曜日) 14:40	現在の状態を表示
更新時刻	毎日 4:00 - 4:59	
設定		

項目	内容
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンを表示します。
更新方法	ファームウェアの更新方法を設定します。 ローカルファイル指定 パソコンに保存されているファームウェアファイルを使用して更新を行います。 オンラインバージョンアップ インターネットから自動的に最新のファームウェアファイルをダウンロードして更新を行います。
ファームウェアファイル名	「ローカルファイル指定」時にファームウェアファイル名を指定します。
ファームウェア自動更新機能	ファームウェアの自動更新方法を設定します。 重要な更新のみ行う セキュリティーに関わる脆弱性の対応など、重要な更新があった場合、ファームウェアを自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 常に最新版に更新する 本製品の新しいファームウェアがリリースされると、自動的にダウンロードして本製品へ適用します。 更新せずに通知のみ行う 新しいファームウェアがリリースされたときに、設定画面に通知します。本製品への適用は行いません。 更新しない 新しいファームウェアがリリースされても、設定画面への通知や本製品へ適用は行いません。
現在時刻	現在の時刻が表示されます。
更新時刻	自動更新を行う時間帯を設定します。

システム

本製品の現在の状態が表示されます。

ステータス > システム

製品名	WR-2530HP Ver.00.XXXX (RXXXX/EXXXX)
エアステーション名	WR-2530HP
動作モード	ルーターモード(Autoスイッチ) インターネット取得方法 インターネットスタートを行う・PPPoE接続
Internet	接続先 InternetStart(デフォルトの接続先) 接続状態 通信中 操作 停止 IPアドレス XXXX.XXX.XXX.XXX PPPoEユーザ名 XXXX.XXX.XXX.XXX DNS(プライマリ) XXXX.XXX.XXX.XX (自動取得) DNS(セカンダリ) XXXX.XXX.XXX.XX (自動取得) MTU値 1454
LAN	有線リンク 100Base-TX(全二重) MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX IPアドレス 192.168.11.1 サブネットマスク 255.255.255.0 DHCPサーバー 有効 MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX
IPv6	IPv6接続方法 インターネットスタートを行う NDプロキシ IPv6接続状態 グローバルアドレス 2001:a251:220:8500::c0e1:d5ff:fe3:aca1 Internet(リンク) Localアドレス fe80::c0e1:d5ff:fe3:aca1 IPv6デフォルトゲートウェイ fe80::212e:2ff:fe70::a0 (自動取得) DNS(プライマリ) 2001:a78:5001::a (自動取得) DNS(セカンダリ) 2001:a78:5001::a (自動取得) LAN(リンク) Localアドレス fe80::c0e1:d5ff:fe3:aca0 サブネットID 0000 インターフェースID c0e1:d5ff:fe3:aca0 アドレス配布方法 ステートレスアドレスで自動配布 アドレス配布状態 停止中
無線(2.4 GHz)	無線状態 制御なし SSID Buffalo-0-XXXX 認証方式 WPA2-PSK 暗号化 AES ANY接続 許可する ブレイク/シーセ/レーター (使用しない) 無線チャンネル 6(自動設定) 伝送モード 20 MHz MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX
無線(5 GHz)	無線状態 制御なし SSID Buffalo-A-XXXX 認証方式 WPA2-PSK 暗号化 AES ANY接続 許可する ブレイク/シーセ/レーター (使用しない) 無線チャンネル 100(自動設定) 伝送モード 80 MHz MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX
ゲストポート機能	ゲストポート機能 (使用しない)
NAS	USBディスク 未接続 共有フォルダ 機能 使用する

現在の状態を表示

項目	内容
製品名	本製品の製品名とファームウェアのバージョンが表示されます。
エアステーション名	エアステーション名が表示されます。
動作モード	現在の動作モードが表示されます。
Internet	インターネット側の情報が表示されます。
LAN	LAN側の情報が表示されます。
IPv6	IPv6接続に関する情報が表示されます。
無線(2.4GHz)	2.4GHz帯の無線情報が表示されます。
無線(5GHz)	5GHz帯の無線情報が表示されます。
ゲストポート機能	ゲストポートの情報が表示されます。
NAS	本製品のNAS機能に関する情報が表示されます。

ログ

本製品に記録されているログ情報を確認する画面です。

ステータス > ログ

表示するログ情報	☒ アドレス変換	☒ IPフィルター
	☒ ファイアウォール	☒ PPPクライアント
	☒ ダイナミックDNS	☒ DHCPクライアント
	☒ DHCPサーバー	☒ AOS
	☒ 無線	☒ 認証
	☒ 設定変更	☒ システム起動
	☒ NTPクライアント	☒ 有線リンク
	☒ USB	☒ システム
	表示 すべて選択 すべて解除	
	ログ情報 ファイル(logfile.log)に保存する 消去	
日付時刻	種類	ログ内容
2015/01/01 20:19:25	AUTH	Admin login from source 192.168.11.2

項目	内容
表示するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
ログ情報	本製品に記録されているログ情報が表示されます。

通信パケット

本製品が通信したパケットの合計を確認する画面です。

ステータス > 通信パケット

インターフェース	送信パケット数		受信パケット数	
	正常	エラー	正常	エラー
LAN側有線	14574	0	16003	0
Internet側有線	460	0	184	0
LAN側無線(2.4 GHz)	122	13	67	0
LAN側無線(5 GHz)	0	26	0	0
PPPoE No.1: Internet@Start	59	0	52	0
現在の状態を表示				

項目	内容
送信パケット数	インターネット側有線、LAN側有線、PPPoE、LAN側無線に送信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。
受信パケット数	インターネット側有線、LAN側有線、PPPoE、LAN側無線から受信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。

診断

本製品からネットワーク上の他の機器との接続確認を行う画面です。

ステータス > 診断

送信プロトコル	☒ IPv4 ☐ IPv6
宛先アドレス	
実行	
実行結果	
宛先	未入力
実行結果	未実行

項目	内容
送信プロトコル	Pingテストを行うプロトコルを選択します。
宛先アドレス	接続確認を行う機器のIPアドレス、またはホスト名を入力し、[実行]をクリックすると、「実行結果」欄に結果が表示されます。

第3章 本製品の各種設定

本章では、本製品の各種設定について説明します。

管理パスワードを変更する

管理パスワード(設定画面のパスワード)は、初期設定では「password」に設定されています。そのままご使用になると、不正アクセスを受けたり、第三者によって意図しない設定に変更されたりする可能性があります。本製品の管理者だけが設定を変更できるように、以下の手順に従って管理パスワードを変更してください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「管理」－「システム設定」をクリックします。

3 「管理パスワード」に新しいパスワードを入力し、「設定」をクリックします。

管理パスワードは、半角英数字またはアンダーバー(_)で1～8文字で設定してください。
変更した管理パスワードを忘れると設定画面を表示できなくなりますので、必ず控えをとってください。

システム情報	
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX
管理ユーザー名	admin (変更することはできません)
管理パスワード	●●●●●● ☐ パスワードを表示する
アクセス	
使用する	管理アクセス パケット数

メモ:

- ・ 生年月日や名前など、第三者から類推されやすい単語は管理パスワードに設定しないでください。
- ・ 管理パスワードを忘れた場合は、本製品のRESETボタンを約3秒間押して、本製品の設定を初期化してください。その場合、パスワード以外の設定(インターネット設定や無線接続設定など)も初期化されます。

以上で設定は完了です。

USBドライブをNASとして使用する方法

本製品に接続したUSBドライブをネットワークディスク (NAS) として使用する方法を説明します。

メモ:

- USBドライブは、当社で動作確認済みの製品をご使用ください。
- 使用できるUSBドライブのフォーマット形式は、FAT12/FAT16/FAT32/EXT4です。
- USBドライブを取り外しは、後述の「USBドライブの取り外しかた」を参照してください。
- 本製品に接続したUSBドライブをNASとして使用する際の制限事項は、後述の「USBドライブ使用時の制限事項」を参照してください。
- 大切なデータはバックアップを行ってください。

USBドライブの接続と共有フォルダーへのアクセス方法

本製品に接続したUSBドライブにアクセスする方法を説明します。

1 USBドライブを本製品左側面のUSB 3.0ポートに接続します。

2 USBドライブの電源がオフの場合は、電源を入れます。

共有フォルダーへアクセスするには

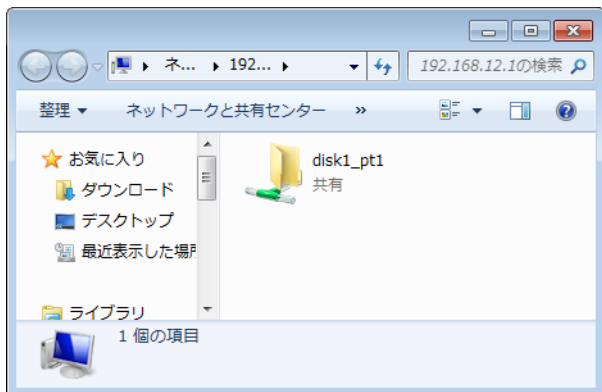
Windowsの場合は、Webブラウザのアドレス欄で「¥¥(本製品のIPアドレス)」を指定します。

Macの場合は、メニューより、[移動] - [サーバへ接続] をクリックし、「smb://(本製品のIPアドレス)」を指定して共有フォルダーをマウントします。

共有フォルダーが表示されない場合は、本製品の設定画面で「詳細設定」-「アプリケーション」-「共有サービス」-「共有フォルダー機能」の「使用する」にチェックが入っているか確認してください。

共有フォルダー名について

共有フォルダー名は「disk*_pt*」です。(*にはディスク番号、パーティション番号が入ります。)



以上で設定は完了です。

USBドライブが認識されない、アクセスできないなど問題がある場合は、後述の「USBドライブにアクセスできないときは」を参照してください。

USBドライブの節電設定

USBドライブの電源を自動でオフにする方法を説明します。

- 1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」をクリックします。
- 3 拡張機能の「表示する」にチェックを入れます。
- 4 HDD節電機能の「使用する」にチェックを入れ、「HDD停止時間」を入力して「設定」をクリックします。

USBディスクの自動割当 ☒ 使用する

[拡張設定]

拡張機能 ☒ 表示する

FATフォーマットファイル名 文字コード 日本語 Shift-JS (CP932) ▼

HDD節電機能 ☒ 使用する
HDD停止時間 10 分

メモ:

- ・ ご使用の環境により、本機能が動作しない場合があります。
- ・ HDD節電機能でUSBディスクの回転が止まらない場合は、HDD節電機能を使用しないでください。
- ・ USBドライブの電源をオフからオンにした際、USBドライブが認識できない場合は、HDD節電機能を無効にした後、「取り外し」をクリックし、USBドライブを一度取り外してから、もう一度接続してください。

以上で設定は完了です。

USBドライブの取り外しかた

USBドライブを取り外す方法を説明します。

メモ: USBドライブにアクセス中に取り外すとデータ破損などの原因となります。

- 1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 2 「詳細設定」－「アプリケーション」－「ディスク管理」をクリックします。
- 3 USBドライブを選択します。
- 4 操作の「取り外し」をクリックします。

USBディスクの自動割当 ☒ 使用する

[拡張設定]

拡張機能 ☐ 表示する

USB Flash Disk

ディスク1 (自動割当)

パーティション1 (disk1_pt1)

操作 **取り外し**

USBデバイスの再認識

- 5** ディスクのアイコンが  に変わったら（黄色い三角マークが付いたら）、USBドライブを取り外します。

以上で取り外しは完了です。

USBドライブのアクセス制限設定

USBドライブにアクセス制限を設定する方法を説明します。

メモ:

- USBドライブの自動割当有効時は、USBドライブ単位にアクセス制限を設定します。
- USBドライブに複数の共有フォルダーがある場合は、すべての共有フォルダーに設定が適用されます。
- USBドライブの自動割当を無効にすると、共有フォルダー単位にアクセス制限を設定できます。

ここでは、USBドライブの自動割当有効時（USBディスク単位のアクセス制限）の設定方法を紹介します。

- 1** 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

- 2** 「詳細設定」→「アプリケーション」→「ディスク管理」をクリックします。

- 3** [ユーザーの追加]をクリックします。

ユーザー情報			
No.	ユーザー名	ユーザーの説明	操作
--	guest	ゲストアクセス用の組み込みユーザー ユーザーは登録されていません	----

- 4** 「ユーザー名」と「パスワード」および「ユーザーの説明」（任意）を入力して、[新規追加]をクリックします。



新規追加

ユーザー名	buffalo
パスワード	●●●●●●●● ☐ パスワードを表示する
ユーザーの説明	バッファロー

メモ:

- ユーザー名/パスワードは、各パソコンがログインする際に使用するユーザー名/パスワードを入力します。
- 16ユーザーまで登録できます。

- 5** 「詳細設定」→「アプリケーション」→「ディスク管理」の画面に戻ります。

6 USBドライブのパーティションを選択し、共有欄の[設定変更]をクリックします。

共有	Win/MacOS(Samba) メディアサーバー BitTorrent 設定変更
フォーマット	FAT
状態	使用可能
使用/容量(使用率)	0 MB / 485 MB (0%)
操作	フォーマット

7 「アクセス制限機能」の「アクセス制限あり」を選択します。

8 ユーザー名を選択し、[<-] [>-] ボタンを使用して「読取/書込可能」「読取専用」「アクセス不可」へ移動し、[修正保存]をクリックします。

以上で設定は完了です。

USBドライブにアクセスできないときは

本製品に接続したUSBドライブにアクセスできないときは、以下の手順で設定を確認してください。

原因1:USBドライブが割り当てられていない

- 1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 2 「詳細設定」-「アプリケーション」-「ディスク管理」をクリックします。
- 3 ディスク番号が自動的に割り当てられることを確認します。



メモ:

- 「USBディスクの自動割当」の「使用する」にチェックが入っていない場合は、手動でディスク番号を割り当てます。
- フォーマットがFAT12/FAT16/FAT32/EXT4以外の場合は、FAT12/FAT16/FAT32/EXT4へのフォーマットが必要です。(フォーマットを行うとデータは消去されます)

原因2:アクセス制限が設定されている

本章の「USBドライブのアクセス制限設定」を参照して、お使いの端末がアクセス制限されていないかを確認してください。

USBドライブのフォーマット

USBドライブをFAT/EXT4にフォーマットする方法を説明します。

- 1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 2 「詳細設定」-「アプリケーション」-「ディスク管理」をクリックします。
- 3 パーティションを選択し、操作欄の[フォーマット]をクリックします。

USBディスクの自動割当 ☒ 使用する	
[拡張設定]	
拡張機能	☐ 表示する
2.0 USB Flash Disk	
ディスク1 (自動割当)	
パーティション1 (disk1_pt1)	
共有	Win/MacOS(Samba) メディアサーバー BitTorrent 設定変更
フォーマット	FAT
状態	使用可能
使用/容量(使用率)	0 MB / 485 MB (0%)
操作	フォーマット

- 4 「フォーマット形式」を選択して、[フォーマット実行]をクリックします。

フォーマット対象	
デバイス情報	USB Flash Disk
パーティション情報	パーティション1
フォーマット	FAT
使用/容量(使用率)	0 MB / 485 MB (0%)
操作	
フォーマット形式	EXT4 ▼
状況	
フォーマット状況	未実行
[警告] ドライブの指定したパーティションもしくはドライブの全データが消えてしまいます。	
フォーマット実行	戻る

メモ:

- ・ 1ファイル4GB以上のデータはコピーできません。
- ・ 「:」などMacで使用する一部の文字が使用できません。

以上で設定は完了です。

- 本製品で使用するユーザー名、パスワードはWindowsのネットワークログイン時のユーザー名、パスワードと同じユーザー名、パスワードにしてください。異なる場合、本製品のアクセス制限を設けた共有フォルダーにアクセスできないことがあります。
- 本製品に搭載されているOSの仕様上、接続したUSBドライブへ保存したファイルの日付情報は更新されることがあります(作成日時、更新アクセスなどの日付情報は保持されません)。
- ドライブの容量をブラウザーから確認したときと、Windowsのドライブのプロパティから確認したときで、値が異なる場合があります。
- Windows 10/8.1/8/7/Vistaにguestアカウントでログインした場合、本製品に出荷時設定されているguestアカウントが存在するためアクセス制限が正常に動作しない場合があります。
- Macからアクセスされた共有フォルダーには、Mac用の情報ファイルが自動生成されることがあります。これらをWindowsから削除した場合、Macからアクセスできなくなることがありますので削除はしないでください。

本製品のUSB端子に関する制限事項

- 本製品のUSB端子に接続できるのは、USBドライブ、USBカードリーダー(5ドライブ以上認識されるカードリーダーは非対応)、USBハブ(セルフパワー型の対応機種のみ)です。デジタルカメラ、CD/DVDドライブ、マウス、キーボードなどのUSB機器を接続して使用することはできません。
- ハードウェア/ソフトウェアで暗号化されたUSBディスクは使用できません。
- USBドライブによっては、節電機能が動作しないことがあります。
- 本製品のUSB端子に接続して使用できるドライブは1台までです。当社製ハードディスク以外のハードディスクは対応しておりません(当社製DIU/DUBシリーズは非対応)。対応ハードディスクは、当社ホームページをご参照ください。AUTO電源機能を搭載したハードディスクを本製品に接続しても認識できないことがあります。そのようなときは、「AUTO電源機能切替スイッチ」を「MANUAL」に設定してください。
- USB端子に接続したドライブは第4パーティションまで認識できます。ファイルシステムはFAT12/FAT16/FAT32/EXT4を認識できます。

USBハブ使用時の制限事項

- USBハブは、本製品に対応したもの(セルフパワー型)をご使用ください。対応機種については、当社ホームページでご確認ください。
- USBドライブへのデータ書き込み中やデータ読み出し中に、USBハブにUSB機器を接続すると、データの書き込み/読み出しが中断されます。

来訪者向け無線設定を行う(ゲストポート設定)

本製品では、通常のネットワークから隔離された別の無線ネットワーク(ゲストポート)を設定できます。このゲストポートを活用することで、自宅のネットワークのセキュリティを保ちつつ、来訪者に対してインターネット環境を提供できます。

メモ:

- ・ ゲストポートは、インターネットにのみ接続できるネットワークです。ゲストポート側からほかのネットワークにアクセスすることはできません。
- ・ ゲストポートに接続した端末は、IPv6通信できません。

来訪者がかんたんに接続できるように設定する場合

ここでは例として、かんたんにゲストポートを有効にする手順を説明します。

製品本体のボタンを押す場合

本製品左側面の「GUESTボタン」を約1秒間押してください。GUESTランプが緑色に点灯していることを確認したら、設定は完了です。

設定画面から有効にする場合

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「ゲストポート」を「On」に切り替えます。



製品本体のボタンを押す場合、設定画面から有効にする場合どちらでゲストポートをオンに切り替えても、以下の設定が行われます。

ユーザー認証 - Off

利用可能時間 - 3時間

SSID - Guest-XXXX (MACアドレスの下4桁)

暗号化設定 - なし

メモ:

- ・ 暗号化設定や利用可能時間を変更したい場合は、上記の画面で「ゲストポート」のパネルをクリックしてください。
- ・ 高度な設定を行いたい場合は、以下の「高度な設定を行う場合」を参照してください。

高度な設定を行う場合

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」-「無線設定」-「ゲストポート」をクリックします。

3 [ゲストユーザーの編集]をクリックします。

ユーザー名	接続MACアドレス	接続状態	操作
ゲストユーザーは登録されていません			

ゲストユーザーの編集

現在の状態を表示

4 ゲストユーザーを設定し、[新規追加]をクリックします。

ゲストユーザーの新規追加

ユーザー名 user3

パスワード ●●●●●●●●

☐ パスワードを表示する

新規追加

メモ: ゲストユーザーは5人まで登録できます。

5 [編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

6 ゲストポート機能とゲストユーザー認証機能を「使用する」に設定し[設定]をクリックします。

ゲストポート設定

ゲストポート機能	☒ 使用する
ゲストユーザー認証機能	☒ 使用する
ゲストポート用LAN則IPアドレス	☒ 自動設定 ☐ 手動設定
利用可能時間	3時間

メモ: 来訪者がネットワークに接続すると、ユーザー名とパスワードが求められますので、手順4で設定したユーザー名とパスワードを入力してください。

以上で設定は完了です。

無線チャンネルを変更する

本製品は、電波混雑防止機能により他の無線機器が使用していないチャンネルを検索して自動的に割り当てるため、通常はチャンネルを設定する必要はありません。ただし周囲に多くの端末がある場合、チャンネルが正しく設定されず、電波干渉が発生して転送速度が低下してしまうことがあります。

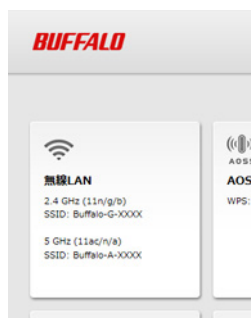
その場合は、以下の手順でチャンネルを設定してください。

メモ:

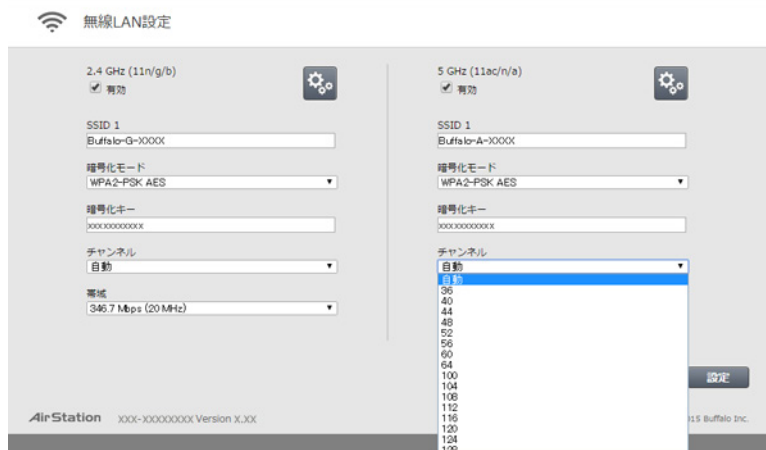
- 設定するチャンネルによっては、他の無線機器と電波干渉を起こすことがあります。
- 隣接する無線機器に異なるチャンネルを設定するとき、隣りあったチャンネルなどの近い周波数では、互いに干渉し転送速度が低下してしまうことがあります。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「無線LAN」のパネルをクリックします。



3 無線チャンネルを選択して[設定]をクリックします。



メモ:

- 本設定は無線の周波数帯(2.4GHzまたは5GHz)ごとに設定できます。
- 5GHzのチャンネルで52チャンネル以上を設定した場合、本製品が気象レーダーなどを感知すると、自動的に他の無線チャンネルへ変更されます。その際、1分程度無線通信ができなくなります。
- W52(36/40/44/48チャンネル)およびW53(52/56/60/64チャンネル)は、電波法により屋外で使用する事が禁止されています。
- 2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
- 設定後、本製品との接続が一時的に切断されますが、しばらくすると自動的に本製品に再接続され通信できるようになります。

以上で設定は完了です。

AOSS接続を解除する

ANY接続拒否設定やMACアクセス制限の設定を行うには、いったんAOSS接続を以下の手順で解除する必要があります。

AOSS接続を解除すると、本製品のSSIDや暗号化キーは、AOSS接続を行う前の値に戻るとともに、本製品に接続していたすべての端末が本製品から切断されます。各端末の取扱説明書を参照して、もう一度本製品に接続してください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「無線設定」－「AOSS」をクリックします。

3 AOSS接続解除ボタン  をクリックします。

AOSS動作設定	
AOSS 状態	AOSS 有効 
WEPをゲーム専用にする	2.4 GHz ☐ 使用する 5 GHz ☐ 使用する
本体側AOSSボタン	☒ 使用する

以上で設定は完了です。

ほかの端末から本製品を検索できなくする (ANY接続拒否設定)

本製品に無線接続するには、SSIDと暗号化キーが必要です。ANY接続拒否設定を行うと、本製品のSSIDが隠蔽されて、ほかの端末から本製品を検索できなくなるため、外部からの不正アクセスを受けにくくすることができます。

設定は、以下の手順で行います。

メモ:

- AOSSとANY接続拒否設定は同時に使用できません。以下の設定を行う前に、前述の「AOSS接続を解除する」を参照してあらかじめ設定を変更してください。
(以下の設定を行った後にAOSSを使って無線接続すると、ANY接続が「許可する」に設定変更されます)
- 以下の設定を行って本製品のSSIDを隠蔽しても、暗号化設定がされていないと外部からの不正アクセスを受けることがあります。

1 前述の「AOSS接続を解除する」を参照して、本製品の設定を変更します。

2 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

3 「詳細設定」－「無線設定」－「2.4GHz」または「詳細設定」－「無線設定」－「5GHz」をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯 (2.4GHzまたは5GHz) ごとに設定できます。

4 ANY接続の「許可する」のチェックを外して[設定]をクリックします。

[基本設定]	
無線機能	☒ 使用する
無線チャンネル	自動 (現在のチャンネル: 6)
倍速モード	帯域: 346.7 Mbps (20 MHz) (Current: 20 MHz) 拡張チャンネル: 1
ANY接続	☐ 許可する

以上で設定は完了です。

アクセス可能な端末を制限する(MACアクセス制限)

本製品に接続する端末のMACアドレスをあらかじめ登録しておき、その端末のみ本製品へのアクセスを許可できます。設定は以下の手順で行います。

メモ: AOSSとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を設定する場合は、前述の「AOSS接続を解除する」を参照して本製品の設定を変更してください。

- 1 前述の「AOSS接続を解除する」を参照して、本製品の設定を変更します。
- 2 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 3 「詳細設定」-「無線設定」-「MACアクセス制限」をクリックします。
- 4 [登録リストの編集]をクリックします。

無線パソコンの接続(2.4 GHz)	☐ 制限する
無線パソコンの接続(5 GHz)	☐ 制限する
登録リスト	
MACアドレス	接続状態
MACアドレスが登録されていません	
[登録リストの編集]	

- 5** 無線接続できる端末を指定します。「検出された無線パソコン一覧」には、現在接続されている端末のMACアドレスが表示されています。

ここで、接続可能にする端末のMACアドレスのみを[登録]をクリックして登録します。

「検出された無線パソコン一覧」に表示されていない端末を登録する場合は、「登録するMACアドレス」欄に接続する端末のMACアドレスを入力し、[新規追加]をクリックします。MACアドレスを入力するときは、2桁ずつコロン(:)で区切って入力します。登録できるMACアドレスは64個までです。

- 6** 登録が終わったら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

- 7** 「制限する」にチェックを入れ、[設定]をクリックします。

メモ: 本設定は無線の周波数帯(2.4GHzまたは5GHz)ごとに設定できます。

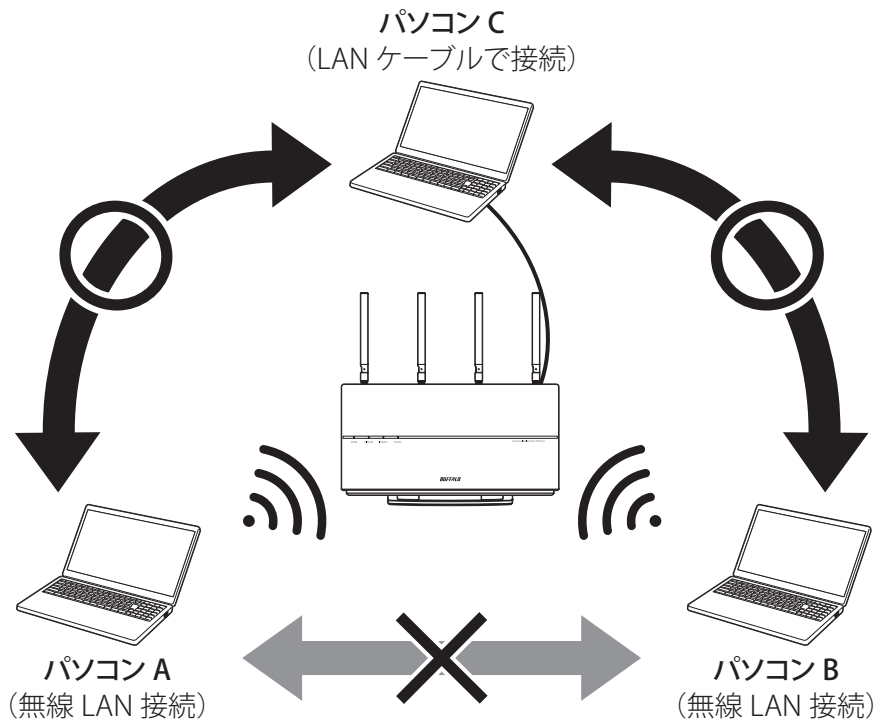
- 8** 「無線パソコンのMACアクセス制限を有効にします」と表示されたら、[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

端末同士の通信を禁止する(プライバシーセパレーター)

プライバシーセパレーター機能を使用すると、本製品に無線接続している端末同士のアクセス(共有フォルダーなどへのアクセス)を禁止できます。

メモ: 本製品にLANケーブルを使って接続している端末がある場合は、プライバシーセパレーターを有効にしても、アクセスを禁止することはできません。たとえば以下の図のような接続の場合、プライバシーセパレーターを有効にすることで、パソコンA-B間で共有フォルダーへのアクセスはできなくなります。パソコンA-C間やパソコンB-C間にはアクセスできます。



- 1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 2 「詳細設定」-「無線設定」-「2.4GHz」または「詳細設定」-「無線設定」-「5GHz」をクリックします。
メモ: 本設定は無線の周波数帯(2.4GHzまたは5GHz)ごとに設定できます。
- 3 「プライバシーセパレーター」欄の「使用する」にチェックを入れ、[設定]をクリックします。

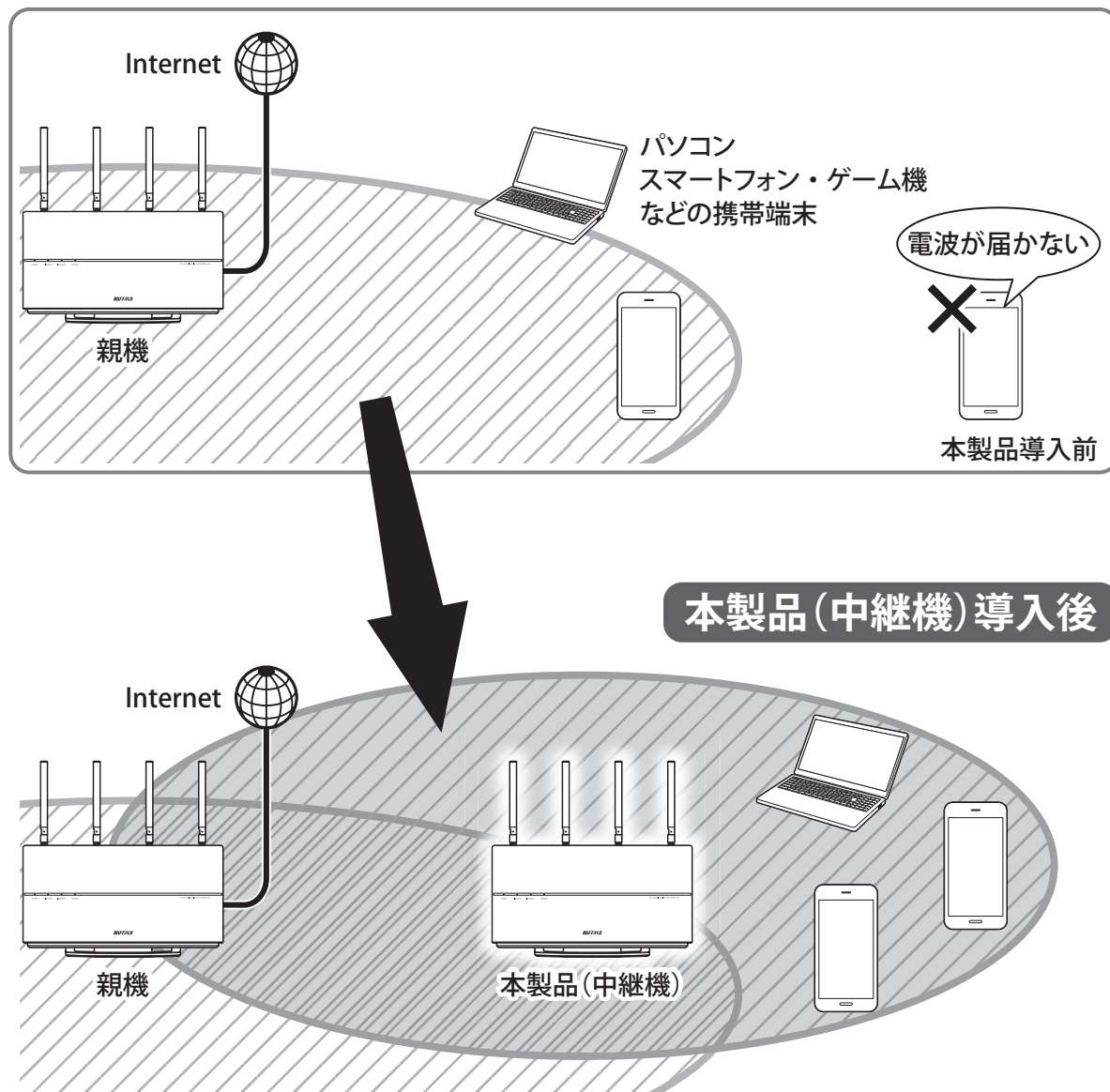
802.11n プロテクション	☐ 使用する
DTIM Period	1
プライバシーセパレーター	☒ 使用する
送信出力	100 %

以上で設定は完了です。

本製品を中継機として使用する

通信環境に障害物があると、電波が届きにくくなったり、通信速度が低下したりすることがあります。中継機能を使用すると、中継機として設定した本製品を介して電波が届くため、障害物を回避し、安定した通信を行うことができます。ここでは、本製品を中継機として使用する方法を説明します。

ご利用イメージ

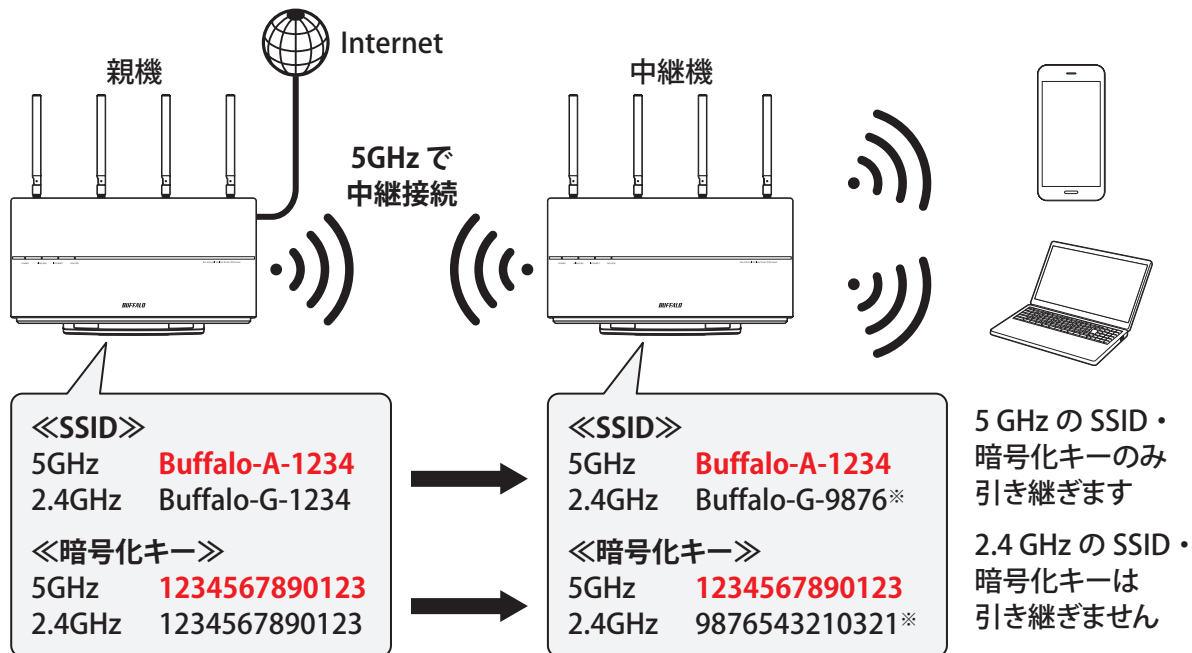


- 本製品を中継機として使用する場合、接続先の無線親機はWXR-2533DHPまたはWXR-2533DHP2である必要があります。
- 本製品の中継機設定は、親機の暗号化キーを入力する方法でのみ行うことができます。
- 上記の「本製品(中継機)導入後」の図において、パソコンやスマートフォンを親機に近づけた場合、それらの端末は本製品から親機へ接続を自動的に切り替え(ローミングを行います)。
- 親機にMACアクセス制限設定をしている場合は、後述の「MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する」を参照して設定してください。

中継機設定後のSSIDと暗号化キーについて

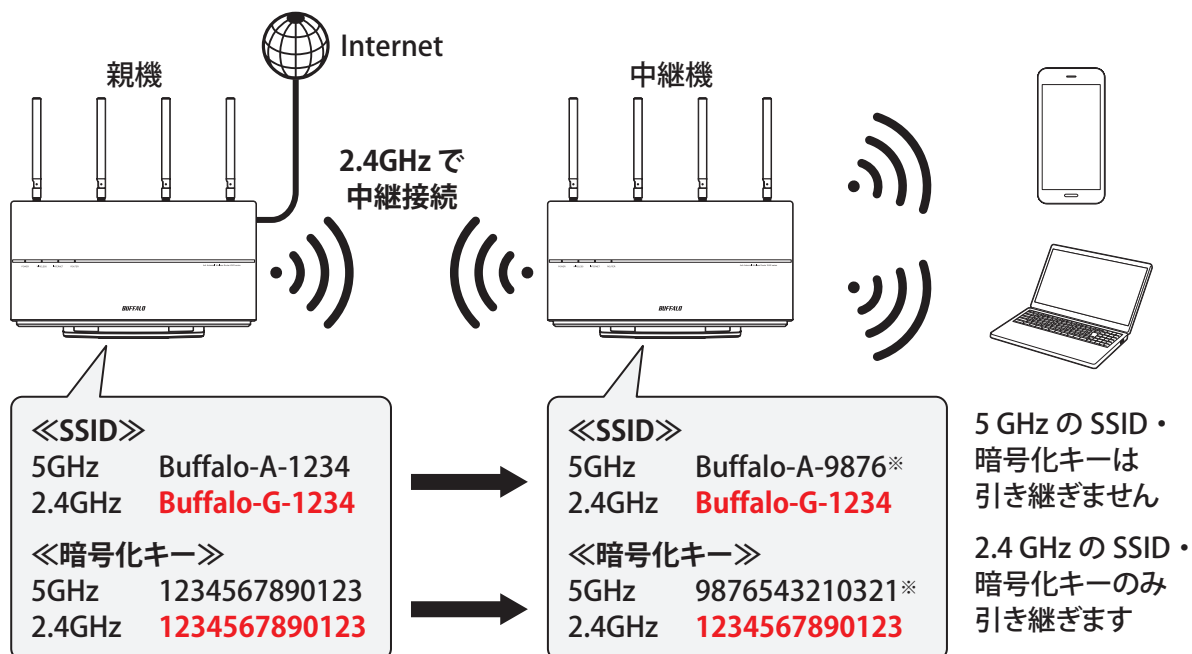
中継機設定を行うと、SSIDと暗号化キーは下図のようになります。

■5GHzで接続した場合



※中継機設定前に本製品に設定されていた SSID・暗号化キーです。

■2.4GHzで接続した場合



※中継機設定前に本製品に設定されていた SSID・暗号化キーです。

親機の暗号化キーを入力して設定する(手動設定)

親機に設定されている暗号化キーを使って設定を行います。

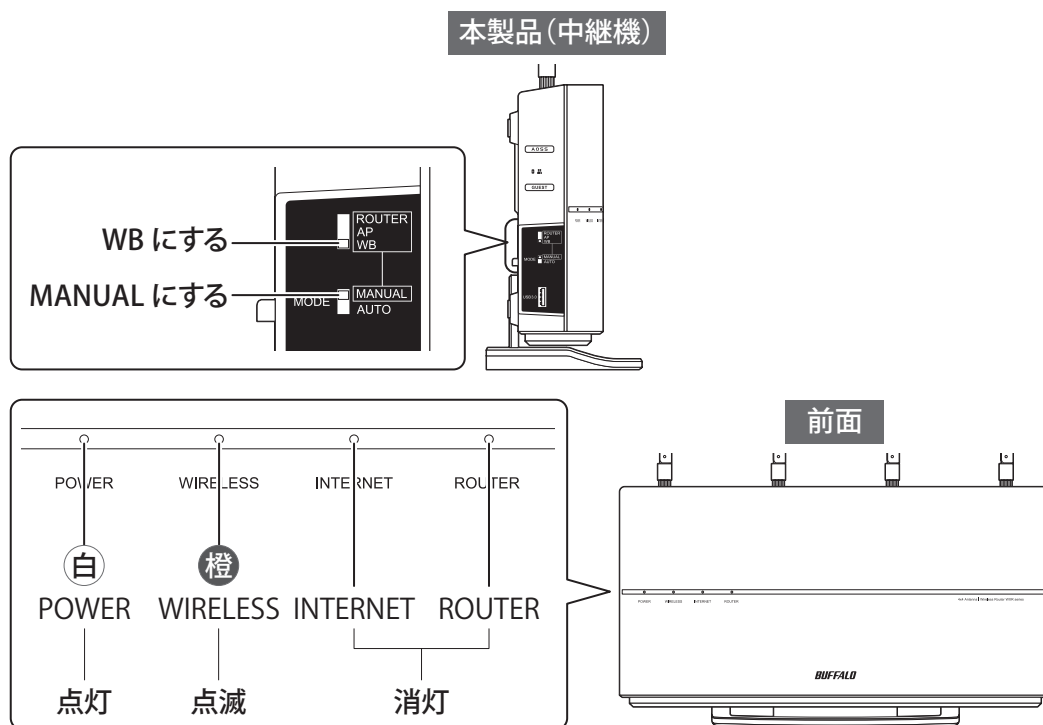
メモ: 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

- 1 すでに設置済みの親機に、お使いの端末(パソコンやスマートフォンなど)を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、親機の取扱説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

- 2 本製品(中継機)の左側面のモードスイッチを「WB」に、AUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」にして、電源を入れます。約1分後、前面のランプが以下の状態になっていることを確認します。

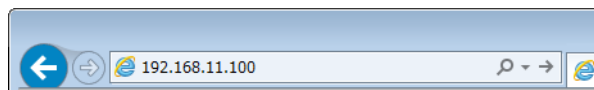
以下の状態でない場合は、本製品背面のRESETボタンをPOWERランプが白く点滅するまで(約3秒間)押し、初期化してください。



- 3 第7章の「参考情報」を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx(例:192.168.11.135)に固定します。

- 4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

- 5 Webブラウザを起動し、アドレス欄に「192.168.11.100」と入力します。



- 6 ユーザー名欄に「admin」、パスワード欄に本製品の管理パスワード(出荷時設定では「password」)を入力し、[ログイン]をクリックします。

ユーザー名
admin

パスワード
●●●●●●

☐ モバイル用設定画面

ログイン

- 7 「詳細設定」-「無線設定」-「中継機能(WB)」をクリックします。

- 8 「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックが入っていることを確認し、「手動設定をする」をクリックします。

中継機能

中継機能の状態	未接続
SSID	-
セキュリティ	-
5GHz/2.4GHz 選択	自動(5GHz 優先) ▼
無線LAN親機設定	☒ 接続時に中継機能の設定で動作する

本機の無線LAN親機機能を停止する場合は [2.4GHz](#) 及び [5GHz](#) から無線機能を停止してください。

手動設定

手動設定をする

- 9 接続先の親機を選択し、[選択]をクリックします。

SSID			
無線の認証	認証を行わない ▼		
無線の暗号化	暗号化なし ▼		

接続するエーステーション(親機)の選択

選択	SSID	電波	暗号	無線モード
☒	Buffalo-A-XXXX	◎	○	ac
☐	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	◎	○	n/a
☐	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	◎	○	n/g/b

選択 再検索

決定 キャンセル

10 接続先の親機の暗号化キーを入力し、[決定]をクリックします。

SSID	Buffalo-A-XXXX
無線の認証	WPA2-PSK ▼
無線の暗号化	AES ▼
WPA-PSK(事前共有キー)	XXXXXXXXXXXXXX

接続するエステーション(親機)の選択

選択	SSID	電波	暗号	無線モード
☒	Buffalo-A-XXXX	◎	○	ac
☐	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	◎	○	n/a
☐	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	◎	○	n/g/b

11 手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを「自動取得」に戻します。

以上で中継機の設定は完了です。

端末を追加する場合

ここで設定した環境に新しく端末を追加する場合は、お使いの親機の取扱説明書を参照し、親機と各端末を接続してください。

メモ:

- 中継機と各端末の間では、直接接続設定を行うことはできません。
- 端末と親機を接続することで、中継機にも接続できるようになります。(親機と中継接続した周波数帯でのみ)

MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する

MACアクセス制限を使用している環境で、本製品を中継機として設置する方法を説明します。

MACアクセス制限下での注意事項

通常、MACアクセス制限を行う場合は、お使いの端末のMACアドレスを親機に登録し、制限をかけます。

一方、中継機を経由した通信にMACアクセス制限を行う場合には、中継機の無線MACアドレスと、その中継機に接続している端末のMACアドレスを親機に登録する必要があります。中継機の無線MACアドレスが登録されていない場合、中継機から親機への通信が制限されてしまい、中継機に接続している端末からは通信できなくなります。

中継機と親機の両方に接続する（ローミングを行う）端末については、親機と中継機の両方にMACアドレスを登録する必要があります。

設定のながれ

設定は以下のながれで行います。

ステップ1 中継機、端末のMACアドレスを親機に登録する

ステップ2 端末のMACアドレスを中継機に登録する

ステップ3 中継機を親機に接続する

それぞれのステップにおける手順は、以下の「設定手順」を参照してください。

設定手順

ステップ1 中継機、端末のMACアドレスを親機に登録する

メモ: MACアクセス制限後は、ここで登録していない端末は親機に接続できなくなりますのでご注意ください。

- 1 親機側にMACアクセス制限設定がされている場合は、一時的にMACアクセス制限を無効にします。
- 2 通信を許可したい端末すべてを親機に無線接続します。
接続方法は、親機および各端末の取扱説明書を参照してください。
- 3 本章の「本製品を中継機として使用する」を参照して、中継機（本製品）を親機に接続します。
- 4 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、親機の設定画面を表示します。
- 5 「詳細設定」－「無線設定」－「MACアクセス制限」をクリックします。

6 「登録リストの編集」をクリックします。

無線パソコンの接続(2.4 GHz)	☐ 制限する
無線パソコンの接続(5 GHz)	☐ 制限する
登録リスト	
MACアドレス	接続状態
MACアドレスが登録されていません	
登録リストの編集	

7 「検出された無線パソコン一覧」欄で[登録]をクリックし、表示されているMACアドレスをすべて登録します。

登録リストの新規追加	
登録するMACアドレス	
新規追加	
登録リスト	
MACアドレス	操作
MACアドレスが登録されていません	
検出された無線パソコン一覧	
MACアドレス	操作
XX:XX:XX:XX:XX:XX	登録
XX:XX:XX:XX:XX:XX	登録
XX:XX:XX:XX:XX:XX	登録
現在の状態を表示	

8 「編集を終了して前の画面へ戻る」をクリックします。

9 「無線パソコンの接続」を「制限する」に設定し、[設定]をクリックします。

無線パソコンの接続(2.4 GHz)	☒ 制限する
無線パソコンの接続(5 GHz)	☒ 制限する
登録リスト	
MACアドレス	接続状態
XX:XX:XX:XX:XX:XX	○
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	○
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	○
登録リストの編集	

メモ: 5GHz、2.4GHz両方とも「制限する」に設定してください。

10 画面右上の「ログアウト」アイコンをクリックします。

以上でステップ1は完了です。

続いてステップ2へ進みます。

ステップ2 端末のMACアドレスを中継機に登録する

- 1 中継機(本製品)を「ルーターモード」で起動します。
「ルーターモード」は、中継機(本製品)の左側面のモードスイッチを「ROUTER」に、AUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」にして電源を入れることで起動できます。
- 2 通信を許可したい端末すべてを中継機(本製品)に無線接続します。
接続方法は、中継機(本製品)および各端末の取扱説明書を参照してください。
- 3 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、中継機(本製品)の設定画面を表示します。
- 4 上記ステップ1の手順5～10を行います。

以上でステップ2は完了です。
続いてステップ3へ進みます。

ステップ3 中継機を親機に接続する

- 1 中継機(本製品)の左側面のモードスイッチを「WB」に、AUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」にして、電源を入れます。
- 2 上記ステップ1の手順3ですでに中継機(本製品)と親機との接続設定を行っているため、自動的に親機に接続されます。中継機(本製品)のワイヤレスランプが白色に点灯したら、接続完了です。
メモ:
 - 中継機(本製品)のワイヤレスランプが橙色に点滅している場合は、本章の「本製品を中継機として使用する」を参照して、中継機(本製品)を親機に接続してください。
 - ここで設定した環境にパソコンやスマートフォンなどの端末を追加する場合は、親機と中継機(本製品)両方にMACアドレスを登録してください。

以上で設定は完了です。

通信サービスの種類に応じて帯域幅を制御する(アドバンスドQoS)

本製品は、通信の用途に応じて帯域幅を自動的に制御するアドバンスドQoS機能に対応しています。アドバンスドQoSの設定を有効にすることで、YouTubeなどのビデオストリーミングやFaceTimeなどのボイスチャット、オンラインゲームの通信を途切れにくくすることができます。

ここでは例として、FaceTimeなどによるボイスチャット(テレビ電話)がコマ落ちしないようにする設定例を紹介します。

メモ:

- ・ アドバンスドQoSは、アプリやサービスの特性を自動的に認識して最適な制御を行います。すべてのアプリ、サービスに対応しているわけではありません。
- ・ アドバンスドQoS設定は、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「アドバンスドQoS」のパネルをクリックします。

3 「使用する」にチェックを入れます。

4 アドバンスドQoSの設定を行って、[設定]をクリックします。



ここでは以下のように設定します。

アドバンスドQoS - 使用する

おもな用途 - ボイスチャット

メモ:

- ・ おもな用途の各項目は、具体的には以下のようなサービスを示します。

ビデオの視聴:

ビデオストリーミング通信(例: YouTube、Huluなど)

ボイスチャット:

ボイスチャット通信(例: FaceTimeなど)

ゲーム:

オンラインゲームに関する通信(例: PlayStation 4での通信など)

手動設定:

詳細設定画面で設定した内容に従います。

- 画面右のグラフで、実際の通信優先度がどのように制御されるかをイメージできます。



各カテゴリーの優先度を表します。



各カテゴリーのアップロード(上り方向)の速度を表します。



各カテゴリーのダウンロード(下り方向)の速度を表します。

ビデオ:

YouTube、Huluなどのビデオストリーミング通信を表します。

会議:

FaceTimeなどのボイスチャット通信を表します。

ゲーム:

PlayStation 4での通信などのオンラインゲームに関する通信を表します。

オーディオ:

オーディオストリーミング通信を表します。

ブラウジング:

インターネットブラウザーを使用したブラウジング全般に関する通信を表します。

ダウンロード:

P2Pアプリケーションなど、上記の5項目以外の全般的なダウンロードに関する通信を表します。
(HTTP、FTPサーバーからのダウンロードは、「ブラウジング」に分類されます)

以上で設定は完了です。

インターネットに接続できる時間を制限する(アクセスコントロール)

アクセスコントロール機能を使用すると、本製品に登録した端末がインターネットに接続できる時間を制限できます。

メモ: アクセスコントロールは、本製品がルーターとして動作している場合にのみご利用いただけます。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」のパネルをクリックします。

3 「セキュリティ」-「アクセスコントロール」をクリックします。

4 [アクセスコントロールの追加]をクリックします。

5 「対象のパソコン」欄に、接続を制限したい端末のMACアドレスを入力します。

メモ: MACアドレスは2桁ずつ、コロン(:)で区切って入力します。

6 「インターネット利用可能時間の登録」画面で、インターネットの利用可能/利用不可能時間を設定します。

インターネット 利用可能時間

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
日																								
月																								
火																								
水																								
木																								
金																								
土																								

■ 利用可能 ■ 利用不可能

インターネット 利用可能時間の登録

利用状態: 利用不可能 ▼

開始時間: 21:00 ▼

終了時間: 6:00 ▼

曜日: 日 月 火 水 木 金 土

曜日の設定: ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒

インターネット利用可能時間の変更

新規追加 キャンセル

メモ:

- たとえば、21:00～06:00を利用不可にする場合は、利用状態を「利用不可能」、開始時間を「21:00」、終了時間を「06:00」、曜日を「日、月、火、水、木、金、土」に設定し、[インターネット利用可能時間の変更]をクリックします。
- 時間帯をさらに細かく調整したい場合は、利用状態、開始/終了時間を設定して、[インターネット利用可能時間の変更]をクリックする操作を繰り返します。

7 [新規追加]をクリックします。

8 アクセスコントロールの設定画面に戻りますので、アクセスコントロールの「使用する」にチェックを入れて、画面下部の[設定]をクリックします。

アクセスコントロール ☒ 使用する

MACアドレス	状態	操作
XXXXXXXXXXXX	利用不可能	編集 削除

アクセスコントロールの追加

以上で設定は完了です。

ポートを開放する

ポート変換設定を行うと、インターネットゲームを楽しんだり各種サーバー公開したりすることができます。

メモ:

- サーバーを公開する場合、固定グローバルIPアドレスの取得およびプロバイダーと別途契約が必要な場合があります。
- 手順はお使いの環境によって異なります。
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合は、以下を参照してください。
利用するポート番号が不明な場合は、後述の「利用するポート番号が不明な場合」を参照してください。

ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

- 「transix」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」-「セキュリティ」-「ポート変換」をクリックします。

3 各項目を設定し、「新規追加」をクリックします。

ポート変換の新規追加	
グループ	新規追加 ▼ 新規追加: group1
Internet側IPアドレス	エアステーションのInternet側IPアドレス ▼ 手動設定:
プロトコル	☐ すべて ☐ ICMP ☐ 任意 プロトコル番号 ☒ TCP/UDP HTTP(TCPポート80) 指定の仕方 任意のTCP/UDPポート
LAN側IPアドレス	192.168.11.210
LAN側ポート	TCP/UDPポート:
新規追加	

グループ:

登録するルールが属するグループを指定します。「新規追加」を選択すると、新たなグループを作成し、そのグループに追加されます。新規追加時には半角英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。

Internet側IPアドレス:

公開する各種サーバーの固定グローバルIPアドレスを設定します。インターネット側IPアドレスをPPPoEサーバーから取得している場合は、各PPPoE接続先のインターネット側IPアドレスを設定します。手動設定を選択したときは、手動設定欄にIPアドレスを指定する必要があります。プロバイダーから複数の固定グローバルIPアドレス指定を受けている場合には、「手動設定」で本製品のインターネット側IPアドレスに設定してあるアドレス以外のグローバルIPアドレスを設定することが可能です。

プロトコル:

アドレス変換機能を使用するポートの種類を選択します。「TCP/UDP」を選択したときは、ポートを設定します。

LAN側IPアドレス:

インターネットからのアクセスの宛先となるプライベートIPアドレスを設定します。

LAN側ポート:

変換プロトコルでTCP/UDPを指定し、単独のポート番号を指定したときは、LAN側のポート番号を変更できます。

以上の設定の組み合わせにより、最大32種類の組み合わせを設定できます。

メモ: WWW (HTTP) サーバーを公開する場合は、以下のように設定すると、インターネットからのアクセスを任意のLAN側のWWWサーバーIPアドレスに転送できます。

グループ:

任意の名称 (例: group1) を入力します。

Internet側IPアドレス:

[エアステーションのInternet側IPアドレス] を選択します。

プロトコル:

TCP/UDPを選択し、[HTTP (TCPポート:80)] を選択します。(任意のTCP/UDPポートは空欄)

LAN側IPアドレス/LAN側ポート:

LAN側IPアドレスは、サーバーIPアドレス (例: 192.168.11.210) を入力します。LAN側ポートは、空欄にします。

4 設定内容が登録されていることを確認します。

ポート変換登録情報				
グループ	Internet側IPアドレス LAN側IPアドレス	プロトコル LAN側ポート	操作	
group1	エアステーションのInternet側IPアドレス 192.168.11.210	HTTP (TCPポート:80) HTTP (TCPポート:80)	OFF	修正 削除

以上で設定は完了です。

利用するポート番号が不明な場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

- ・「transix」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- ・「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「セキュリティ」－「DMZ」をクリックします。

3 DMZのアドレスを設定し、[設定]をクリックします。

DMZのアドレス	192.168.11.210
※設定画面を表示している機器のIPアドレス[192.168.11.2]	

メモ:

- ・ DMZのアドレスは、インターネット側から送られてきたデータの宛先ポートが不明な場合に、そのデータが転送されるLAN上のIPアドレスです。ここで設定されたIPアドレスの端末でのみ、ネットワークゲームなどを利用できます。
- ・ ポート変換の設定でDMZのアドレスと異なるLAN側IPアドレスを設定した場合は、ポート変換側の設定が優先されます。
- ・ DMZを使用する場合は、端末側のIPアドレスをここで設定した値に固定する必要があります。
- ・ 使用するソフトや契約しているプロバイダーによっては、DMZを設定してもソフトウェアが動作しない場合があります。
- ・ DMZに設定した端末は、ほかの端末に比べてセキュリティが低下するため、重要なデータなどをその端末に保存しないことをおすすめします。
- ・ 安全のため、ファイアウォールの設定画面で、「NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する」を有効にしておくことをおすすめします。

以上で設定は完了です。

本製品のIPアドレスを変更する

当社ホームページに掲載しているエアステーション設定ツールを使用すると、本製品のIPアドレスをかんたんに変更できます。ここでは、エアステーション設定ツールを使ったIPアドレスの変更方法について説明します。

Windowsをお使いの場合

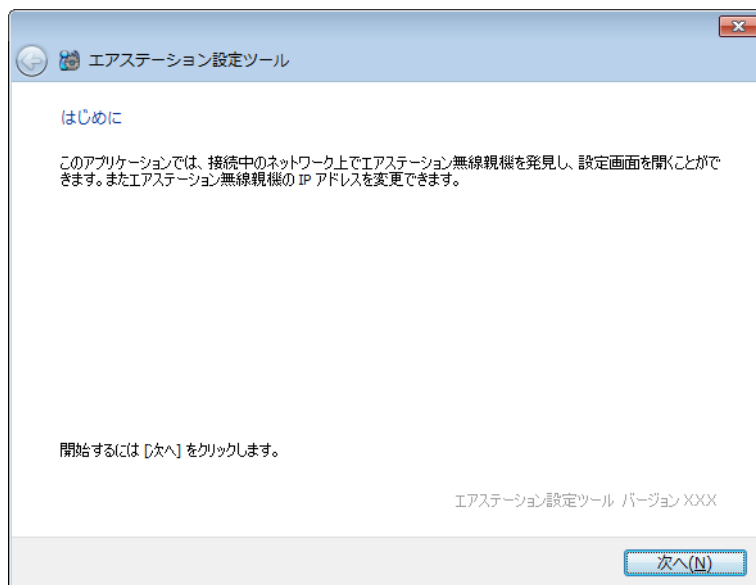
メモ:

- ・ エアステーション設定ツールがインストールされていない場合は、第2章の「エアステーション設定ツールのインストール」を参照してください。
- ・ 本製品のIPアドレスは、設定画面からも変更できます。

1 エアステーション設定ツールを起動します。

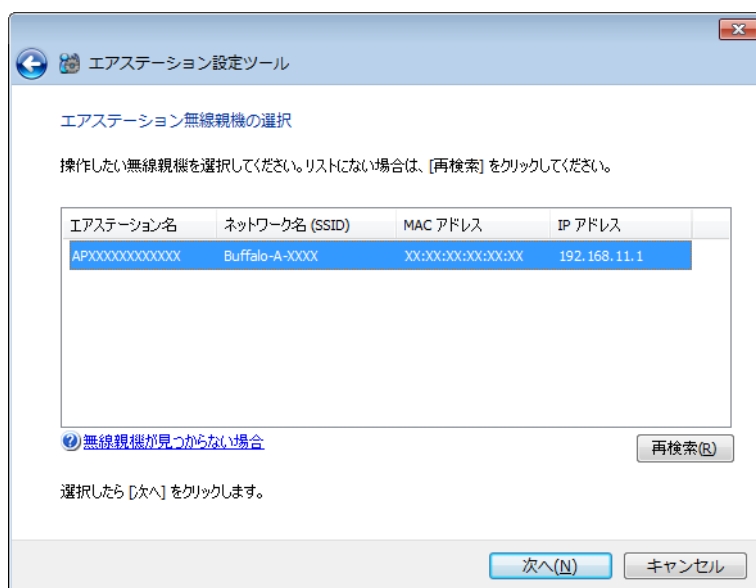
インストール時にデスクトップに生成されたエアステーション設定ツールのアイコンをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプタが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプタを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

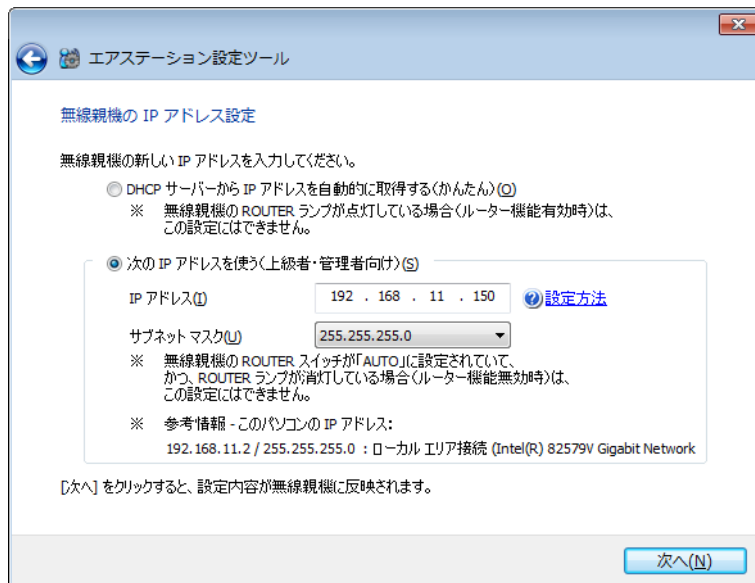


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。

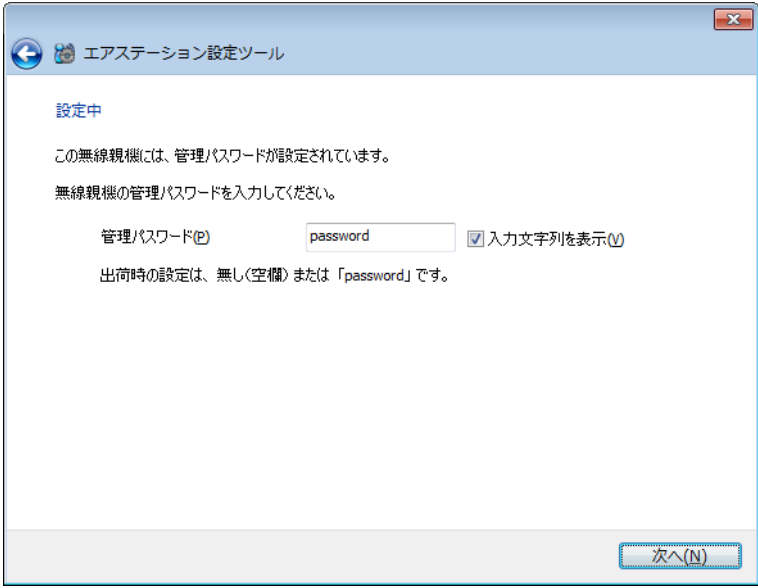


5 新しく設定するIPアドレスを入力して[次へ]をクリックします。



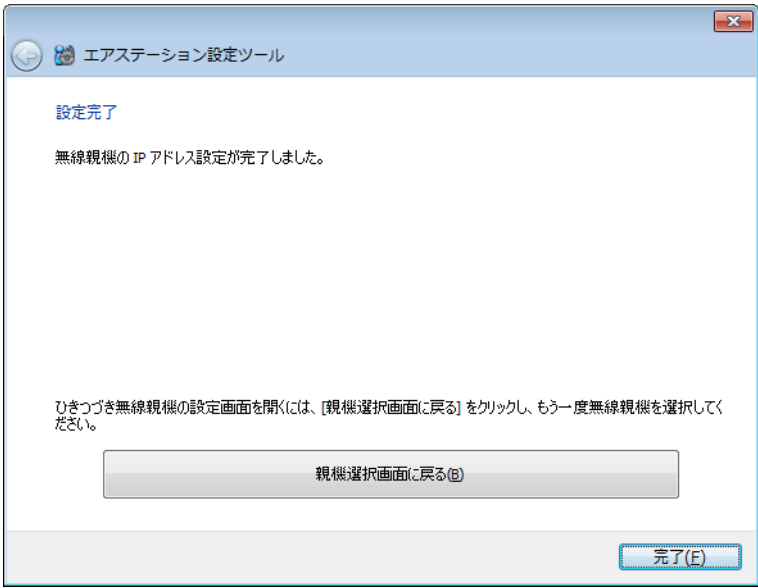
メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのパソコンと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[はい]をクリックしてください。

- 6 本製品に設定されている管理パスワード(出荷時状態では「password」)を入力し、[次へ]をクリックします。



The screenshot shows a window titled 'エアステーション設定ツール' (AirStation Setup Tool). The status is '設定中' (Setting in progress). The text indicates that the wireless device has a management password set to 'password' and prompts the user to enter it. There is a text input field containing 'password' and a checked checkbox labeled '入力文字列を表示(V)' (Show input text). Below the input field, it states that the default password is either blank or 'password'. At the bottom right, there is a button labeled '次へ(N)' (Next).

- 7 [完了]をクリックします。



The screenshot shows the same window, but the status is now '設定完了' (Setting complete). The text confirms that the wireless device's IP address setting is complete. It provides instructions to click '[親機選択画面に戻る(B)]' (Return to parent device selection screen) to choose another device. A button labeled '親機選択画面に戻る(B)' is visible. At the bottom right, there is a button labeled '完了(E)' (End).

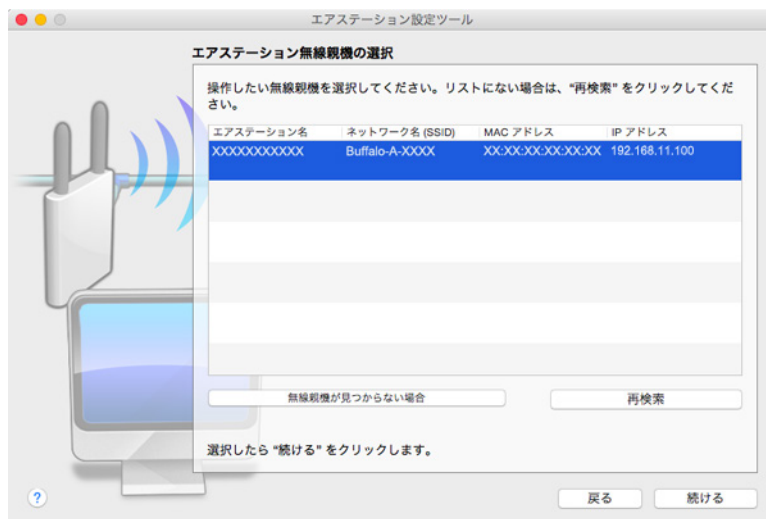
以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

- 1 当社ホームページからダウンロードしたエアステーション設定ツールを実行します。
- 2 [続ける]をクリックします。



- 3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。



5 新しく設定するIPアドレスを入力して[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのMacと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[無視して続ける]をクリックしてください。

6 本製品に設定されている管理パスワード(出荷時状態では「password」)を入力し、[続ける]をクリックします。



7 [終了]をクリックします。



以上で設定は完了です。

フレッツ回線向けの設定をする (PPPoEマルチセッション)

本製品のPPPoEマルチセッション機能を使用して、1つの回線契約でプロバイダーとフレッツ回線向けサービス情報サイトに同時に接続するには、以下の設定を行ってください。

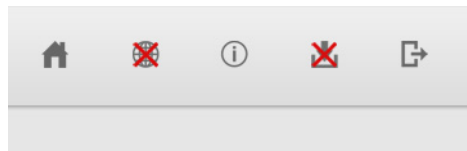
メモ:

- ・ NTT東日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年6月1日より、「サービス情報サイト」に名称が変更されました。
- ・ NTT西日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年12月28日をもってサービス終了となりました。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

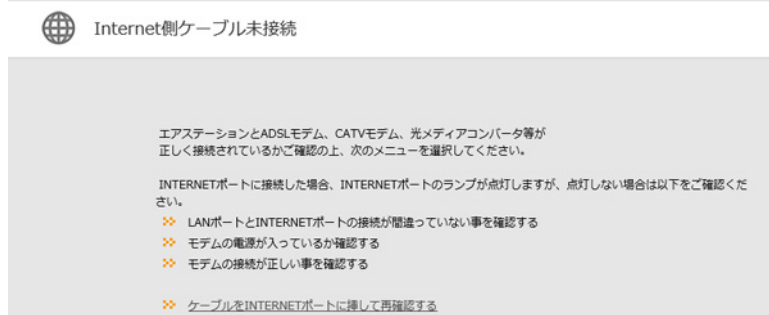
2 本製品右側面のINTERNET端子(青色の端子)からLANケーブルを取り外します。

3 設定画面右上の  に×マークが付くことを確認します。

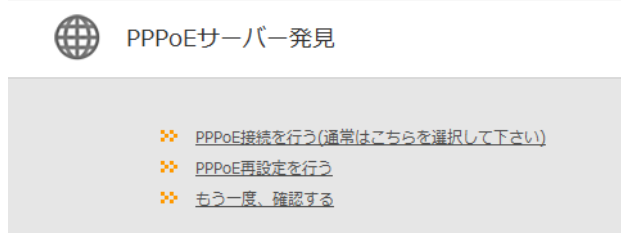


4  をクリックします。

- 5 手順2で抜いたLANケーブルを、もう一度本製品右側面のINTERNET端子(青色の端子)に接続し、「ケーブルをINTERNETポートに挿して再確認する」をクリックします。



- 6 「PPPoE再設定を行う」をクリックします。



- 7 お使いの回線の種別に合わせて「プロバイダー情報の設定」を選択します。
フレッツ 光ネクストをお使いの方は「フレッツ 光ネクスト」を、それ以外の回線をお使いの方は、「Bフレッツ/フレッツ・ADSL」を選択してください。



- 8 「フレッツ 光ネクストサービス情報サイト」欄(フレッツ 光ネクスト用)または「サービス情報サイト」欄(Bフレッツ/フレッツ・ADSL用)で、「NTT東日本」または「NTT西日本」を選択し、[進む]をクリックします。



メモ: NTT西日本のサービスが終了しているため、「サービス情報サイト」欄では、「NTT西日本」は選択できません。

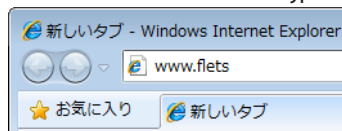
9 「接続成功です」と表示されたら、[設定完了]をクリックします。



10 Webブラウザを起動します。

11 Bフレッツ/フレッツ・ADSLをご契約の方は、アドレス欄に「www.flets」と入力して、Enterキーを押します。

フレッツ 光ライト/フレッツ 光ネクストをご契約の方は、アドレス欄に「v4flets-east.jp」(NTT東日本向け)または「v4flets-west.jp」(NTT西日本向け)と入力して、Enterキーを押します。



12 サービス情報サイトが表示されます。

以上で設定は完了です。

Bフレッツなどで固定IPサービスを利用する(IP Unnumbered)

本製品は、IP Unnumbered機能に対応しています。IP Unnumbered機能を使用することで、プロバイダーから配布された複数のグローバルIPアドレスを本製品に接続した端末で使用できます。ここでは例として、以下の場合の設定例を説明します。

メモ: 本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

例: プロバイダーから「123.45.67.8(サブネットマスク255.255.255.248)」「(固定IPアドレス8個)」というIPアドレスが割り当てられた場合

インターネット側アドレス(自動設定) - 123.45.67.8(ネットワークアドレス)

LAN側アドレス(手動設定) - 123.45.67.9(ゲートウェイ)

1台目のパソコン(手動設定) - 123.45.67.10(グローバルIPアドレス)

・
・

5台目のパソコン(手動設定) - 123.45.67.14(グローバルIPアドレス)

ブロードキャストアドレス - 123.45.67.15(ブロードキャストアドレス)

サブネットマスク - 255.255.255.248

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

- 1 本製品左側面のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」側に設定します。
- 2 本製品左側面のモードスイッチを「ROUTER」側に設定します。
- 3 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 4 「詳細設定」－「Internet」－「Internet」をクリックします。
- 5 「IP Unnumberedを使用する」を選択し、[設定]をクリックします。

IPアドレス取得方法

- ☐ インターネット@スタートを行う
- ☐ DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得
- ☐ PPPoEクライアント機能を使用する
- ☒ IP Unnumberedを使用する
- ☐ transixを使用する
- ゲートアドレス
- ☐ v6プラスを使用する
- ☐ IPv6オプションを使用する
- ☐ OCNバーチャルコネクタを使用する
- ☐ 手動設定
- IPアドレス
- サブネットマスク 255.255.255.0

- 6 設定が保存されたら、「詳細設定」－「Internet」－「PPPoE」をクリックします。
- 7 「PPPoE接続先リスト」欄にある、[接続先の編集]をクリックします。

PPPoE接続先リスト

接続先No.	名称	状態
1	Internet@Start	有効

接続先の編集

- 8 接続先を登録し、[新規追加]をクリックします。

PPPoE接続先No.2の新規追加

接続先名称	Unnumbered
接続先ユーザー名	xxxxxx@xxx.xxx.xxx.xxx
接続先パスワード	●●●●●●●●
サービス名	☐ パスワードを表示する

[拡張設定]

接続方法	常時接続
自動切断	切断条件 送受信ともがない場合 待機時間 5 分 (0分では自動切断しません)
認証方法	自動認証
MTU値	1454 バイト
MRU値	1454 バイト
キープアライブ	☒ 使用する

新規追加

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

- 9 接続先が登録されたら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。
- 10 「IP Unnumbered使用時の接続先」を選択して、[設定]をクリックします。

デフォルトの接続先	1: Internet@Start
IP Unnumbered使用時の接続先	1: Internet@Start 2: Unnumbered

- 11 設定が保存されたら、「詳細設定」－「LAN」－「LAN」をクリックします。

12 本製品のLAN側IPアドレス (IP Unnumbered用) の設定をして、[設定]をクリックします。

LAN側IPアドレス	IPアドレス	192.168.11.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー機能 ☒ 使用する		
割り当てIPアドレス	192.168.11.2 から 64 台	
	除外IPアドレス:	
LAN側IPアドレス (IP Unnumbered用)	IPアドレス	123.45.67.9
	サブネットマスク	255.255.255.248
DHCPサーバー設定 [拡張設定]		
拡張設定 ☐ 表示する		

メモ: プロバイダーから送られてきた資料をよくお読みのうえで設定してください。

13 「LAN側IPアドレスを変更します」と表示されたら、[設定]をクリックします。

プロバイダーから送られてきた資料を参照して、本製品に接続するパソコンのIPアドレスを設定します。

インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

☐ IP アドレスを自動的に取得する(O)

☒ 次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 123 . 45 . 67 . 10

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 248

デフォルト ゲートウェイ(D): 123 . 45 . 67 . 9

☐ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

☒ 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P): 100 . 100 . 100 . 100

代替 DNS サーバー(A): 200 . 200 . 200 . 200

☐ 終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

OK キャンセル

以上で設定は完了です。

ルーター機能を停止する

本製品のルーター機能を使用しないで、アクセスポイントとして使用する場合は、以下の手順で行います。

メモ:

本製品のルーター機能をオフにすると、本製品のIPアドレスが「192.168.11.100」に変更されます。また、以下の機能が無効になりますのでご注意ください。

- DHCPサーバー (IPアドレス自動割当) 機能
- 静的IPマスカレード (アドレス変換) 機能
- パケットフィルタ機能
- PPPoEマルチセッション機能
- IP Unnumbered機能

- 1 本製品左側面のAUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」側に設定します。
- 2 本製品左側面のモードスイッチを「AP」側に設定し、ROUTERランプが消灯することを確認します。
- 3 本製品に接続している端末を再起動します。

以上で設定は完了です。

本製品のファームウェアバージョンを確認する

本製品のファームウェアのバージョンは、以下の手順で確認できます。

- 1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 2 「詳細設定」-「ステータス」-「ステータス」をクリックします。
- 3 ファームウェアのバージョンを確認します。

製品名	XXX-XXXXXXXX Version X.XX (RX,XX/BX,XX,XXX-X.XX-X.XX)
エーステーション名	APXXXXXXXXXXXX

メモ: 製品名欄の「Version x.xx」の部分がファームウェアのバージョンです。

本製品のファームウェアを更新する

本製品のファームウェアの更新設定は、2つの方法があります。

自動的に更新する場合

新しいファームウェアが公開された際に自動的に更新する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

- 1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。
- 2 「詳細設定」-「管理」-「ファームウェア更新」をクリックします。
- 3 ファームウェア自動更新機能で「常に最新版に更新する」と更新時刻を設定し、[設定]をクリックします。

[拡張設定]	
ファームウェア自動更新機能	常に最新版に更新する ▼
現在時刻	2016年9月6日 (火曜日) 15:17 現在の状態を表示
更新時刻	毎日 4:00 - 4:59 ▼
設定	

メモ:

- 本製品の時刻設定が正しくない場合(画面に  が表示されている場合)は、「管理」-「システム設定」の画面でNTP機能を「使用する」に設定してください。
- ファームウェア更新中は、再起動などにより、本製品に接続している機器が一時的に切断されます。そのため、更新時刻は、本製品を使用していない時間帯に設定することをおすすめします。
- 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中(前面のPOWERランプが橙色に点滅中)は、本製品の電源をオフにしないでください。

以上で設定は完了です。

設定後に新しいファームウェアがリリースされた場合、上記で設定した時間帯に更新が行われます。

手動で更新する場合

本製品をお使いの方が、お好みのタイミングでファームウェアを更新したい場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」－「管理」－「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェアを更新します。

ファームウェアファイルがある場合は、[参照]をクリックしてファームウェアファイルを選択し、[更新実行]をクリックします。

ファームウェアファイルがない場合は、「オンラインバージョンアップ」を選択し、[更新実行]をクリックして画面の指示に従ってください。

ファームウェアバージョン	WXR-2533DHP2 Ver.X.XX		
更新方法	☒ ローカルファイル指定 ☐ オンラインバージョンアップ		
ファームウェアファイル名	C:\BUFFALO\wxr-2533dhp2-xxx\wxr_2533dhp2.jp > 参照...		
更新実行			

メモ: 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中(前面のPOWERランプが橙色に点滅中)は、本製品の電源をオフにしないでください。

以上で設定は完了です。

第4章 各種ソフトウェアの使いかた

本章では、本製品に対応した各種ソフトウェアの使いかたについて説明します。

エアステーション設定ツールの使いかた

エアステーション設定ツールは、本製品の設定画面の表示や本製品のIPアドレスを変更できるソフトウェアです。ご使用方法是、本書の以下の項目を参照してください。

設定画面の表示(Windows)：

第2章の「設定画面を表示する」の「Windowsをお使いの場合」

設定画面の表示(Mac)：

第2章の「設定画面を表示する」の「Macをお使いの場合」

IPアドレスの設定(Windows)：

第3章の「本製品のIPアドレスを変更する」の「Windowsをお使いの場合」

IPアドレスの設定(Mac)：

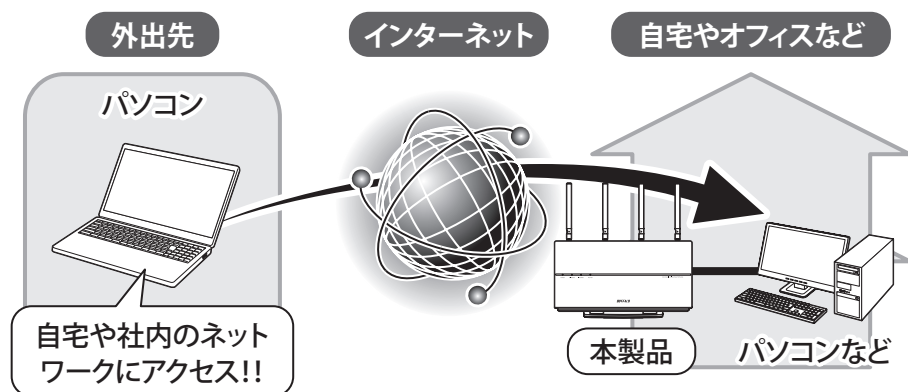
第3章の「本製品のIPアドレスを変更する」の「Macをお使いの場合」

第5章 VPNサーバー機能

本章では、外出先から自宅や社内のネットワークにアクセスするためのVPNサーバー機能について説明します。以下に記載しているOSが表示する画面や文章については、OSのバージョンなどによって異なることがあります。

VPNサーバー機能とは

VPNサーバー機能を使用すると、外出先から自宅や社内のネットワークにアクセスできるようになります。たとえば、外出先から社内のファイルサーバーに保存しているデータを取り出したり、自宅のパソコンを遠隔操作したりすることができます。



メモ:

- (1) VPNサーバー機能を使用する際、ダイナミックDNSをご利用いただくことを推奨します。ダイナミックDNSの設定については、本章の「外出先から接続するための準備をする」を参照してください。
- (2) 以下の環境ではVPNサーバー機能を使用できません。
 - ・「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのIPv4 over IPv6通信サービスを使用している場合
 - ・プロバイダーから割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合
 - ・本製品がブリッジモード（ルーター機能オフ）で動作している場合
 - ・ルーター機能を内蔵したモデムなどに本製品を接続して使用する場合※
※モデムのルーター機能を無効にするなど、設定を変更すると、VPNサーバー機能が使用できる場合があります。

本製品のVPNサーバー機能には、「L2TP/IPsec」と「PPTP」の2種類があります。それぞれの対応しているOSを確認し、どちらを使用するかを選択してください。

	Windows	Mac	iOS	Android
L2TP/IPsec	×	×	○	○
PPTP	○	○※1	○※2	○

※1 OS X 10.8～10.11でお使いいただけます。

※2 iOS 5～9でお使いいただけます。

外出先から接続するための準備をする

外出先から接続するための準備をします。

ここでは「BUFFALOダイナミックDNSサービス」(有料)を使った方法を例に説明します。

メモ: 本製品では、「BUFFALOダイナミックDNSサービス」以外に、「DynDNS」、「No-IP」がご利用いただけます。「DynDNS」、「No-IP」をご利用いただく場合は、以下の設定を行う前に、これらのサービスへの登録を完了させておいてください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して、本製品の設定画面を表示します。

2 「詳細設定」-「Internet」-「DDNS」をクリックします。

3 ダイナミックDNS機能で「BUFFALOダイナミックDNS」を選択します。

4 [登録/設定変更を行う]をクリックし、画面に従って登録/設定変更を行います。

メモ:

- BUFFALOダイナミックDNSサービスは、1か月間の無料トライアル期間があります。
- 登録後、[登録情報を削除する]をクリックすると、BUFFALOダイナミックDNSサービスの登録情報が削除されます。もう一度登録するには、登録ユーザーIDとパスワードが必要となります。

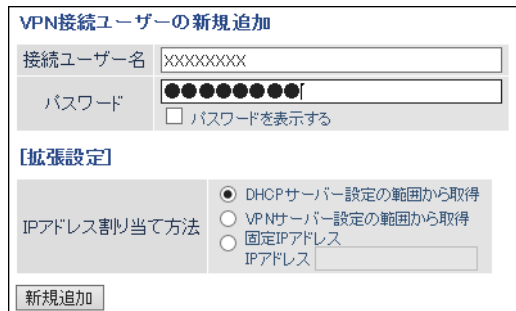
5 「詳細設定」-「Internet」-「VPNサーバー」をクリックします。

6 VPNサーバー機能で「L2TP/IPsec」または「PPTP」を選択し、[設定]をクリックします。「L2TP/IPsec」の場合は、「事前共有キー」欄に任意の値を入力します。

メモ: LAN側IPアドレスが192.168.11.Xに設定されていて、外出先でのIPアドレスも192.168.11.Xに設定されていると、IPアドレスが重複して自宅や社内のネットワークにアクセスできないことがあります。このような場合は、「詳細設定」-「LAN」-「LAN」画面で、本製品のLAN側IPアドレスを変更してください。

7 [VPN接続ユーザーの編集]をクリックします。

8 ユーザー名とパスワードを入力して、[新規追加]をクリックします。



VPN接続ユーザーの新規追加

接続ユーザー名: XXXXXXXX

パスワード: ●●●●●●●●

☐ パスワードを表示する

[拡張設定]

IPアドレス割り当て方法: ☒ DHCPサーバー設定の範囲から取得 ☐ VPNサーバー設定の範囲から取得 ☐ 固定IPアドレス

IPアドレス:

新規追加

メモ: 設定したユーザー名、パスワードは外出先から接続する際に使用します。

9 ユーザー名とパスワードが追加されたら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

以上で設定は完了です。

外出先で使用する端末の設定をする

Windows 10/8.1をお使いの場合

Windowsの場合、本製品ではPPTPのみ対応しています。

1 [コントロールパネル]を表示します。

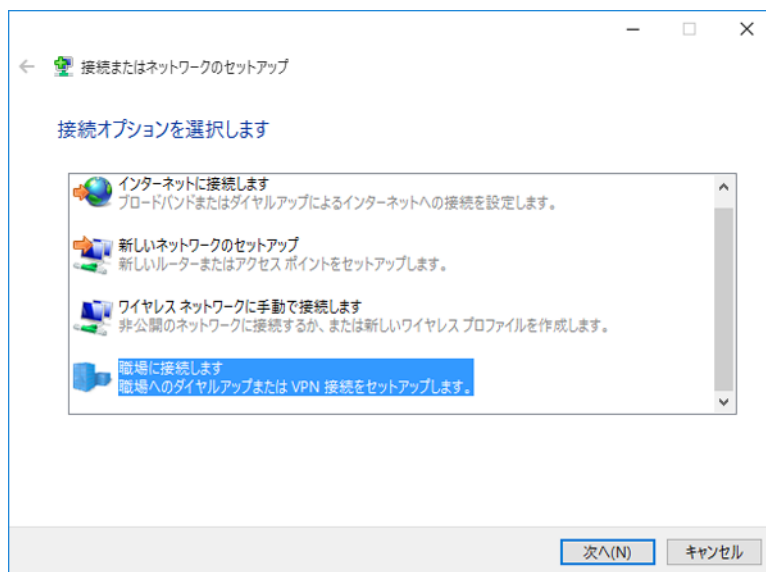
2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。



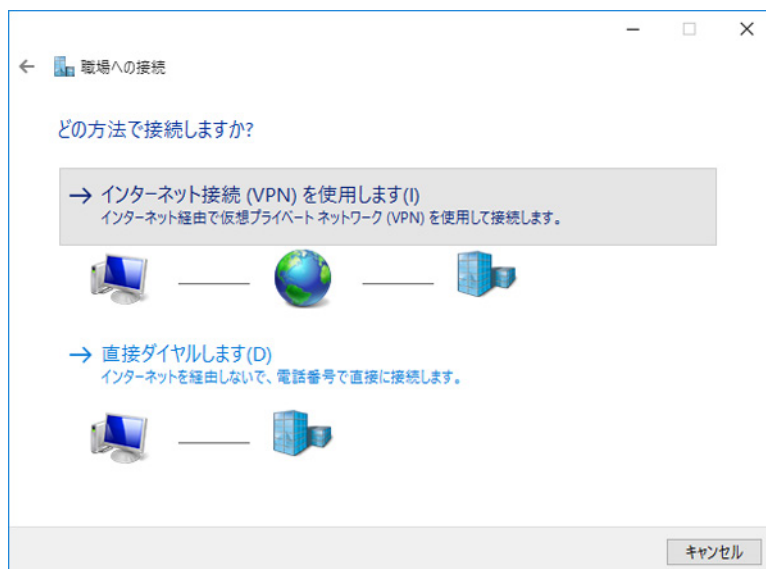
3 [新しい接続またはネットワークのセットアップ]をクリックします。



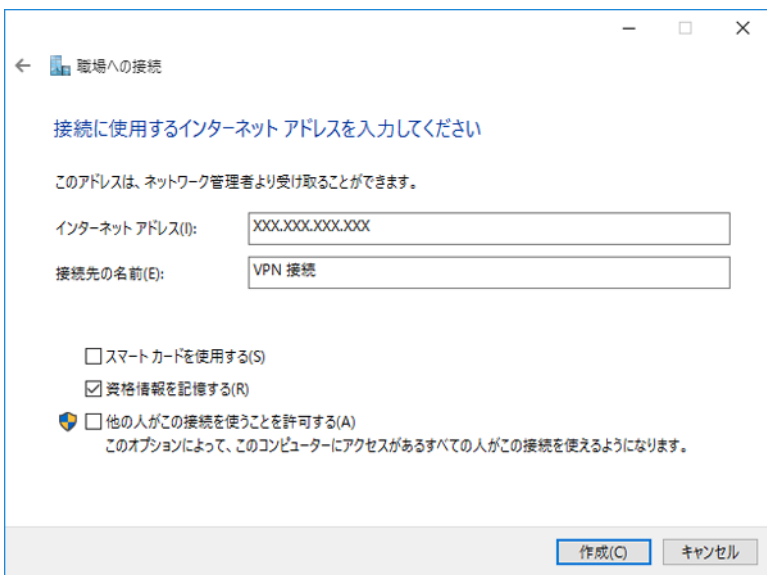
4 「職場に接続します」を選択して、[次へ]をクリックします。



5 「インターネット接続 (VPN) を使用します」をクリックします。

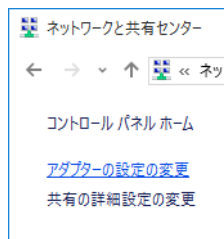


- 6 ダイナミックDNSサービスで取得したURLと接続先の名前(任意の名称)を入力し、[作成]をクリックします。



メモ: バッファロー以外のダイナミックDNSサービスを利用している場合や固定IPアドレスをご利用の場合は、「インターネットアドレス」欄にダイナミックDNSのホスト名やIPアドレスを入力してください。

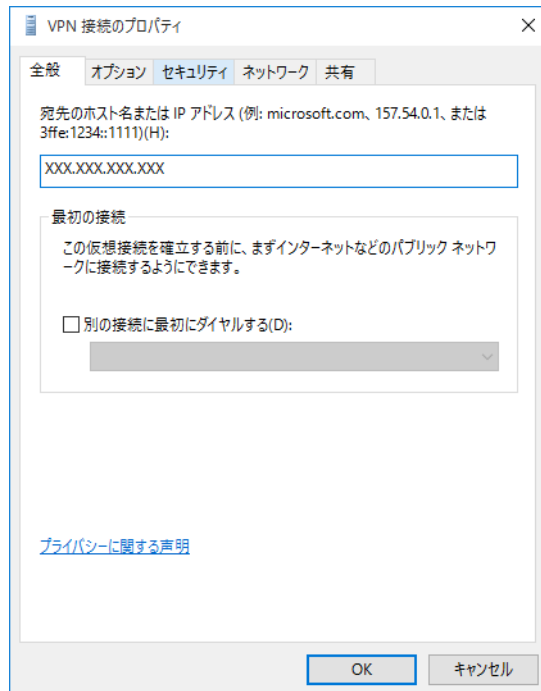
- 7 画面左上の「アダプター設定の変更」をクリックします。



- 8 手順6で作成した接続先を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。



9 「セキュリティ」タブをクリックします。

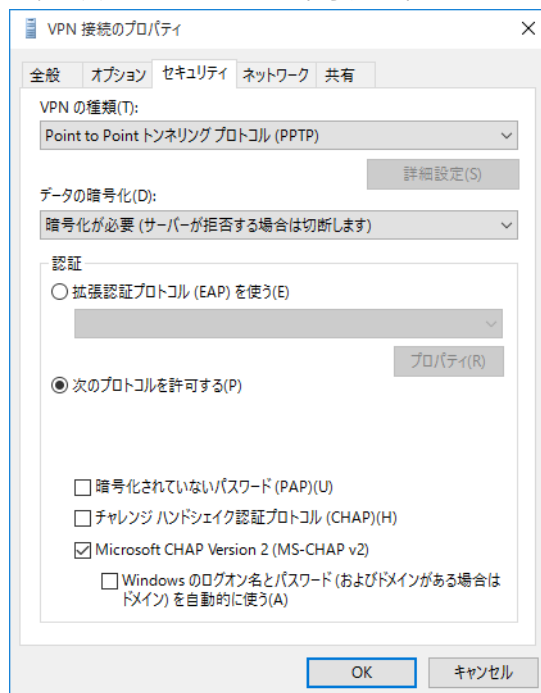


10 以下のように設定し、[OK]をクリックします。

VPNの種類: Point to Point トンネリングプロトコル (PPTP)

データの暗号化: 暗号化が必要 (サーバーが拒否する場合は切断します)

認証: 次のプロトコルを許可する (「Microsoft CHAP Version 2」のみチェックを入れる)

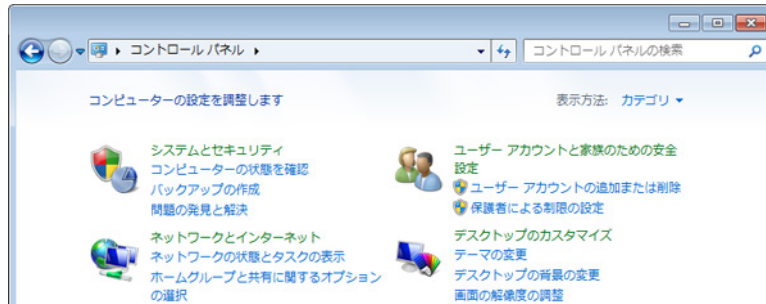


以上で設定は完了です。

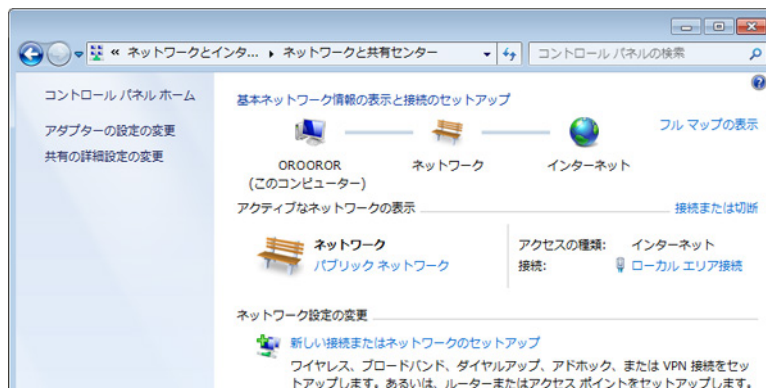
Windows 7/Vistaをお使いの場合

Windowsの場合、本製品ではPPTPのみ対応しています。

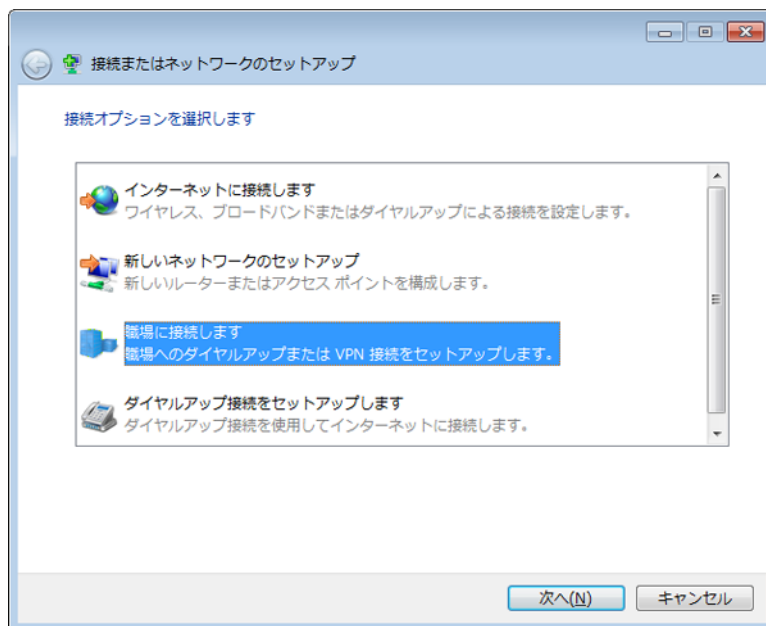
- 1 [コントロールパネル]を表示します。
- 2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。



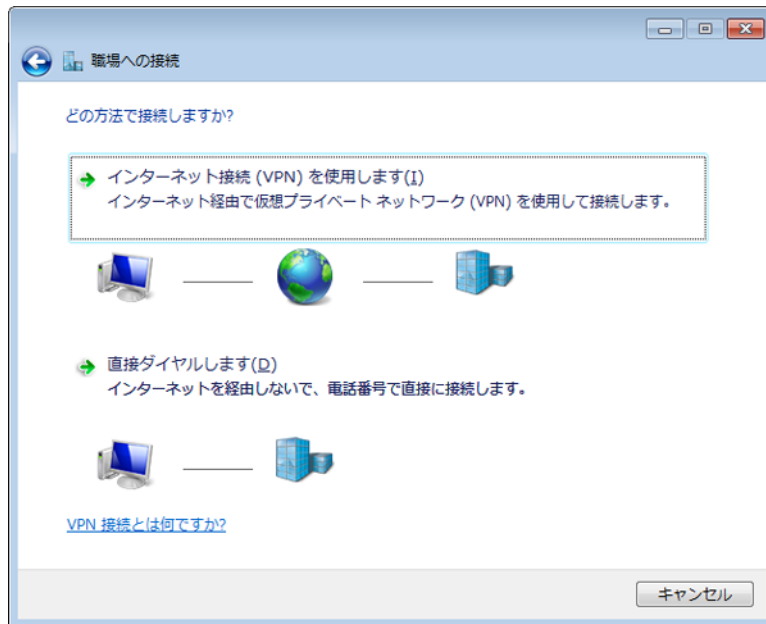
- 3 [(新しい)接続またはネットワークのセットアップ]をクリックします。



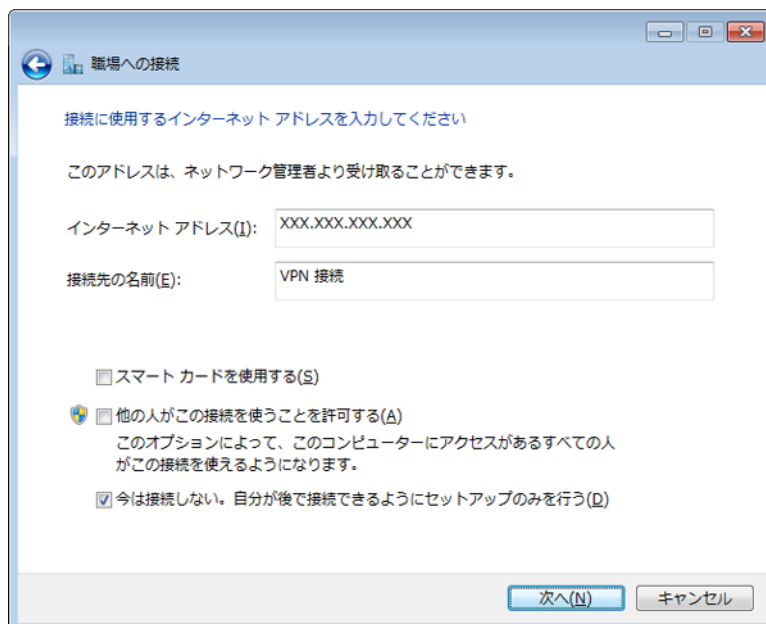
- 4 「職場に接続します」を選択して、[次へ]をクリックします。



5 「インターネット接続(VPN)を使用します」をクリックします。

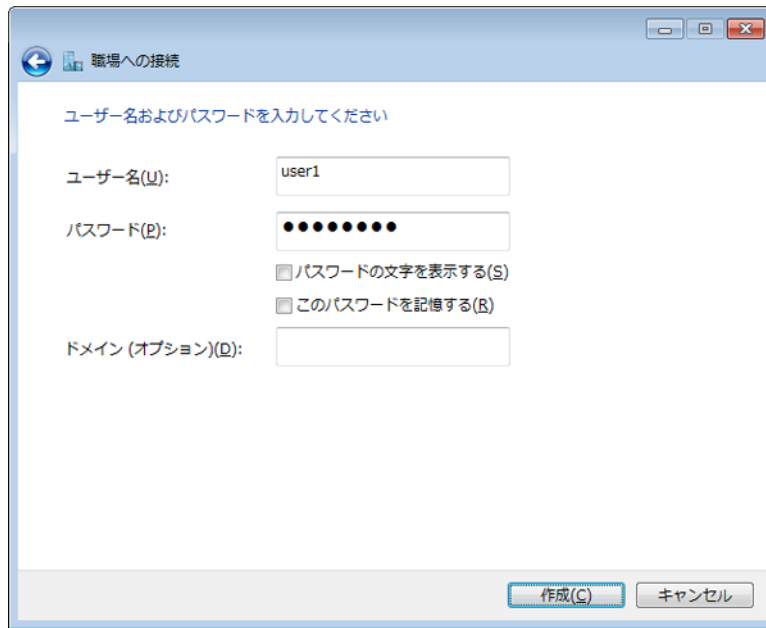


6 ダイナミックDNSサービスで取得したURLと接続先の名前(任意の名称)を入力し、「今は接続しない。自分が後で接続できるようにセットアップのみを行う」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



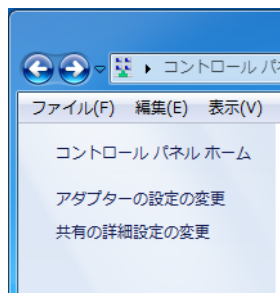
メモ: バッファロー以外のダイナミックDNSサービスを利用している場合や固定IPアドレスをご利用の場合は、「インターネットアドレス」欄にダイナミックDNSのホスト名やIPアドレスを入力してください。

- 7** 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したユーザー名とパスワードを入力し、[作成]をクリックします。



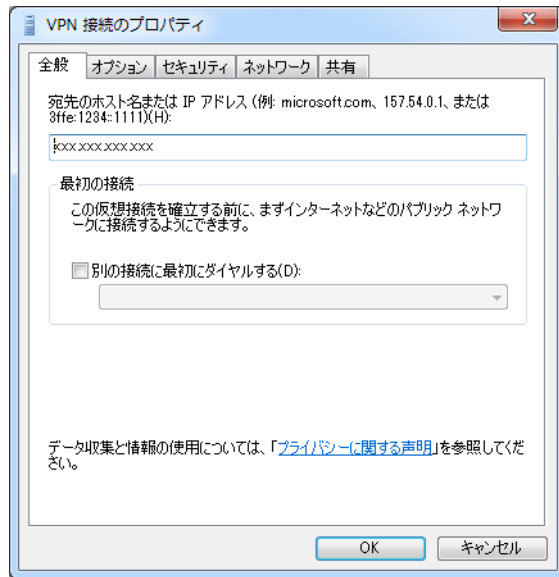
- 8** 「接続の使用準備ができました」と表示されたら、[閉じる]をクリックします。

- 9** 画面左上の「アダプター設定の変更」をクリックします。



- 10** 手順6で作成した接続先を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。

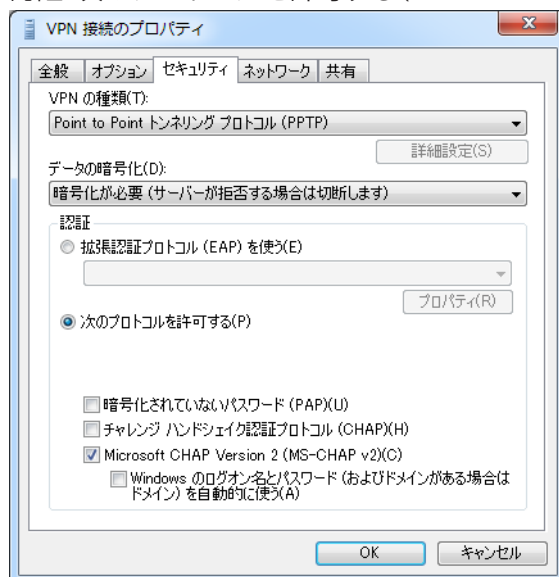


11 「セキュリティ」タブをクリックします。**12** 以下のように設定し、[OK]をクリックします。

VPNの種類: Point to Point トンネリングプロトコル (PPTP)

データの暗号化: 暗号化が必要 (サーバーが拒否する場合は切断します)

認証: 次のプロトコルを許可する (「Microsoft CHAP Version 2」のみチェックを入れる)



以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

Macの場合、本製品ではPPTPのみ対応しています。ここでは、OS X 10.10の画面を例に説明します。

メモ: PPTPは、OS X 10.8～10.11でお使いいただけます。

- 1 [アップルメニュー]－[システム環境設定]をクリックします。



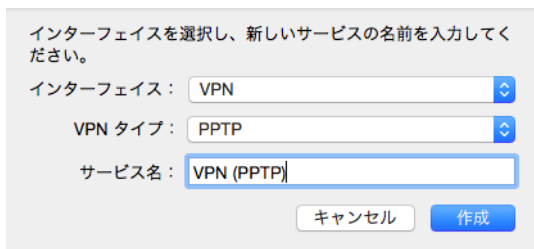
- 2 「ネットワーク」をクリックします。



- 3 「+」をクリックします。



- 4 インターフェイスで「VPN」、VPNタイプで「PPTP」を選択し、サービス名に任意の名称を入力して、[作成]をクリックします。



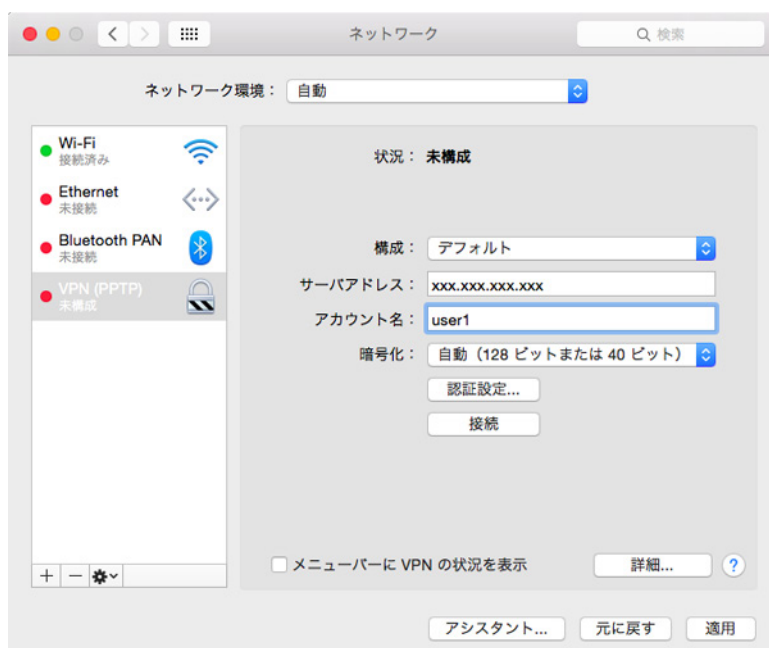
- 5 サーバアドレスにダイナミックDNSサービスで取得したURLを、アカウント名に本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したユーザー名を入力し、[認証設定]をクリックします。



- 6** パスワードを選択し、本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したパスワードを入力して、[OK]をクリックします。



- 7** [適用]をクリックします。



以上で設定は完了です。

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合

iPad/iPhone/iPod Touchの場合、L2TP/IPsecとPPTPに対応しています。ここでは、iOS 9.0の画面を例に説明します。

メモ:

- L2TP/IPsecは、iOS 5以降でお使いいただけます。
- PPTPは、iOS 5～9でお使いいただけます。

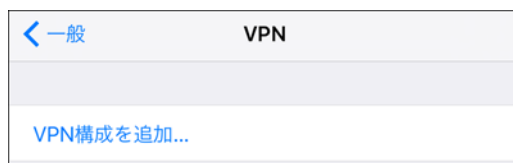
1 [設定]をタップします。



2 [一般] > [VPN]の順にタップします。



3 [VPN構成を追加...]をタップします。



4 L2TP/IPsecとPPTPで設定が異なります。以下を参照して設定を行ってください。

L2TP/IPsecの場合

タイプに「L2TP」を選択し、説明、サーバ、アカウント、パスワード、シークレットを設定して[保存]をタップします。

キャンセル		構成を追加	完了
タイプ		L2TP >	
説明	l2tp		
サーバ	xxx.xxx.xxx.xxx		
アカウント	xxxxxxxx		
RSA SecurID	☐		
パスワード	●●●●●●●●		
シークレット	●●●●●●●●●●		
すべての信号を送信	☒		

説明:

任意の説明を設定します。

サーバ:

ダイナミックDNSサービスで取得したURLを設定します。

アカウント:

「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したユーザー名を設定します。

パスワード:

「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したパスワードを設定します。

シークレット:

「外出先から接続するための準備をする」の手順6で設定した事前共有キーを設定します。

PPTPの場合

タイプに「PPTP」を選択し、説明、サーバ、アカウント、パスワードを設定して[保存]をタップします。

キャンセル	構成を追加	完了
タイプ	PPTP >	
説明	pptp	
サーバ	xxx.xxx.xxx.xxx	
アカウント	xxxxxxxx	
RSA SecurID	☐	
パスワード	●●●●●●	
暗号化レベル	自動 >	
すべての信号を送信	☒	

説明:

任意の説明を設定します。

サーバ:

ダイナミックDNSサービスで取得したURLを設定します。

アカウント:

「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したユーザー名を設定します。

パスワード:

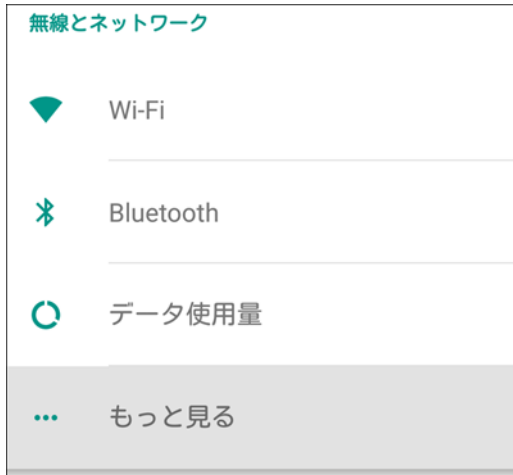
「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したパスワードを設定します。

以上で設定は完了です。

Android端末をお使いの場合

Android端末の場合、L2TP/IPsecとPPTPに対応しています。ここでは、Android 5.1の画面を例に説明します。

- 1 Android端末の設定画面を表示します。
- 2 無線とネットワークの[もっと見る](または[その他])をタップします。



- 3 [VPN]をタップします。



- 4 [+]をタップします。



5 L2TP/IPsecとPPTPで設定が異なります。以下を参照して設定を行い、[保存]をタップします。

L2TP/IPsecの場合

VPNプロフィールの編集

名前
l2tp

タイプ
L2TP/IPSec PSK ▼

サーバーアドレス
XXX.XXX.XXX.XXX

L2TPセキュリティ保護
(未使用)

IPSec ID
(未使用)

IPSec事前共有鍵
.....

☐ 詳細オプションを表示する

キャンセル 保存

名前:

任意の名称を入力します。

タイプ:

L2TP/IPSec PSKを選択します。

サーバーアドレス:

ダイナミックDNSサービスで取得したホスト名を設定します。

L2TPセキュリティ保護:

空欄にします。

IPSec ID:

空欄にします。

IPSec事前共有鍵:

「外出先から接続するための準備をする」の手順6で設定した事前共有キーを入力します。

PPTPの場合

VPNプロファイルの編集

名前
pptp

タイプ
PPTP ▼

サーバーアドレス
XXX.XXX.XXX.XXX

☒ PPP暗号化（MPPE）
☐ 詳細オプションを表示する

キャンセル 保存

名前:

任意の名称を入力します。

タイプ:

PPTPを選択します。

サーバーアドレス:

ダイナミックDNSサービスで取得したホスト名を設定します。

以上で設定は完了です。

自宅や会社の端末を外出先から遠隔操作できるように設定する

ここで説明する内容は、VPNサーバー機能を「PPTP」に設定した場合のみ対応しています。

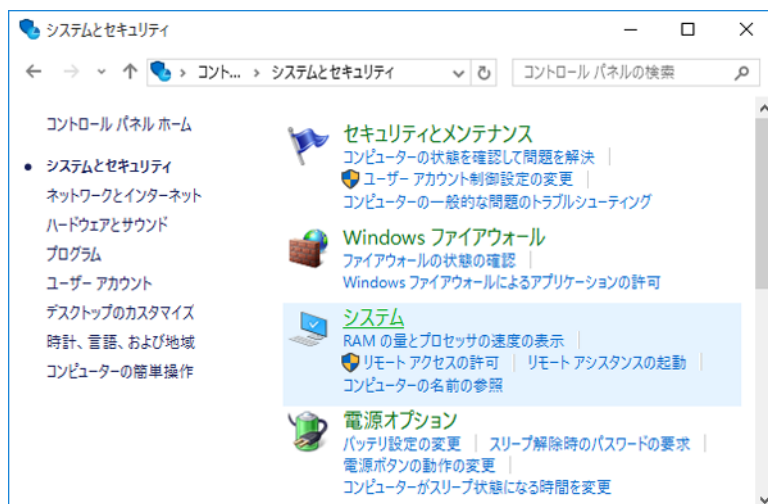
自宅や会社の端末を外出先から遠隔操作できるようにするには、端末側が同機能に対応している必要があります。ここでは例としてWindows 10/8.1/7/Vista、OS X 10.10の場合の手順を説明しますが、OSのエディション（Pro、Home Premium、Ultimateなどの種別）の違いによっては、端末側が遠隔操作に対応していないため、下記のとおり設定できない場合があります。

Windows 10/8.1をお使いの場合

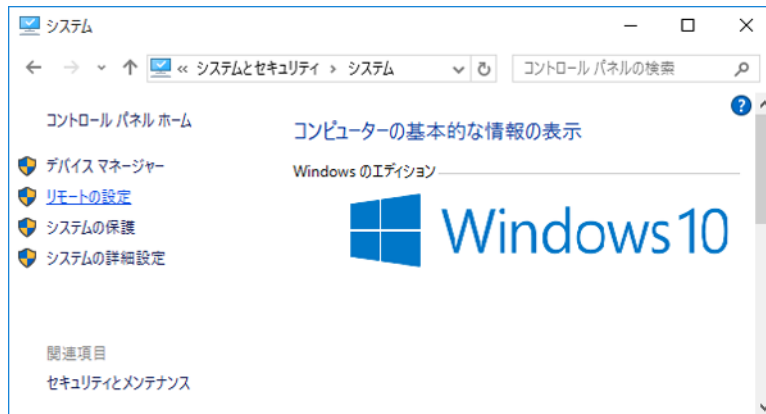
- 1 [コントロールパネル]を表示します。
- 2 [システムとセキュリティ]をクリックします。



- 3 [システム]をクリックします。

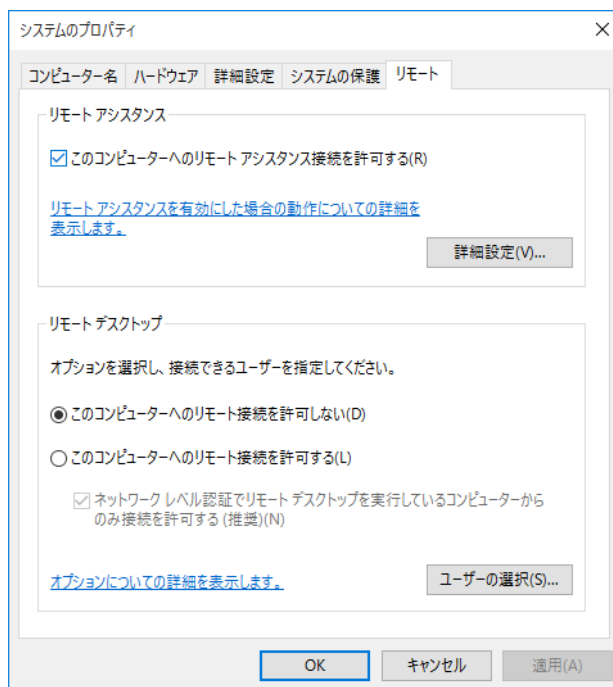


4 [リモートの設定]をクリックします。



メモ:「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックします。

5 「このコンピューターへのリモート接続を許可する」を選択し、[OK]をクリックします。



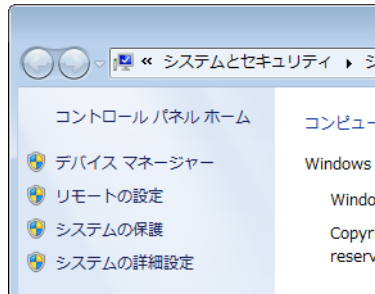
以上で設定は完了です。

Windows 7/Vistaをお使いの場合

1 [スタート]をクリックします。

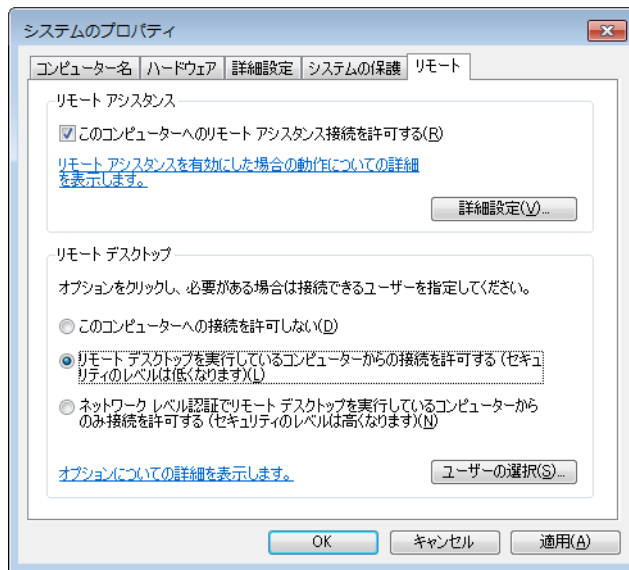
2 「コンピューター」を右クリックして、「プロパティ」を選択します。

3 [リモートの設定]をクリックします。



メモ:「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックします。

4 「リモートデスクトップを実行しているコンピューターからの接続を許可する」を選択し、[OK]をクリックします。



以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

ここでは、OS X 10.10の画面を例に説明します。

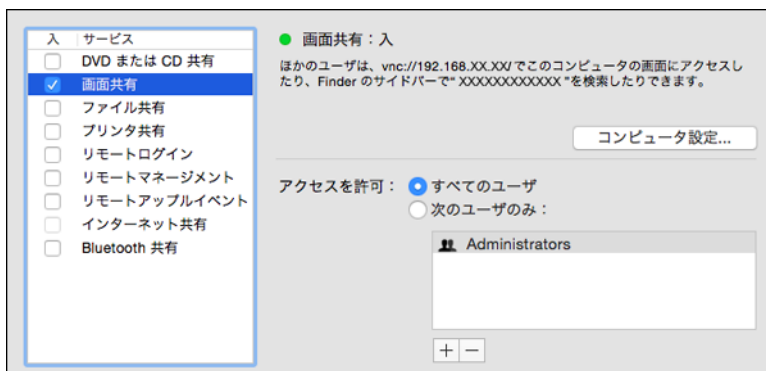
1 [アップルメニュー]－[システム環境設定]をクリックします。



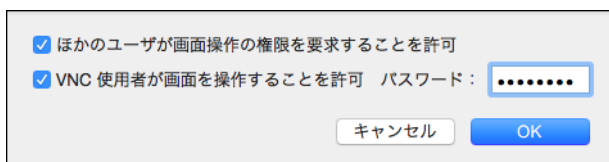
2 「共有」をクリックします。



3 「画面共有」の「入」にチェックを入れ、「アクセスを許可」を「すべてのユーザ」に設定して、「コンピュータ設定」をクリックします。



4 「ほかのユーザが画面操作の権限を要求することを許可」と「VNC使用者が画面を操作することを許可」にチェックを入れて、パスワードを入力し、「OK」をクリックします。



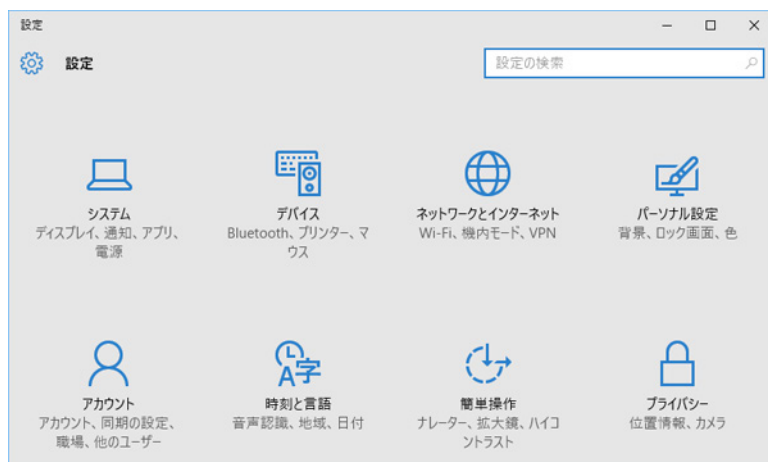
以上で設定は完了です。

外出先から自宅や会社のネットワークに接続する

メモ: ここでの操作は外出先から行います。自宅(LAN内)からは接続できません。

Windows 10をお使いの場合

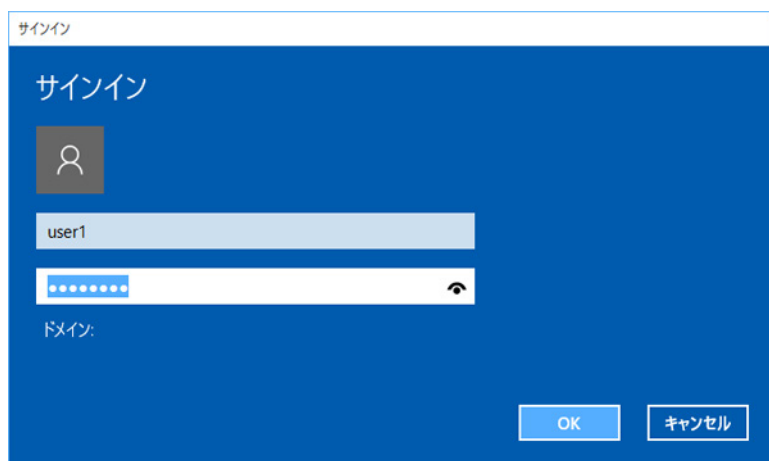
- 1 左下のWindowsロゴ(スタート)をクリックしてスタートメニューを表示させ、[設定]をクリックします。
- 2 [ネットワークとインターネット]をクリックします。



- 3 [VPN]をクリックし、本章の「外出先で使用する端末の設定をする」の手順6で作成した接続先をクリックして、[接続]をクリックします。



- 4** 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順8で登録したユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。



以上で設定は完了です。

Windows 8.1をお使いの場合

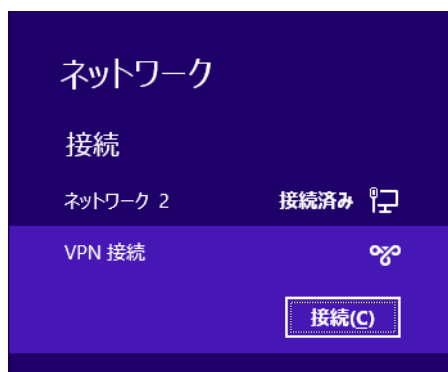
- 1** [コントロールパネル]を表示します。
- 2** [ネットワークとインターネット]をクリックします。



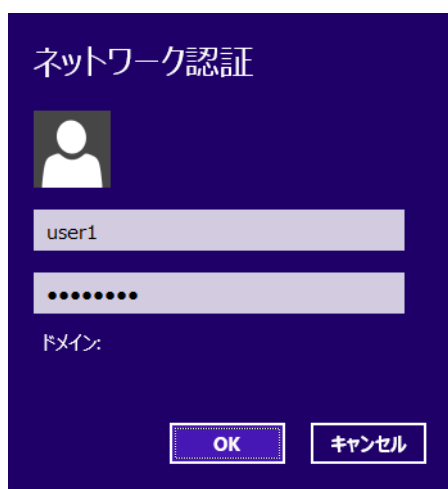
- 3** [ネットワークに接続]をクリックします。



- 4** 本章の「外出先で使用する端末の設定をする」の手順6で作成した接続先をクリックし、[接続]をクリックします。



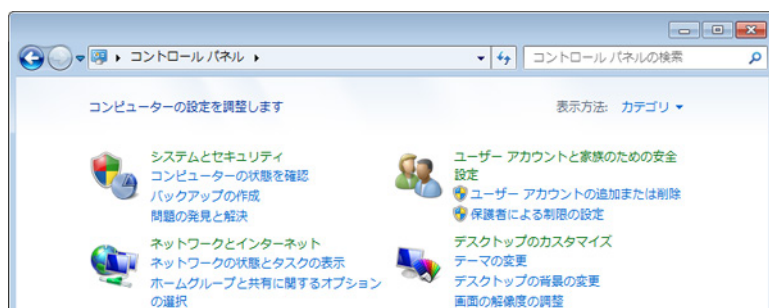
- 5** 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順8で登録したユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。



以上で設定は完了です。

Windows 7をお使いの場合

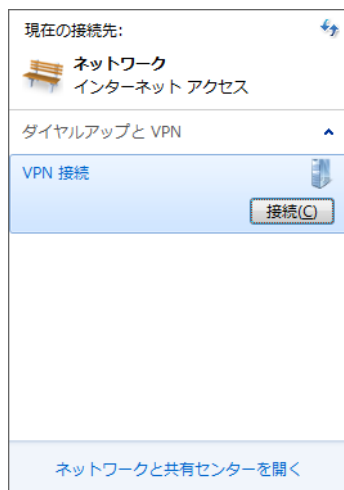
- 1** [コントロールパネル]を表示します。
- 2** [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。



3 [ネットワークに接続]をクリックします。



4 本章の「外出先で使用する端末の設定をする」の手順6で作成した接続先をクリックし、[接続]をクリックします。



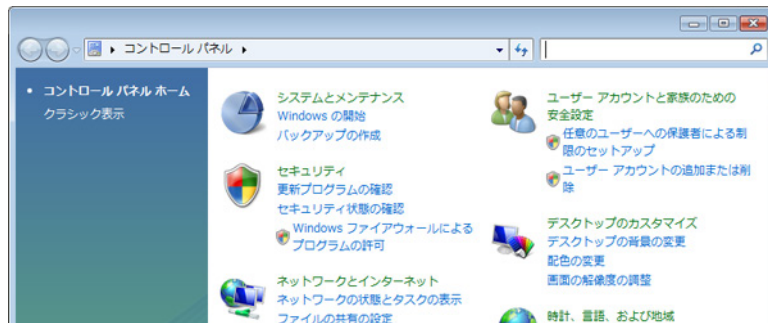
5 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順8で登録したユーザー名とパスワードを入力し、[接続]をクリックします。



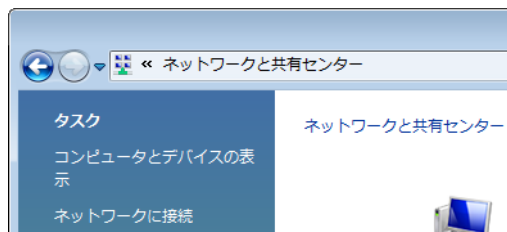
以上で設定は完了です。

Windows Vistaをお使いの場合

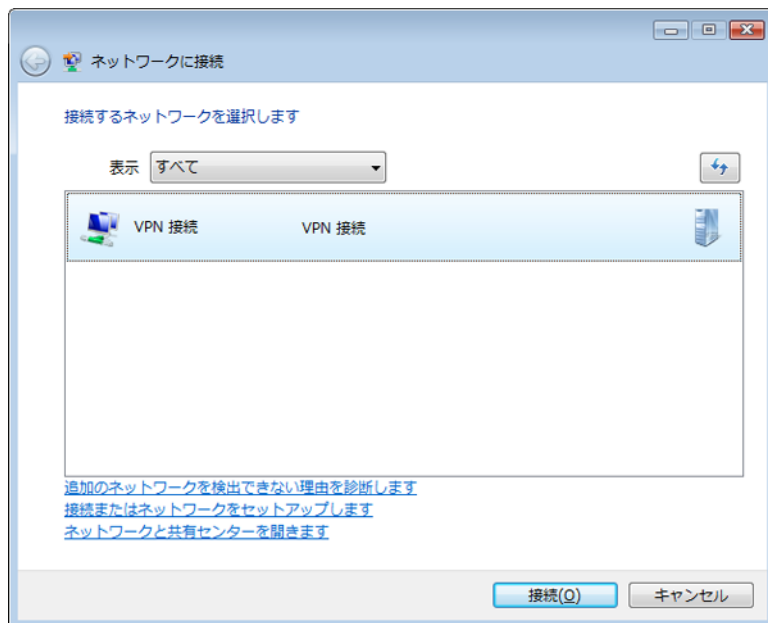
- 1 [コントロールパネル]を表示します。
- 2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。



- 3 [ネットワークに接続]をクリックします。



- 4 本章の「外出先で使用する端末の設定をする」の手順6で作成した接続先をクリックし、[接続]をクリックします。



- 5 本章の「外出先から接続するための準備をする」の手順8で登録したユーザー名とパスワードを入力し、[接続]をクリックします。



以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

ここでは、OS X 10.10の画面を例に説明します。

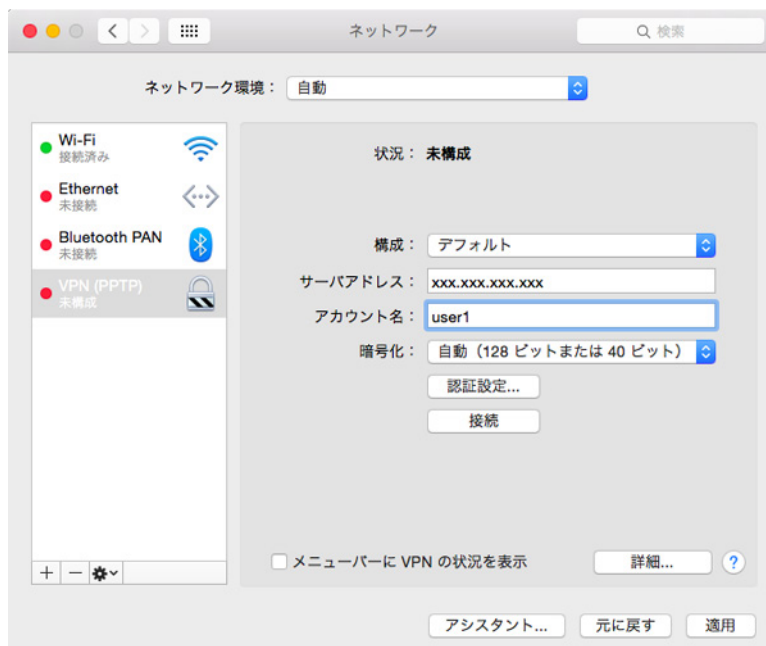
- 1 [アップルメニュー]－[システム環境設定]をクリックします。



- 2 「ネットワーク」をクリックします。



- 3** 本章の「外出先で使用する端末の設定をする」の手順4で作成した接続先を選択し、[接続]をクリックします。



以上で設定は完了です。

iPad/iPhone/iPod touchをお使いの場合

ここでは、iOS 9.0の画面を例に説明します。

- 1** [設定]をタップします。



- 2** [VPN]をオンにします。

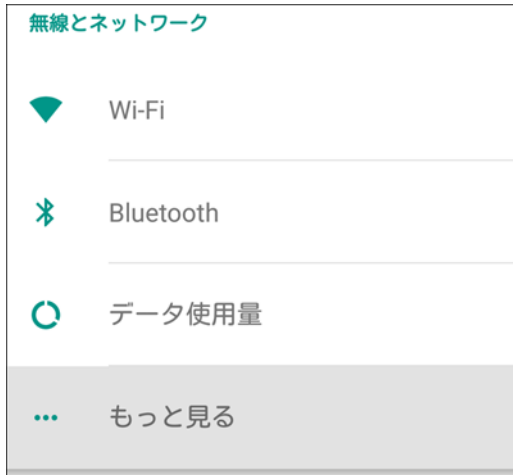


以上で設定は完了です。

Android端末をお使いの場合

ここでは、Android 5.1の画面を例に説明します。

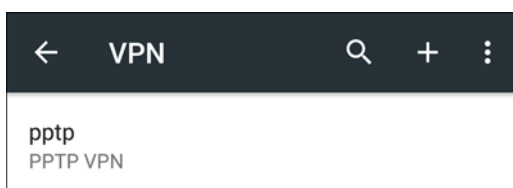
- 1 Android端末の設定画面を表示します。
- 2 無線とネットワークの[もっと見る](または[その他])をタップします。



- 3 [VPN]をタップします。



- 4 登録した接続先をタップします。



5 ユーザー名とパスワードを入力して、[接続]をタップします。



pptpに接続

ユーザー名
user1

パスワード
.....

☐ アカウント情報を保存する

キャンセル 接続

ユーザー名:

「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したユーザー名を設定します。

パスワード:

「外出先から接続するための準備をする」の手順8で設定したパスワードを設定します。

アカウント情報を保存する:

ユーザー名とパスワードを保存する場合は、タップしてチェックを入れます。

以上で設定は完了です。

外出先から自宅や会社の端末を遠隔操作する

ここで説明する内容は、VPNサーバー機能を「PPTP」に設定した場合のみ対応しています。ここでは例として、Windows同士、またはMac同士を遠隔操作する方法を説明します。

Windows 10から遠隔操作する場合

メモ:

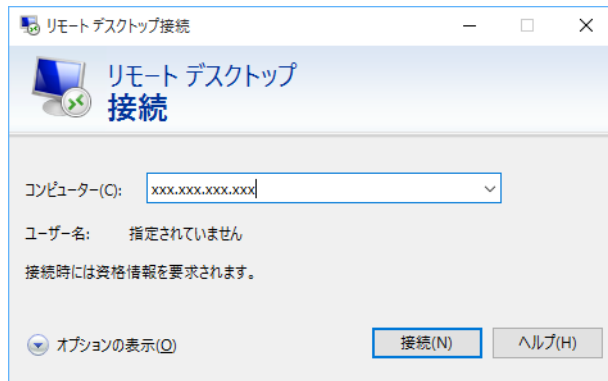
- (1) 以下の手順は、「リモートデスクトップ接続」を使用した場合の例です。
- (2) 以下の場合は、遠隔操作できないことがあります。
 - Windowsのエディションの違いにより、端末が遠隔操作に対応していない場合。
 - Windowsログイン時のパスワードが設定されていない場合。
 - セキュリティソフトなどがインストールされており、ファイアウォール機能が有効になっている場合など。

1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。

2 リモートデスクトップ接続を表示します。

左下のWindowsロゴ(スタート)からアプリの一覧を表示し、[Windowsアクセサリ] - [リモートデスクトップ接続]をクリックします。

- 3 操作したい端末のIPアドレスを入力して、[接続]をクリックします。



- 4 操作したい端末に登録されているユーザー名、パスワードを入力して、[OK]をクリックします。接続が完了すると、接続先端末のデスクトップが表示されます。

以上で設定は完了です。

Windows 8.1から遠隔操作する場合

メモ:

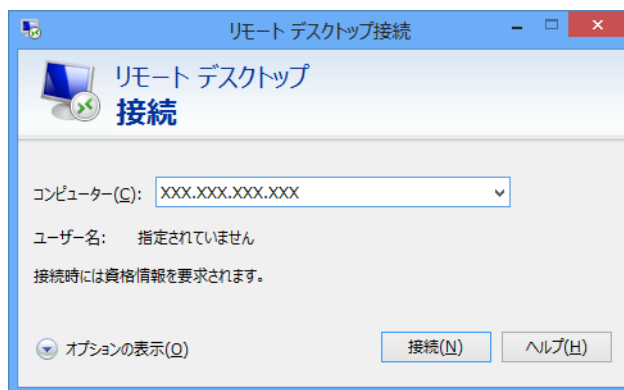
- 以下の手順は、Windows 8.1用「リモートデスクトップ接続(Terminal Server クライアント)」を適用した場合の例です。
- 以下の場合は、遠隔操作できないことがあります。あらかじめご了承ください。
 - Windowsのエディションの違いにより、端末が遠隔操作に対応していない場合。
 - Windowsログイン時のパスワードが設定されていない場合。
 - セキュリティソフトなどがインストールされており、ファイアウォール機能が有効になっている場合など。

- 1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。

- 2 リモートデスクトップ接続を表示します。

(パソコンの場合は、「スタート」画面でキーボードの[Ctrl]キーと[Tab]キーを押して、[リモートデスクトップ接続]を選択します。タブレットでは、画面右端を左にスワイプし、[検索]をタップした後、[リモートデスクトップ接続]を選択します。)

- 3 操作したい端末のIPアドレスを入力して、[接続]をクリックします。



- 4 操作したい端末に登録されているユーザー名、パスワードを入力して、[OK]をクリックします。接続が完了すると、接続先端末のデスクトップが表示されます。

以上で設定は完了です。

Windows 7/Vistaから遠隔操作する場合

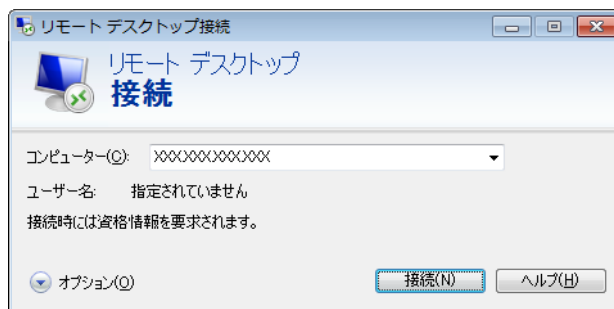
メモ:

- (1) 以下の手順は、Windows 7/Vista用「リモートデスクトップ接続(Terminal Server クライアント 6.0)」を適用した場合の例です。
- (2) 以下の場合は、遠隔操作できないことがあります。あらかじめご了承ください。
 - Windowsのエディションの違いにより、端末が遠隔操作に対応していない場合。
 - Windowsログイン時のパスワードが設定されていない場合。
 - セキュリティソフトなどがインストールされており、ファイアウォール機能が有効になっている場合など。

1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。

2 [スタート]－[(すべての)プログラム]－[アクセサリ]－[リモートデスクトップ接続]をクリックします。

3 操作したい端末のIPアドレスを入力して、[接続]をクリックします。



4 操作したい端末に登録されているユーザー名、パスワードを入力して、[OK]をクリックします。接続が完了すると、接続先端末のデスクトップが表示されます。

以上で設定は完了です。

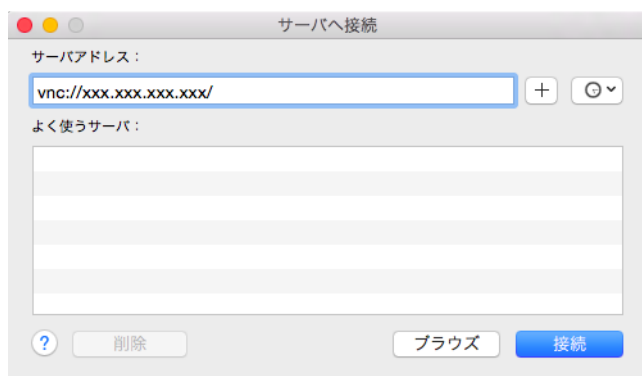
Macから遠隔操作する場合

ここでは、OS X 10.10の画面を例に説明します。

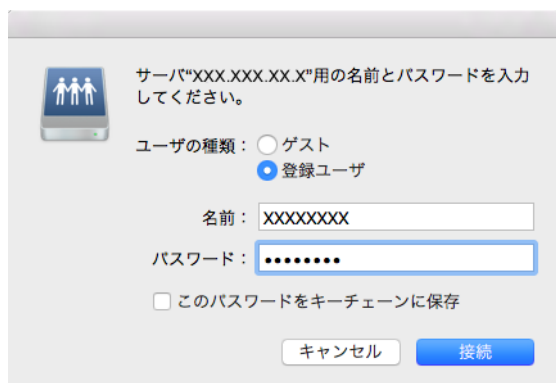
1 [移動]－[サーバへ接続]をクリックします。



2 サーバアドレス欄に「vnc://遠隔操作対象のMacのIPアドレス/」を入力し、[接続]をクリックします。



3 「登録ユーザ」を選択し、遠隔操作対象のMacに設定されているユーザー名とパスワードを入力して、[接続]をクリックします。



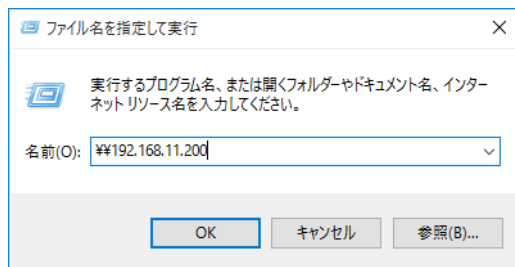
以上で設定は完了です。

外出先から自宅や会社のファイルサーバーにアクセスする

ここで説明する内容は、VPNサーバー機能を「PPTP」に設定した場合のみ対応しています。

Windowsの場合

- 1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。
- 2 「ファイル名を指定して実行」を表示します。
Windows 10/8.1の場合は、タスクバー上のWindowsロゴ(スタート)を右クリック(タブレットの場合は長押し)し、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
Windows 7/Vistaの場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[アクセサリ]－[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 3 名前欄に「¥¥(ファイルサーバーのIPアドレス)」(例:¥¥192.168.11.200など)の形式で入力して、[OK]をクリックします。



メモ: ユーザー名とパスワードの入力欄が表示されたら、ファイルサーバーに登録されているユーザー名とパスワードを入力してください。

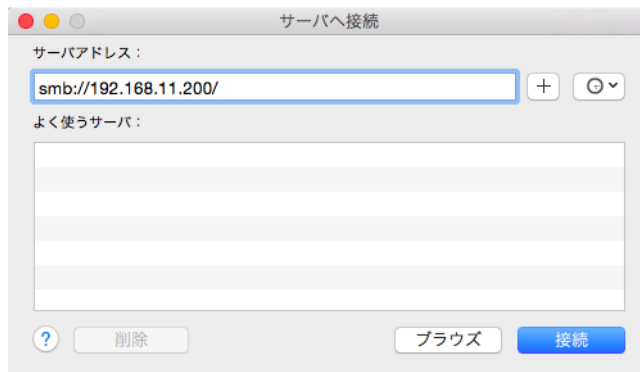
- 4 ファイルサーバーの共有フォルダーが表示されます。

以上で設定は完了です。

Macの場合

ここでは、OS X 10.10の画面を例に説明します。

- 1 本章の「外出先から自宅や会社のネットワークに接続する」の手順で、外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。
- 2 Macのメニューバーより、[移動]－[サーバへ接続]を選択します。
- 3 サーバアドレス欄に「smb://(ファイルサーバーのIPアドレス)」(例:smb://192.168.11.200など)の形式で入力して、[接続]をクリックします。



メモ: ユーザー名とパスワードの入力欄が表示されたら、ファイルサーバーに登録されているユーザー名とパスワードを入力してください。

- 4 ファイルサーバーの共有フォルダーが表示されます。

以上で設定は完了です。

第6章 困ったときは

「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」などのIPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない

原因1 IPv4 over IPv6通信サービスへ切り替わるまでに時間がかかっている

申し込み後、サービスが切り替わるまでに時間がかかる場合があります。
切り替え状況については、プロバイダーにご確認ください。

原因2 本製品にPPPoE接続設定が残っている

本製品にPPPoE接続設定が残っている場合、新しいサービス (IPv4 over IPv6通信サービス) を検出する前に、今までのサービス (PPPoE) でつながる場合があります。
以下の手順で、PPPoE接続設定をOFFにしてください。

1 第2章の「設定画面を表示する」を参照して本製品の設定画面を表示します。

2 [詳細設定]－[Internet]－[Internet]をクリックします。

3 IPアドレス取得方法の設定を確認します。

「インターネット@スタートを行う」設定の場合 (以下のいずれかの場合) は、手順4以降を行ってください。

メモ:「インターネット@スタートを行う」以外の場合は、以下の手順4以降は不要です。サービスが切り替わるまでに時間がかかっていることが考えられるため、切り替え状況をプロバイダーにご確認ください。

4 [詳細設定]－[Internet]－[PPPoE]をクリックします。

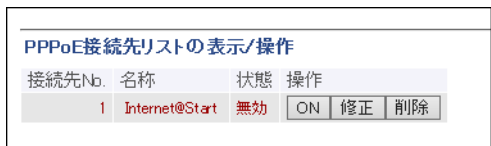
5 PPPoE接続リストの[接続先の編集]をクリックします。



6 PPPoE接続先リストの表示/操作で、操作欄にある[OFF]をクリックします。



7 手順6でOFFにした設定の状態が「無効」になったことを確認します。



以上で完了です。

インターネットにつながらない

原因1 動作モードの設定が間違っている

動作モードの設定が間違っていることが考えられます。

本製品をルーターとして動作させる場合は、左側面のAUTO/MANUALスイッチを「AUTO」側にして、ROUTERランプが白色に点灯するのを確認してください。

原因2 プロバイダーから提供された機器の電源が入っていない

プロバイダーから提供された機器と本製品がLANケーブルで正しく接続されているにもかかわらずインターネットに接続できない場合は、電源が入っているか確認してください。

原因3 端末が本製品に接続されていない

エアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、端末と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ:

- ・ エアステーション設定ツールの使いかたは、本書の第4章の「エアステーション設定ツールの使いかた」を参照してください。
- ・ 無線での接続方法は、製品添付の取扱説明書を参照してください。

原因4 インターネットの設定が間違っている

製品添付の取扱説明書を参照して、インターネットの設定をやり直してください。

無線接続が切れる/不安定

原因1 アンテナが緩んでいる

アンテナは、工具などを使用せず、挿し込み口付近を回して取り付けてください。アンテナの向きを変更する場合は、アンテナ上部をつかんで時計回りに回してください。取り付ける際は、アンテナコネクタに直接手を触れないよう注意してください。

原因2 本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、もう一度オンにしてください。

原因3 本製品と端末との距離が遠い

本製品と端末との距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。端末を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因4 本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になる場合があります。

それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因5 本製品のファームウェアが古い

上記1～4の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続いたりする場合は、本製品のファームウェアを最新版に更新してください。

原因6 端末のドライバーが古い

上記1～5の対策を行っても、本製品との無線接続が切れたり不安定な状況が続いたりする場合は、端末のドライバー(ソフトウェア)を最新版に更新してください。

無線でつながらない

原因1 本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、もう一度オンにしてください。

原因2 本製品と端末との距離が遠い

本製品と端末との距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。端末を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因3 セキュリティソフトが動作している

端末にウイルス対策ソフトなどのセキュリティソフトがインストールされている場合、無線接続設定に失敗することがあります。いったんセキュリティソフトを終了して、無線接続設定を完了させてからセキュリティソフトを起動してください。

原因4 無線接続の設定が間違っている

無線接続の設定が間違っていると、本製品に無線で接続できません。製品添付のマニュアルを参照して、接続してください。

原因5 本製品にANY接続拒否やMACアクセス制限の設定がされている

本製品にANY接続拒否の設定がされていると、無線機器から検索しても本製品が表示されません。その場合は、ANY接続拒否を解除してから接続してください。

本製品にMACアクセス制限の設定がされていると、そのままでは本製品に無線接続できません。端末のMACアドレスを本製品に登録してから無線接続してください。

AOSSで無線接続できない

AOSSに対応した端末(テレビ、レコーダー、ゲーム機、その他携帯端末など)のうち、一部の端末では、AOSSで本製品に無線接続できないことがあります。

その場合は、WPS(プッシュボタン式)で接続するか、お使いの端末から本製品を検索して無線接続してください。

WPS(プッシュボタン式)で接続する場合

- 1 お使いの端末の無線接続設定画面を表示します。
- 2 WPS(プッシュボタン式)を選択して、接続を開始します。
- 3 本製品左側面のAOSSボタンを約1秒間押します。
- 4 しばらくすると、お使いの端末と本製品の無線接続が完了します。

お使いの端末から本製品を検索して接続する場合

- 1 本製品背面からセットアップカードを取り出します。
- 2 お使いの端末の無線接続設定画面を表示します。
- 3 お使いの端末から接続先を検索し、セットアップカードに記載のSSIDと同じ値を選択します。
- 4 パスワードの入力画面が表示されたら、セットアップカードに記載の暗号化キーを入力します。
- 5 しばらくすると、お使いの端末と本製品の無線接続が完了します。

設定画面が表示できない

原因1 本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品の電源をオフにして、もう一度オンにしてください。

原因2 端末が本製品に接続されていない

エアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、端末と本製品をLANケーブルまたは無線で接続してください。

メモ:

- エアステーション設定ツールの使いかたは、本書の第4章の「エアステーション設定ツールの使いかた」を参照してください。
- 無線での接続方法は、製品添付の取扱説明書を参照してください。

無線での通信が遅い

原因1 本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、無線による通信が不安定になり、通信速度が低下する場合があります。

それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因2 倍速設定が無効になっている

本製品の2.4GHzの倍速設定は、出荷時の状態で無効に設定されています。倍速設定を有効に設定することで、無線での通信速度が速くなる場合があります。

メモ:

- 本製品の設定だけでなく、お使いの端末の設定も必要になる場合があります。
- 倍速設定は、通常(20MHz)以上の帯域を使って通信します。2.4GHz帯を使用する機器が周囲に多くあり、電波環境が悪い場合は、通信速度が向上しないことがあります。

設定を出荷時の状態に戻したい

本製品の設定を出荷時の状態に戻したい場合は、背面のRESETボタンを前面のPOWERランプが白色に点滅するまで(約3秒間)押し続けてください。その後、本製品が再起動したら設定の初期化は完了です。

第7章 付録

製品仕様

無線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.11ac/IEEE 802.11n/IEEE 802.11a/IEEE 802.11g/IEEE 802.11b ARIB STD-T71 (IEEE 802.11ac/IEEE 802.11a) ARIB STD-T66 (IEEE 802.11g/IEEE 802.11b) (小電力データ通信システム規格)
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多重変調(MIMO-OFDM)方式 直交周波数分割多重変調(OFDM)方式 直接拡散型スペクトラム拡散(DS-SS)方式 単信(半二重)
周波数範囲(中心周波数)	IEEE 802.11ac/IEEE 802.11a: W52 36/40/44/48ch (5180～5240MHz) W53 52/56/60/64ch (5260～5320MHz) W56 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch (5500～5700MHz) IEEE 802.11g/IEEE 802.11b: 1～13ch (2412～2472MHz) 基本的に携帯電話、コードレスフォン、テレビ、ラジオなどとは混信しません が、これらの機器が、2.4GHz帯の無線を使用する場合や電子レンジが動作し ている場合は、電波干渉によって通信障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
セキュリティ	AOSS、WPA2-PSK(AES)、WPA/WPA2 mixed PSK(TKIP/AES mixed)、WEP (128-bit/64-bit)、プライバシーセパレーター、ANY接続拒否/SSIDステルス、 MACアクセス制限

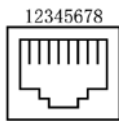
802.11acデータ転送速度 (オートセンス)	IEEE 802.11ac 20MHz BW <Long GI>: 312/260/234/208/156/104/78/52/26Mbps (4 streams) 260/234/195/175.5/156/117/78/58.5/39/19.5Mbps (3 streams) 156/130/117/104/78/52/39/26/13Mbps (2 streams) 78/65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5Mbps (1 stream) IEEE 802.11ac 20MHz BW <Short GI>: 346.7/288.9/260/231.1/173.3/115.6/86.7/57.8/28.9Mbps (4 streams) 288.9/260/216.7/195/173.3/130/86.7/65/43.3/21.7Mbps (3 streams) 173.3/144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4Mbps (2 streams) 86.7/72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2Mbps (1 stream) IEEE 802.11ac 40MHz BW <Long GI>: 720/648/540/486/432/324/216/162/108/54Mbps (4 streams) 540/486/405/364.5/324/243/162/121.5/81/40.5Mbps (3 streams) 360/324/270/243/216/162/108/81/54/27Mbps (2 streams) 180/162/135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5Mbps (1 stream) IEEE 802.11ac 40MHz BW <Short GI>: 800/720/600/540/480/320/240/180/120/60Mbps (4 streams) 600/540/450/405/360/270/180/135/90/45Mbps (3 streams) 400/360/300/270/240/180/120/90/60/30Mbps (2 streams) 200/180/150/135/120/90/60/45/30/15Mbps (1 stream) IEEE 802.11ac 80MHz BW <Long GI>: 1560/1404/1170/1053/936/702/468/351/234/117Mbps (4 streams) 1170/1053/877.5/702/526.5/351/263.3/175.5/87.8Mbps (3 streams) 780/702/585/526.5/468/351/234/175.5/117/58.5Mbps (2 streams) 390/351/292.5/263.3/234/175.5/117/87.8/58.5/29.3Mbps (1 stream) IEEE 802.11ac 80MHz BW <Short GI>: 1733/1560/1300/1170/1040/780/520/390/260/130Mbps (4 streams) 1300/1170/975/780/585/390/292.5/195/97.5Mbps (3 streams) 866.7/780/650/585/520/390/260/195/130/65Mbps (2 streams) 433.3/390/325/292.5/260/195/130/97.5/65/32.5Mbps (1 stream)
802.11n/a/g/bデータ転送速度 (オートセンス)	IEEE 802.11n 20MHz BW <Long GI>: 260/234/208/156/104/78/52/26Mbps (4 streams) 195/175.5/156/117/78/58.5/39/19.5Mbps (3 streams) 130/117/104/78/52/39/26/13Mbps (2 streams) 65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 20MHz BW <Short GI>: 288.9/260/231.1/173.3/115.6/86.7/57.8/28.9Mbps (4 streams) 216.7/195/173.3/130/86.7/65/43.3/21.7Mbps (3 streams) 144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4Mbps (2 streams) 72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz BW <Long GI>: 540/486/432/324/216/162/108/54Mbps (4 streams) 405/364.5/324/243/162/121.5/81/40.5Mbps (3 streams) 270/243/216/162/108/81/54/27Mbps (2 streams) 135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz BW <Short GI>: 600/540/480/360/240/180/120/60Mbps (4 streams) 450/405/360/270/180/135/90/45Mbps (3 streams) 300/270/240/180/120/90/60/30Mbps (2 streams) 150/135/120/90/60/45/30/15Mbps (1 stream) IEEE 802.11a/IEEE 802.11g: 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps IEEE 802.11b: 11/5.5/2/1Mbps

2.4GHz 拡張転送速度 (オートセンス)	IEEE 802.11n 20MHz BW <Long GI>: 312Mbps (4 streams) 234Mbps (3 streams) 156Mbps (2 streams) 78Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 20MHz BW <Short GI>: 346.7Mbps (4 streams) 260Mbps (3 streams) 173.3Mbps (2 streams) 86.7Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz BW <Long GI>: 720/648Mbps (4 streams) 540/486Mbps (3 streams) 360/324Mbps (2 streams) 180/162Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz BW <Short GI>: 800/720Mbps (4 stream) 600/540Mbps (3 stream) 400/360Mbps (2 stream) 200/180Mbps (1 stream)
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.3 ab (1000BASE-T) / IEEE 802.3u (100BASE-TX) / IEEE 802.3 (10BASE-T)
データ転送速度	10/100/1000Mbps (自動認識)
データ伝送モード	半二重/全二重 (自動認識)
伝送路符号化方式	8B1Q4/PAM5 (1000BASE-T) / 4B5B/MLT-3 (100BASE-TX) / マンチェスターコーディング (10BASE-T)
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	1000 BASE-T/100 BASE-TX/10 BASE-T 兼用端子 (AUTO-MDIX)
USBインターフェース	
準拠規格	USB 3.0
端子	USB 3.0端子×1
その他	
電源	AC 100 50/60Hz
消費電力	30.0W (最大)
外形寸法	160.9 (H) × 56.5 (D) × 315.7 (W) mm (本体のみ)
質量	約740g (本体のみ)
動作環境	0~40℃、10~85% (結露しないこと) 本製品は屋内使用に限ります。

端子仕様

LAN端子/Internet端子仕様

コネクタ形状 (RJ-45型8極コネクタ)



100BASE-TX/10BASE-T		
ピン番号	信号名	信号機能
1	RD+/TD+	受信データ (+)/送信データ (+)
2	RD-/TD-	受信データ (-)/送信データ (-)
3	TD+/RD+	送信データ (+)/受信データ (+)
4	(Not Use)	未使用
5	(Not Use)	未使用
6	TD-/RD-	送信データ (-)/受信データ (-)
7	(Not Use)	未使用
8	(Not Use)	未使用
1000BASE-T		
ピン番号	信号名	信号機能
1	BI_DA+/BI_DB+	送受信データA (+)/送受信データB (+)
2	BI_DA-/BI_DB-	送受信データA (-)/送受信データB (-)
3	BI_DB+/BI_DA+	送受信データB (+)/送受信データA (+)
4	BI_DC+/BI_DD+	送受信データC (+)/送受信データD (+)
5	BI_DC-/BI_DD-	送受信データC (-)/送受信データD (-)
6	BI_DB-/BI_DA-	送受信データB (-)/送受信データA (-)
7	BI_DD+/BI_DC+	送受信データD (+)/送受信データC (+)
8	BI_DD-/BI_DC-	送受信データD (-)/送受信データC (-)

メモ: AUTO-MDIX機能により、送信/受信データを自動的に切り替えます。

初期設定一覧

機能	パラメーター	出荷時設定
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う
	デフォルトゲートウェイ	—
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	—
	Internet側MACアドレス	デフォルトのMACアドレスを使用
	Internet側MTU値	1500バイト
PPPoE	デフォルトの接続先	未設定
	IP Unnumbered使用時の接続先	未設定
	PPPoE接続先リスト	未設定
	接続先経路の表示	未設定
DDNS	ダイナミックDNS機能	使用しない
VPNサーバー	VPNサーバー機能	使用しない
	サーバーIPアドレス	自動設定
	クライアントIPアドレス	自動設定
	DNSサーバーのIPアドレス	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーのIPアドレス	未設定
	MTU/MRU値	未設定
	VPN接続ユーザー	未設定
アドレス変換	アドレス変換	使用する
IPv6	IPv6接続方法	インターネット@スタートを行う
LAN	LAN側IPアドレス	IPアドレス: 192.168.11.1 サブネットマスク: 255.255.255.0
	DHCPサーバー機能	使用する
	割り当てIPアドレス	192.168.11.2から64台
	LAN側IPアドレス(IP Unnumbered用)	—
	拡張設定	表示しない
	リース期間	48時間
	デフォルトゲートウェイの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	DNSサーバーの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーの通知	通知しない
	ドメイン名の通知	取得済みのドメイン名
DHCPリース	リース情報	未設定
経路情報	経路情報	—
2.4GHz 5GHz	無線機能	使用する
	無線チャンネル	自動
	倍速モード	2.4GHz: 346.7Mbps (20MHz)、拡張チャンネルは自動設定 5GHz: 1733Mbps (80MHz)

機能	パラメーター	出荷時設定		
2.4GHz 5GHz	ANY接続	許可する		
	SSID 1	使用する		
	隔離機能	使用しない		
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定		
	無線の認証	WPA2-PSK		
	無線の暗号化	AES		
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値		
	Key更新間隔	60分		
	SSID 2	使用しない		
	隔離機能	使用しない		
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定		
	WEP暗号化キー設定	未設定		
	Multicast Rate	自動		
	DTIM Period	1		
	プライバシーセパレーター	使用しない		
	送信出力	100%		
	WMM設定	表示しない		
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_BK(低い))		AP用	STA用
		CWmin	15	15
		CWmax	1023	1023
		AIFSN	7	7
		TXOP Limit	0	0
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_BE(普通))		AP用	STA用
		CWmin	15	15
		CWmax	63	1023
		AIFSN	3	3
		TXOP Limit	0	0
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_VI(優先))		AP用	STA用
		CWmin	7	7
		CWmax	15	15
		AIFSN	1	2
		TXOP Limit	94	94
		Admission Control	-----	無効
	WMM-EDCAパラメーター(優先度 AC_VO(最優先))		AP用	STA用
		CWmin	3	3
		CWmax	7	7
		AIFSN	1	2
		TXOP Limit	47	47
		Admission Control	-----	無効

機能	パラメーター	出荷時設定
WPS	WPS機能	使用する
	外部Registrar	要求を受け付ける
	エアステーションPINコード	製品固有の8桁のPINコードが設定済み
	EnrolleeのPINコード	空欄
	WPS用無線セキュリティ設定	WPSステータス: Configured セキュリティ: WPA2-PSK AES SSID/暗号鍵: 製品付属のセットアップカードに記載の値
AOSS	AOSS状態	AOSS 無効
	WEPをゲーム専用にする	使用しない
	本体側AOSSボタン	使用する
MACアクセス制限	無線パソコンの接続	制限しない
	登録リスト	未登録
マルチキャスト制御	Snooping機能	使用する
	マルチキャストAging Time	300秒
ゲストポート	ゲストポート機能	使用しない
	ゲストユーザー認証機能	使用しない
	ゲストポート用LAN側IPアドレス	自動設定
	利用可能時間	3時間
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	認証を行わない
	無線の暗号化	暗号化なし
	ゲストユーザー	未登録
無線引っ越し機能	無線引っ越し状態	未実施
ファイアウォール	ファイアウォール設定 - IPv4	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する 無効 IDENTの要求を拒否する 有効 Internet側からのPINGに応答しない 有効
	ファイアウォール設定 - IPv6	Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する 有効 IDENTの要求を拒否する 有効 Internet側からのPINGに応答しない 無効 Internet側からの接続要求を転送しない 有効
IPフィルター	IPフィルター登録情報	未設定
IPv6フィルター	IPv6フィルター登録情報	未設定
VPNパススルー	PPPoEパススルー機能	使用しない
	PPTPパススルー	使用する
ポート変換	ポート変換登録情報	未設定
DMZ	DMZのアドレス	未設定
UPnP	UPnP機能	使用する
アクセスコントロール	アクセスコントロール	使用しない

機能	パラメーター	出荷時設定
ディスク管理	USBディスクの自動割当	使用する
	拡張機能	表示しない
	FATフォーマットファイル名文字コード	日本語 Shift_JIS (CP932)
	HDD節電機能	使用しない
	ユーザー情報	未登録
共有サービス	共有フォルダー機能	使用する
	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	エアステーション説明	未設定
	ワークグループ名	WORKGROUP
	Windowsクライアント言語	日本語 Shift_JIS (CP932)
アドバンスドQoS	アドバンスドQoS機能	使用しない
	おもな用途	ビデオの視聴
	手動設定	ビデオ: 優先度 1(高) 会議: 優先度 2(高) ゲーム: 優先度 3(中) オーディオ: 優先度 4(中) ブラウジング: 優先度 5(低) ダウンロード: 優先度 6(低)
	ユーザー設定	未登録
システム設定	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	管理ユーザー名	admin(変更することはできません)
	管理パスワード	password
	無線LANからの設定を禁止する	無効
	有線LANからの設定を禁止する	無効
	Internet側リモートアクセス設定を許可する	無効
	デバイスに対しポートスキャンを実行する	無効
	NTP機能	使用する
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
	確認時間	24時間毎
	タイムゾーン	(GMT + 09:00) 東京、大阪、ソウル
ログ	ログ情報転送機能	使用しない
	Syslogサーバー	未設定
	転送するログ情報	アドレス変換、IPフィルタ、ファイアウォール、PPPクライアント、ダイナミックDNS、DHCPクライアント、DHCPサーバー、AOSS、無線、認証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、有線リンク、USB、システム
	詳細なログ取得	取得しない

機能	パラメーター	出荷時設定
ファームウェア更新	更新方法	ローカルファイル指定
	ファームウェアファイル名	空欄
	ファームウェア自動更新機能	重要な更新のみ行う
	更新時刻	毎日4:00～4:59

壁面への取り付けについて

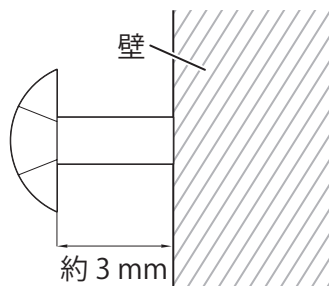
市販のネジを使用すると、本製品を壁面へ取り付けることができます。

壁面への取り付け手順は、以下を参照してください。

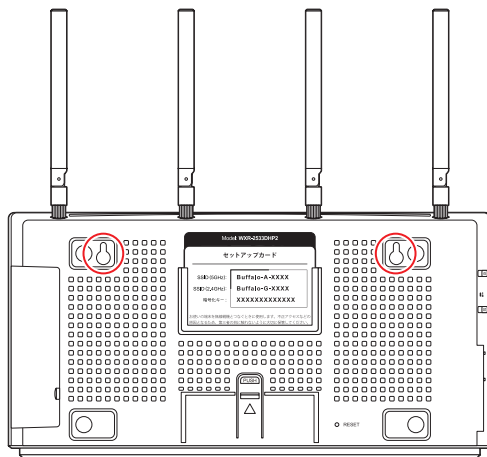
- 1 壁の2箇所に、横に192mmの間隔でねじを留めます。

メモ: ねじは、M3.1の丸頭木ねじ(丸木ねじ)を使用してください。ねじの長さは30mm以上を目安とし、壁の材質などに応じて調整してください。

- 2 ねじ頭が壁から約3mm飛び出した状態にしておきます。



- 3 本製品背面の壁掛け用ねじ固定穴にねじを掛けて固定します。



参考情報

以下は、本製品を中継機として使用する設定を行う際に参照する参考情報です。

Windows 10の場合の設定

- 1 タスクバー上のWindowsロゴ(スタート)をクリックして表示されるメニューから、[Windowsシステムツール]－[コントロールパネル]を選択します。
- 2 「ネットワークの状態とタスクの表示」－「アダプター設定の変更」をクリックします。
- 3 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
メモ:「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。
- 4 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。
- 5 以下のように設定して、[OK]をクリックします。
 - ・「次のIPアドレスを使う」を選択
 - ・ IPアドレス「192.168.11.135」
 - ・ サブネットマスク「255.255.255.0」
 - ・ デフォルトゲートウェイは空欄
 - ・ 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
 - ・ 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄
- 6 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 8.1の場合の設定

- 1 デスクトップ画面を表示させます。
- 2 画面右下隅にポインターを移動させ、そのまま上方向に移動させるとチャームが表示されるので、[設定]をクリックします。
- 3 [コントロールパネル]をクリックします。
- 4 「ネットワークの状態とタスクの表示」－「アダプター設定の変更」をクリックします。
- 5 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
メモ:「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。
- 6 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

7 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- ・ 「次のIPアドレスを使う」を選択
- ・ IPアドレス「192.168.11.135」
- ・ サブネットマスク「255.255.255.0」
- ・ デフォルトゲートウェイは空欄
- ・ 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- ・ 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

8 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 7/Vistaの場合の設定

1 「スタート」メニューから、[コントロールパネル]を選択します。

2 ネットワーク接続の画面を表示します。

(ネットワークと共有センターの「アダプター設定の変更」をクリックします)

3 無線接続の場合は「ワイヤレスネットワーク接続」を、LANケーブルで接続の場合は「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

メモ:「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。

4 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

5 以下のように設定して、[OK]をクリックします。

- ・ 「次のIPアドレスを使う」を選択
- ・ IPアドレス「192.168.11.135」
- ・ サブネットマスク「255.255.255.0」
- ・ デフォルトゲートウェイは空欄
- ・ 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
- ・ 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄

6 [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Macの場合の設定

- 1** システム環境設定を表示します。
- 2** ネットワークをクリックします。
- 3** 無線接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「Ethernet」を選択します。
- 4** IPv4の設定で「手入力」を選択します。（「Wi-Fi」を選択した場合は「詳細...」をクリックし、「TCP/IP」を選択します。）
- 5** 以下のように設定して、「適用」をクリックします。
 - ・ IPアドレスまたはIPv4アドレス「192.168.11.135」
 - ・ サブネットマスク「255.255.255.0」
 - ・ ルーターは空欄

以上で設定は完了です。

版權・免責事項

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があります。現に購入された製品とは一部異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じて、当社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 本製品は、日本国内での使用を前提に設計・製造されています。日本国外での使用における故障・不具合についての責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品（付属品等を含む）を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。
- 当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合には、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。
- 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。
- 本書に記載された責任は、日本国内においてのみ有効です。

商標・登録商標

BUFFALO™は、株式会社メルコホールディングスの商標です。AirStation™は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では、™、®、©などのマークは記載していません。